

令和8年度 第1回富士市立高等学校在り方審議会次第

日 時： 令和8年7月 13 日(月) 15:00～

会 場： 富士市役所 9 階 第 2 委員会室

1 開 会

2 審議会委員 自己紹介 / オブザーバー自己紹介

3 委嘱状の交付

4 教育長あいさつ

5 委員長及び職務代理者の選出

6 委員長あいさつ（以後、委員長による議事進行）

7 諮問書の手交

8 第 1 回富士市立高等学校の在り方審議会

〔第1章〕 審議会設置の背景

〔第2章〕 富士市及び市立高校の現状整理

〔第3章〕 審議会への諮問

〔第4章〕 市立高校 未来への 2 つの方向性

〔第5章〕 質疑と審議

〔第6章〕 総括 その他(事務連絡等)

9 閉 会

富士市立高等学校在り方審議会委員名簿

任期 自 令和8年6月 1日
至 令和10年3月31日

NO	氏 名	団体名・役職
1	クドウ 工藤 チマキ 千麻琴	商工関係団体の代表者等
2	ノダ 野田 スミオ 純生	公共的団体の代表者等
3	スズキ 鈴木 ノブヒコ 伸彦	学識経験者 (静岡県公立高等学校 P T A 連合会 事務局長)
4	スズキ 鈴木 ヒロ 広隆	学識経験者 (元県立高等学校の校長)
5	ホリイ 堀井 ヒロユキ 啓幸	学識経験者 (常葉大学教育学部名誉教授)
6	スギヤマ 杉山 タダシ 禎	学識経験者 (静岡産業大学 大学事務局教務課 教職センター長)
7	サノ 佐野 フミコ 文子	学識経験者 (静岡県総合教育センター主任)
8	ツミ 堤 コウシ 幸士	学校教育関係者 (田子浦中学校 校長)
9	クドウ 工藤 ダイスケ 大輔	学校教育関係者 (須津中学校 校長)



第1回 富士市立高等学校在り方審議会

令和8年7月13日（月曜）

市庁舎9階 第2委員会室

第1回 富士市立高等学校在り方審議会 次第

〔第1章〕 審議会設置の背景

〔第2章〕 富士市及び市立高校の現状整理

〔第3章〕 審議会への諮問

〔第4章〕 市立高校 未来への2つの方向性

〔第5章〕 質疑と審議

〔第6章〕 総括 その他(事務連絡等)

〔第1章〕 審議会設置の背景

- ◆ 静岡県及び富士市の高校教育を取り巻く状況の変化
 - ①静岡県 「2040基本指針」にみる高校教育の将来像
 - ②国事業 N-E.X.T(ネクスト)ハイスクール構想と先進拠点校
 - ③県及び本市の高校進学動向
 - ④県及び富士地区における高校再編の動き
 - ⑤本審議会の設置根拠と構成組織、予定スケジュール等

〔第1章〕

①静岡県「2040基本指針」にみる高校教育の将来像

策定趣旨

- ・ 当面の間、**人口減少は避けられないとの認識のもと**、人口減少への「**適応対策**」を進めていく必要
- ・ 長期的な視野に立って、**静岡県の将来像や各施策分野の方向性を「2040基本指針」として策定**
- ・ 2040年頃に県政を中核的に担う職員を中心に、庁内横断プロジェクトチームを立ち上げて検討

構成

将来推計人口

2040年頃の静岡県の将来像(人口や世帯など)

個別分野の将来推計

各施策分野の将来像や課題を整理、長期的な施策の方向性を提示

市町ヒアリング 若手職員意見交換会

既に人口減少が進行する11市町や若手職員から意見聴取

総括

2040年に向けた県政の方向性を示す

2040年の姿(将来推計人口)

- ・ 県の人口は、2007年をピークに減少局面、**総人口は310万人程度に減少**
人口減少は加速し、今後15年間で約40万人減少、**県の活力が低下**
- ・ **生産年齢人口が約2割(37万人)減少し、労働力不足が懸念**
- ・ 高齢世帯や独居率が増加し、**高齢者への生活支援に関する負担が増加**



個別分野の将来推計

- 人口を基礎とした長期的推計が可能であり、行政サービスの提供に影響がある**12の施策分野について**、将来像と長期的な施策の方向性を提示

<12の施策分野>

①行政、②産業、③医療、④介護、⑤子育て、⑥教育、
⑦施設、⑧インフラ、⑨交通、⑩水道、⑪防災、⑫多文化共生

主な将来像

- ・ 就業者数 約2割減少
- ・ 高校生数 約4割減少
- ・ 県有施設 約9割老朽化
- ・ 交通需要 2割以上減少

長期的な施策の方向性

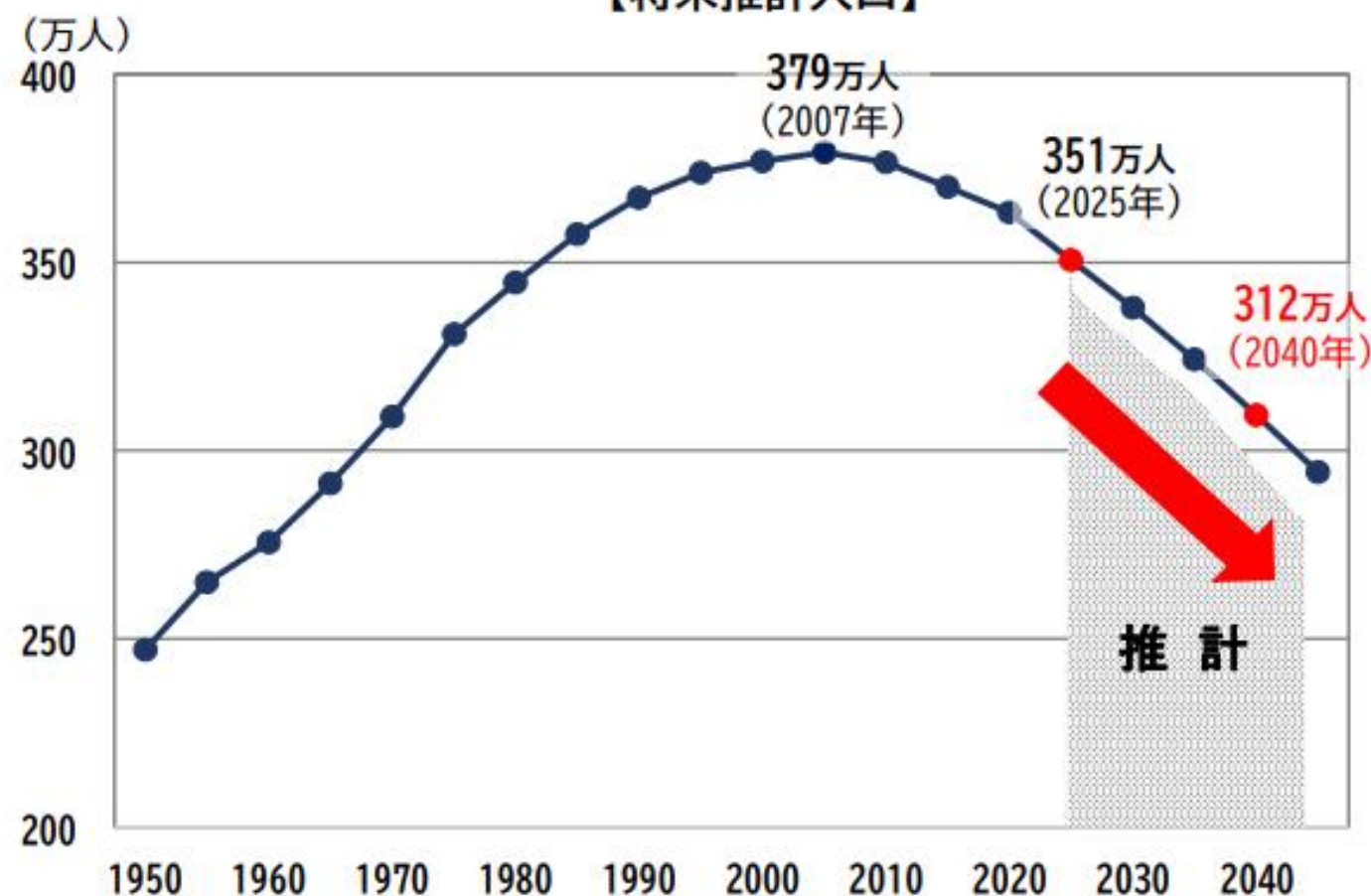
- ・ DXを活用した労働生産性の向上
- ・ 高等学校の改編(再編整備)
- ・ 施設総量の適正化(延床面積20%以上削減)
- ・ ライドシェアなどによる交通空白地域の解消

〔第1章〕

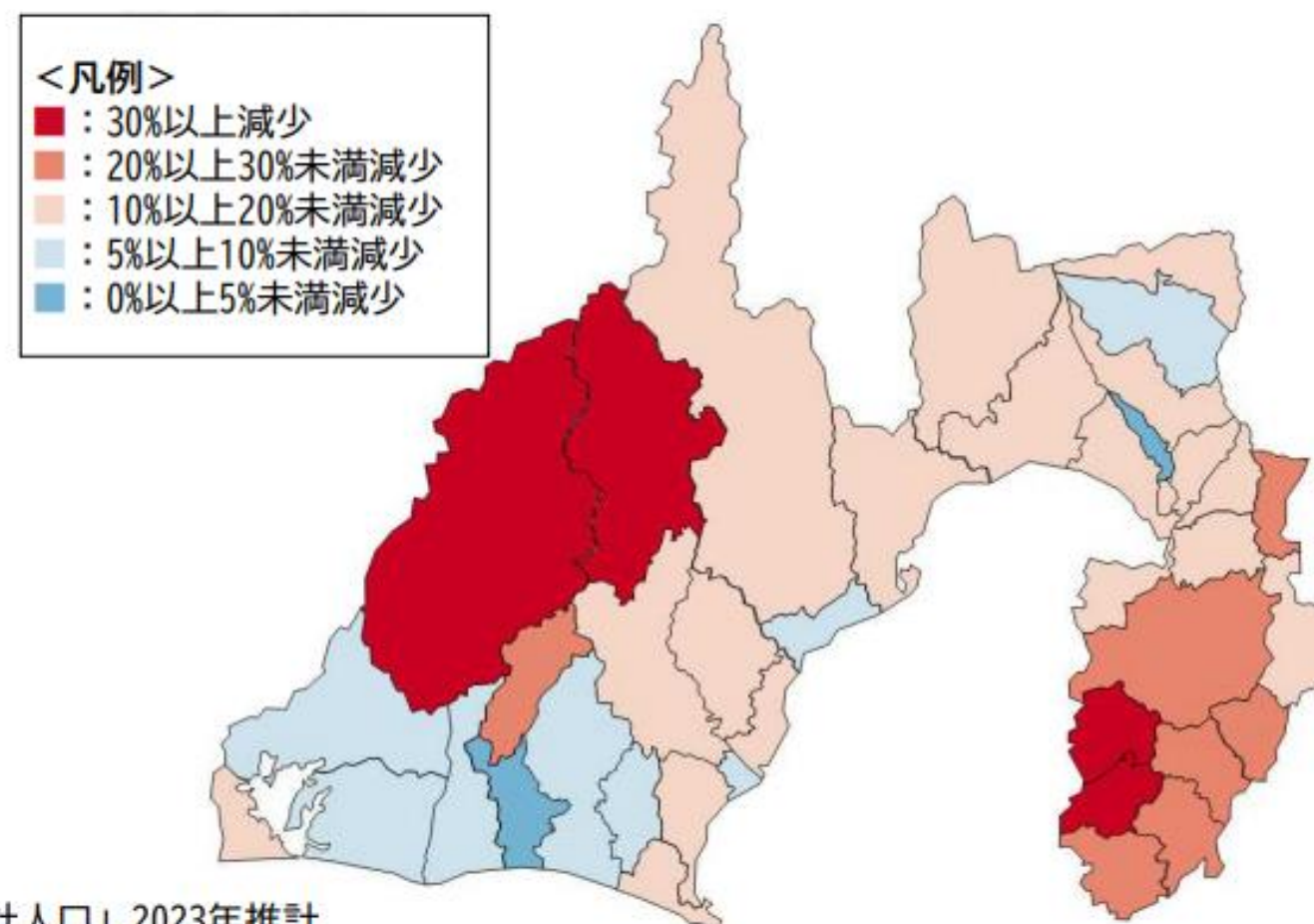
①静岡県「2040基本指針」にみる高校教育の将来像

項目	2040年の姿（推計結果）	想定される変化・課題
総人口	・ 310万人程度に減少 ・ 今後15年間で<u>約40万人減少</u>	・ <u>経済規模の縮小</u> ・ 税収の減少により、行政サービス水準が低下
年齢構成	・ 高齢者が約4割に増加し、高齢化が進行 ・ 生産年齢人口が<u>約2割（37万人）減少</u>	・ 社会保障制度の負担が増加 ・ 生産年齢人口の減少により、<u>労働力が不足</u>
世帯	・ 6万世帯減少 ・ <u>世帯主の高齢化や高齢世帯の独居率が増加</u>	・ 高齢者への<u>生活支援に関する負担が増加</u>
市町別・地域別人口	・ 伊豆半島地域や、川根本町、森町、浜松市天竜区などの<u>11市区町では、2割以上減少</u>	・ 都市部と地方部の<u>人口地域間格差が拡大</u>

【将来推計人口】



【市町別人口の推移（2025年→2040年）】



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」2023年推計

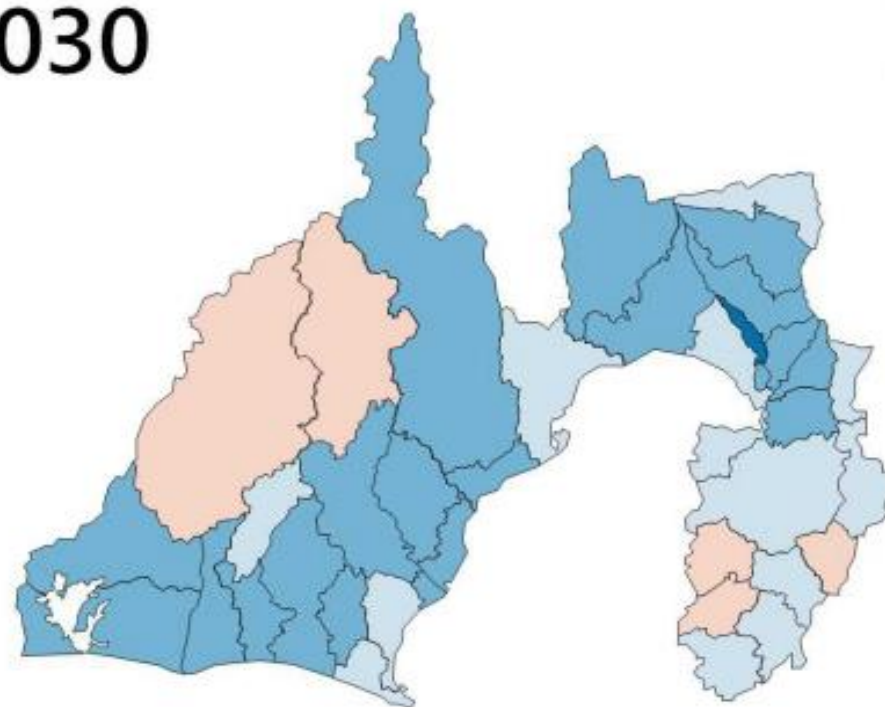
〔第1章〕

①静岡県「2040基本指針」にみる高校教育の将来像

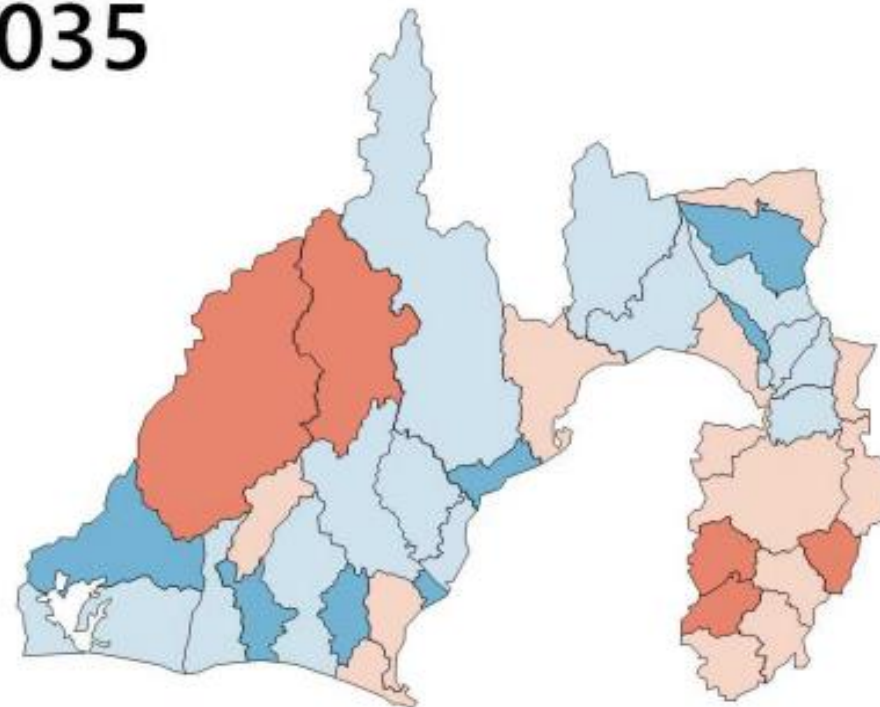
2040年の姿 (推計結果)	・ 県内39市区町(33市町+政令市6区)のうち、29市区町の人口が1割以上減少します。 ・ 地域別には、西部地域が1割程度、中部から東部地域は1割以上減少する市区町が大多数となります。一方、伊豆半島地域の大多数や、川根本町、森町、浜松市天竜区は、他の地域より早く進行し、2割以上減少します。
想定される 変化・課題	・ 都市部と地方部の人口減少速度の差により、地域間格差が拡大します。

市町別人口の推移

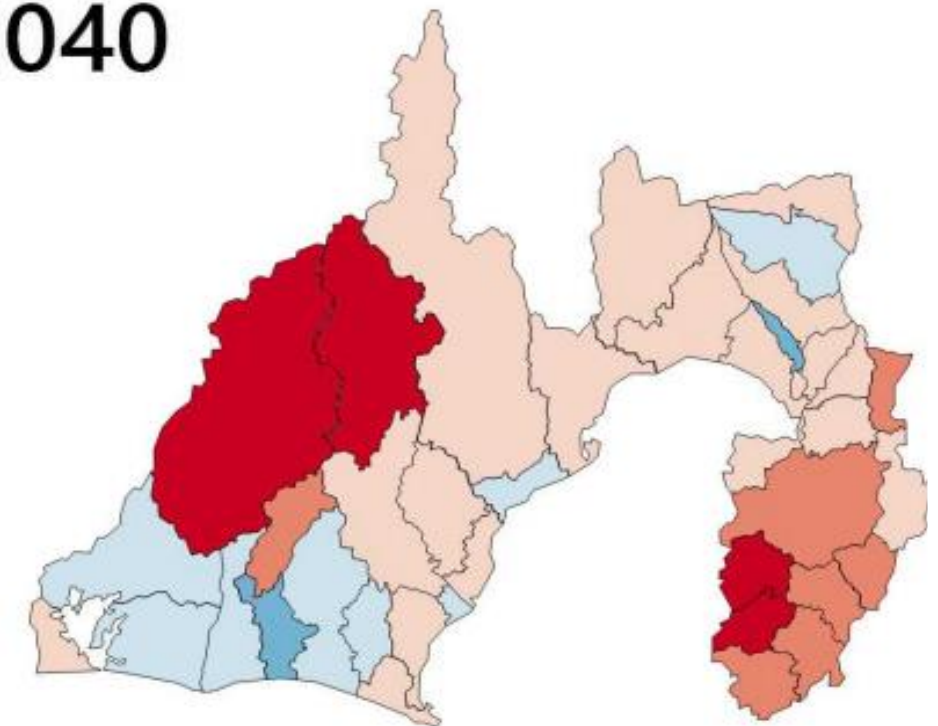
2030



2035



2040



2025年との比較

■ : 30%以上減少 ■ : 20%以上30%未満減少 ■ : 10%以上20%未満減少 ■ : 5%以上10%未満減少 ■ : 0%以上5%未満減少 ■ : 増加

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」2023年推計

静岡県「2040(ニーマルヨンマル)基本指針」(全体版)より

〔第1章〕

①静岡県「2040基本指針」にみる高校教育の将来像

区分		2040年の姿（推計結果） 想定される変化・課題	長期的な施策の方向性
行政	職員数	・ <u>若年人口の減少等に応じた職員数の適正化</u> が必要	・ 人口減少を踏まえた定員適正化計画に基づき、職員数を適正化
産業	就業者数	・ 就業者数が <u>約2割減少</u> 、深刻な労働力不足 ・ 産業構造や求められる人材の変化	・ DXを活用した <u>労働生産性の向上</u> ・ <u>産業構造転換に対応する</u> 取組や人材育成の促進
医療	医療需要	・ 入院需要は <u>2035年頃をピークに減少局面に突入</u> ・ 医療機関の経営環境の悪化、医療従事者数の見直し	・ <u>効率的な医療提供体制の構築（機能分担・集約化）</u> ・ 医師の地域偏在の是正 ・ 医療へのアクセス確保
介護	介護需要	・ <u>介護需要は約1割増加</u> 、2035年をピークに高止まり ・ 介護人材の不足の深刻化	・ 介護ロボット等のテクノロジーの活用 ・ 多様な介護人材の確保と育成
子育て	幼稚園 保育所需要	・ <u>幼稚園、保育所の需要は約3割減少</u> ・ 施設の経営状況が悪化	・ 「保育の量の拡大」から「 <u>持続可能な教育・保育提供体制の確保</u> 」に転換（統廃合や縮小など）
教育	高等学校の生徒数・ 学校数	・ <u>生徒数は約4割減少</u> ・ 小規模校化による教育の質の維持が困難	・ <u>学校の改編（再編整備）</u> 、魅力化 （89校を50～60校程度に改編）
施設	県有施設の延床面積 ・ 老朽化・更新費	・ 県有施設の <u>約9割が老朽化</u> ・ 施設の供給過剰や老朽化による運営効率の低下	・ <u>総量の適正化（延床面積20%以上削減）</u> ・ 施設の長寿命化
インフラ	社会インフラの老朽化・ 維持管理費	・ 橋梁は <u>約8割が老朽化</u> 、建設業従事者数が減少 ・ 施設の更新需要が増大 ・ メンテナンスが課題	・ 社会インフラの <u>集約・再編の検討</u> ・ 予防保全型管理の徹底による <u>施設の長寿命化</u>
交通	交通輸送の需要量 （交通手段）	・ 利用者数はコロナ禍前と比較し、 <u>2割以上減少</u> ・ バスやタクシー運転手の担い手不足	・ ライドシェアや自動運転等を組み合わせた移動環境により、 <u>交通空白地域の解消</u>
水道	水道需要・水道施設の 更新費	・ 水道需要は <u>約1.5割減少</u> 、施設の老朽化が進行 ・ 水道料金の高騰	・ <u>事業体の広域化や官民連携</u> の推進
防災	災害発生時の 要配慮者数	・ 要配慮者（高齢者の要介護者、外国人）が増加 ・ 地域コミュニティの希薄化による支援体制の脆弱化	・ 医療、介護、福祉分野との避難支援体制の構築 ・ NP0や事業者などの <u>多様な主体との連携</u>
多文化共生	在留外国人数	・ 外国人が増加し、 <u>人口割合は7%に上昇</u> ・ 外国人の参画による社会構造の変化	・ 外国人県民の活躍推進、共生機運の醸成 ・ 国の戦略構築を目指し、外国人施策を国へ提言

〔第1章〕

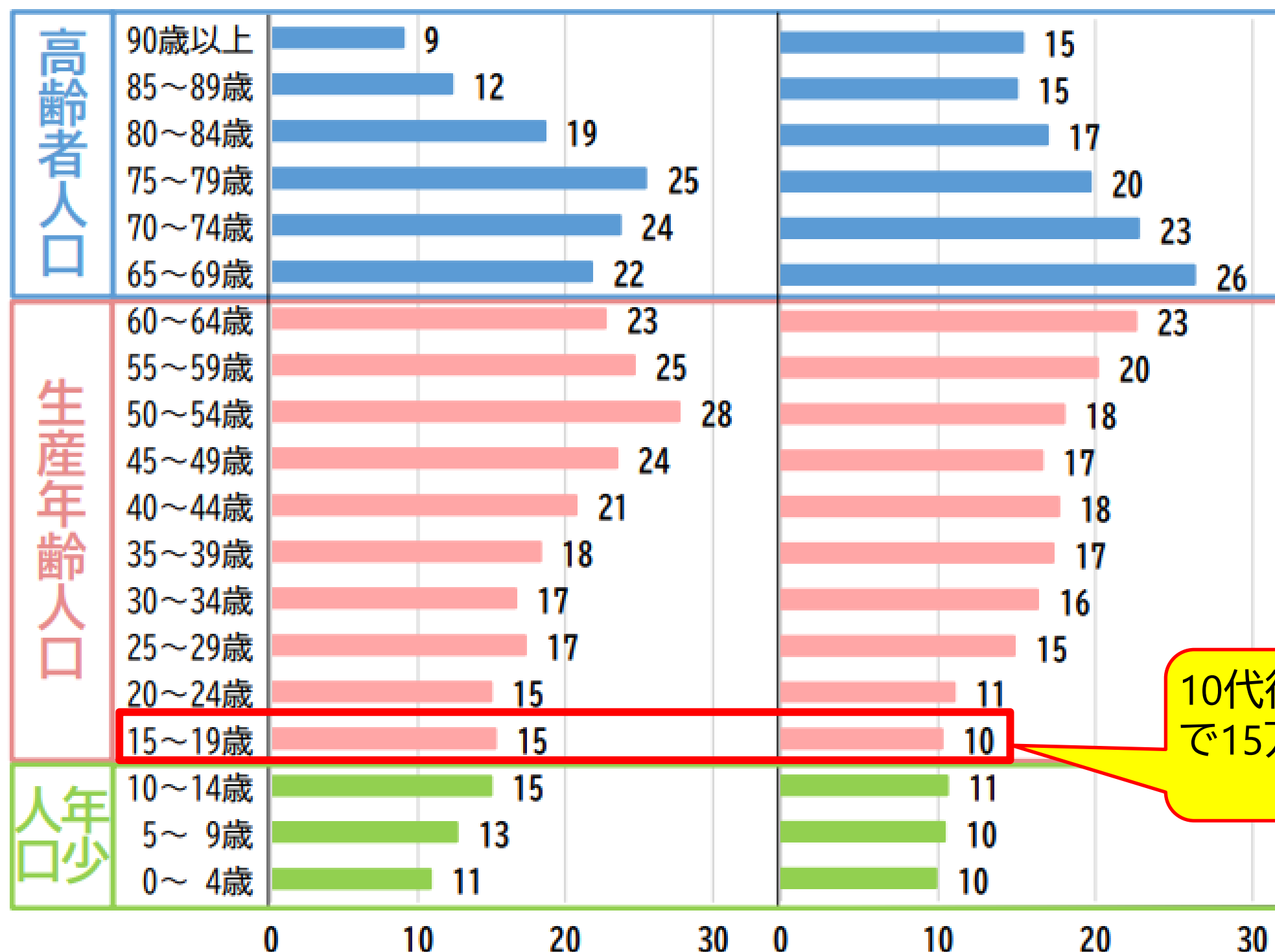
①静岡県「2040基本指針」にみる高校教育の将来像

年齢構成の比較

2025年

2040年

(単位：万人、%)



区分	2025年 (構成)	2040年 (構成)	増減数	増減率
総人口	351	312	△39	△11.1
年少 (0～14歳)	38 (10.8)	31 (9.9)	△7	△18.4
生産年齢 (15～64歳)	202 (57.6)	165 (52.9)	△37	△18.3
高齢者 (65歳以上)	111 (31.6)	116 (37.2)	+5	+4.5

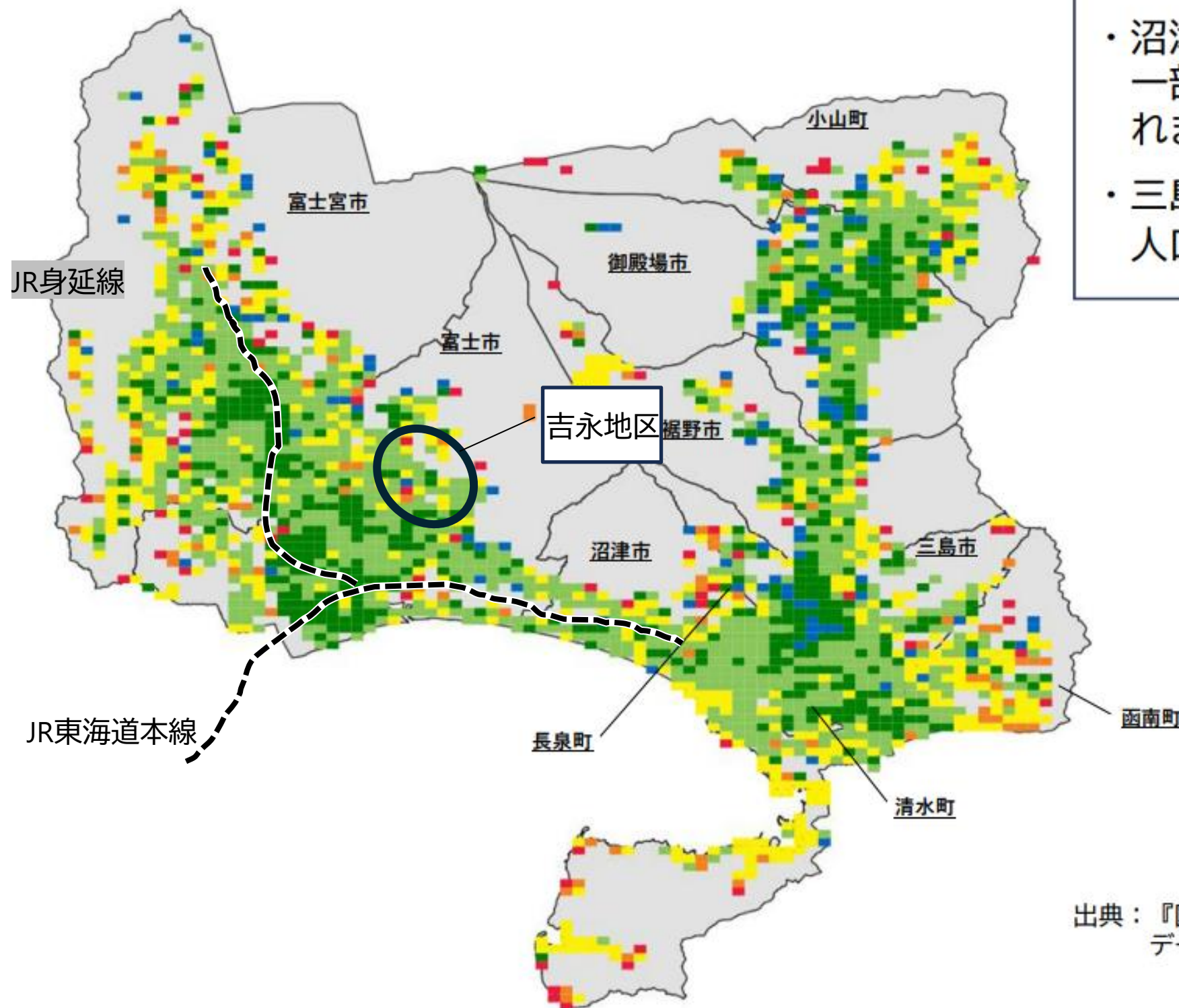
人) 出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
2023年推計

10代後半の若者が15年間で15万人⇒10万人に現状
(33.3%減)

〔第1章〕

①静岡県「2040基本指針」にみる高校教育の将来像

人口の増減（2025年→2040年）



2040年の姿（推計結果）

- ・沼津市の沿岸部、富士宮市、函南町や小山町の一部の地域で、20%以上減少する区域が見られます。
- ・三島市、御殿場市、清水町や長泉町の一部では、人口が増加する区域が見られます。

メッシュ（500m×500m）の
人口の減少率（%）

- ：70以上減少
- ：40以上 70未満
- ：20以上 40未満
- ：10以上 20未満
- ：0以上 10未満
- ：増加

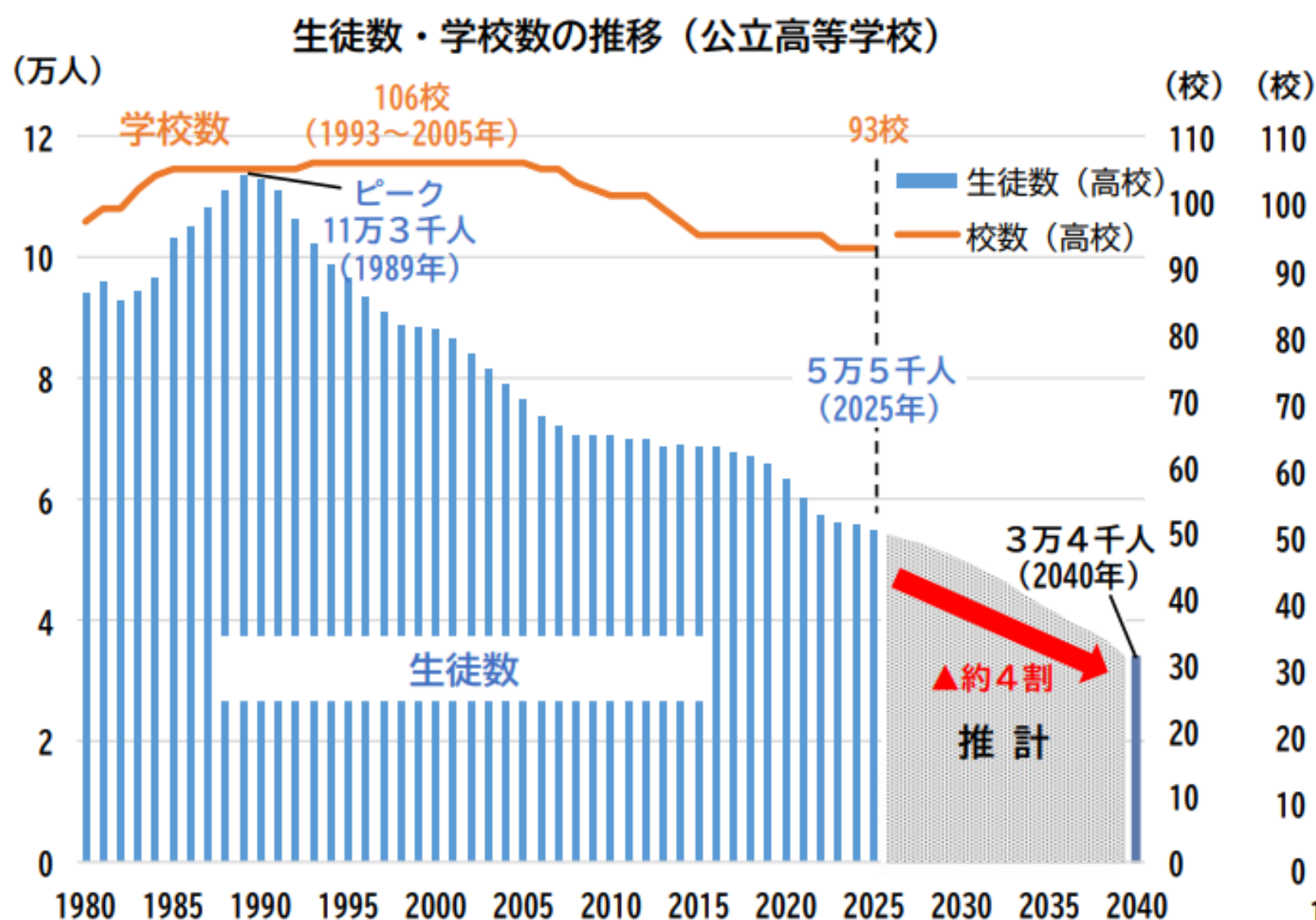
出典：『国土数値情報ダウンロードサイト』500mメッシュ別将来推計人口データ（R6国政局推計）により算出

静岡県「2040(ニーマルヨンマル)基本指針」(全体版)より
※一部加工

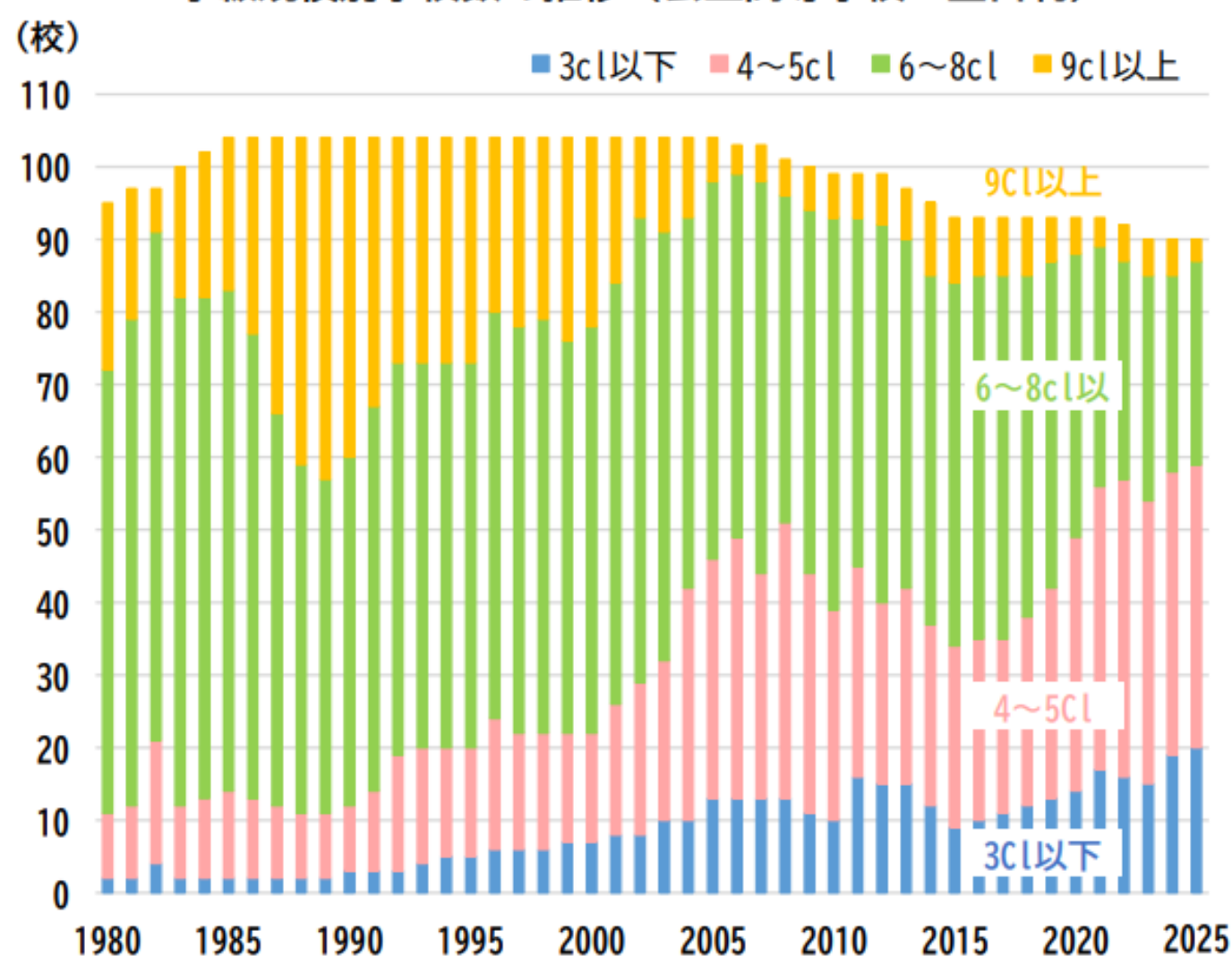
〔第1章〕

①静岡県「2040基本指針」にみる高校教育の将来像

2040年の姿 (推計結果)	- 公立高等学校の生徒数は、今後15年間で約4割減少します。 - 現状の学校数を今後も維持した場合、小規模校化が進み、5クラス以下の学校が、約7割以上となります。
想定される 変化・課題	- 小規模校化が進み、教育に対する投資が分散化するため、教育環境の改善が困難になります。 1校あたりの教員定数の減少により、生徒の学習ニーズに対応した科目開設や、習熟度別の教科指導の継続が困難になるなど、教育の質の維持が難しくなります。



学級規模別学校数の推移（公立高等学校・全日制）



〔第1章〕

①静岡県「2040基本指針」にみる高校教育の将来像

長期的な施策の方向性

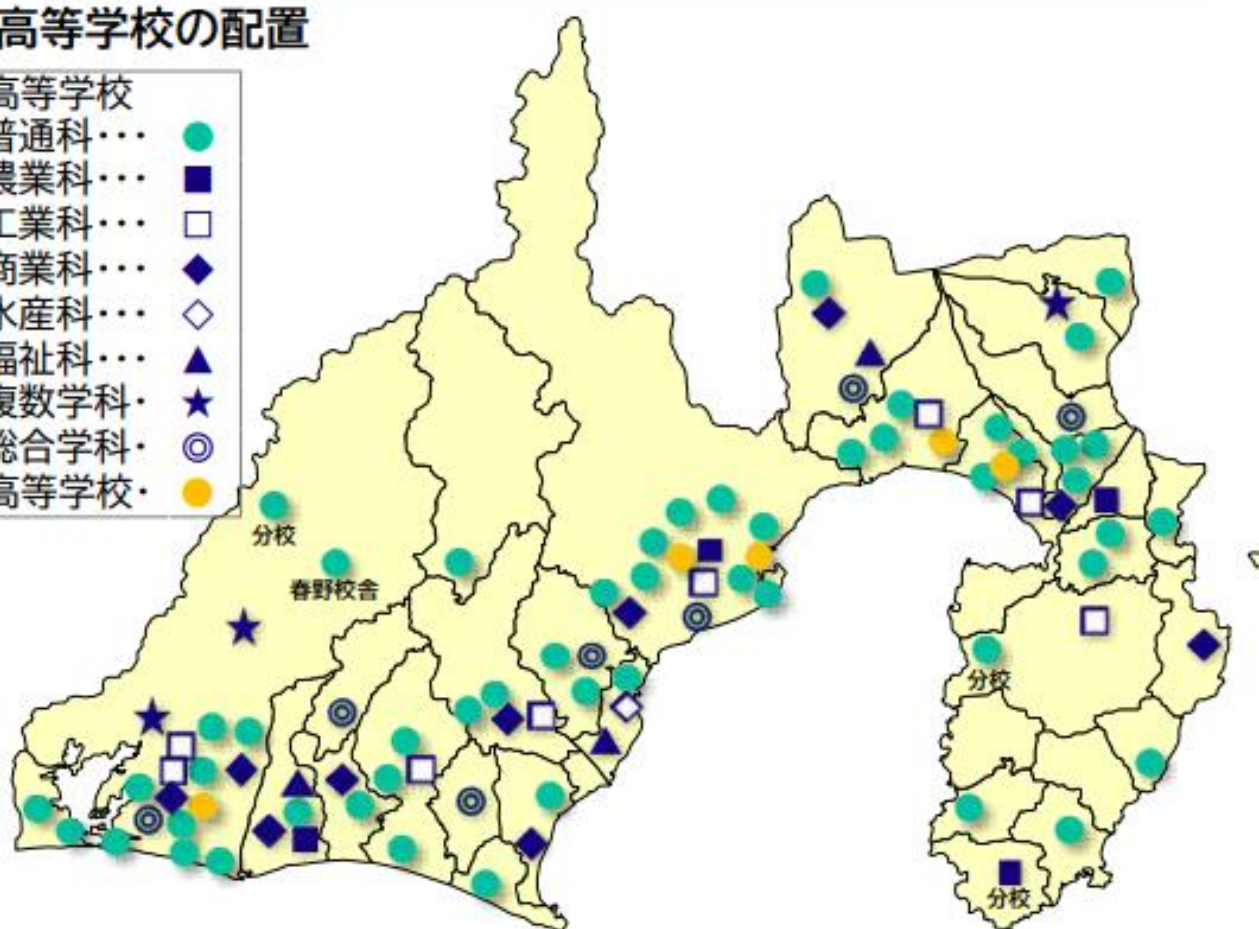
- ・ 地域協議会の議論を踏まえた「地域別のグランドデザイン」に基づき、県立高等学校の**魅力化・特色化や、改編（再編整備）を進めます。**
- ・ 限られた財源を重点的に配分し、教育の多様化や質の向上を目指します。

公立高等学校の改編（再編整備）

- ・ 適正規模を維持するためには、現在の89校を50～60校程度に改編する必要があります。
- ・ 少子化や私学との「共存・役割分担」の観点から、県立高等学校の改編を加速していきます。
- ・ 生徒数や教育空白域への配慮、実学系の学びを維持しつつ、学校配置を行います。

公立高等学校の配置

県立高等学校
普通科… ●
農業科… ■
工業科… □
商業科… ◆
水産科… ◇
福祉科… ▲
複数学科… ☆
総合学科… ◎
市立高等学校… ●



教育の多様化や質の向上

- ・ 少子化の中でも、こどもたちの未来に向けて、教育の質を確保していくため、多様な生徒ニーズへの対応や、グローバル・グローバルリーダーの育成、実学系教育の充実など、教育環境の改善に取り組みます。



SPACとの連携による演劇教育



高校生の海外留学
(グローバル人材育成事業)



海洋実習



センター配信型遠隔教育

2040年(R22)を見据えた県立高校の未来

～少子化を超えて生徒の学びの環境を確保するために～

直面する課題 ～少子化と学校の小規模化～

○県内においても、少子化が急速に進行しています。

静岡県の児童生徒数
(H1) **64万人**
▼
(R7) **35万人**

県内公立高校生徒数
(H1) **11万人**
▼
(R7) **5.5万人**

○少子化に伴い、過半数の公立高校が適正とされる学校規模(6～8学級)を下回り、学校経営に深刻な影響が及んでいます。

5学級以下の
学校数・割合
(H1) **10校・10%**
▼
(R7) **58校・65%**

学校規模の小規模化が教育に与える影響

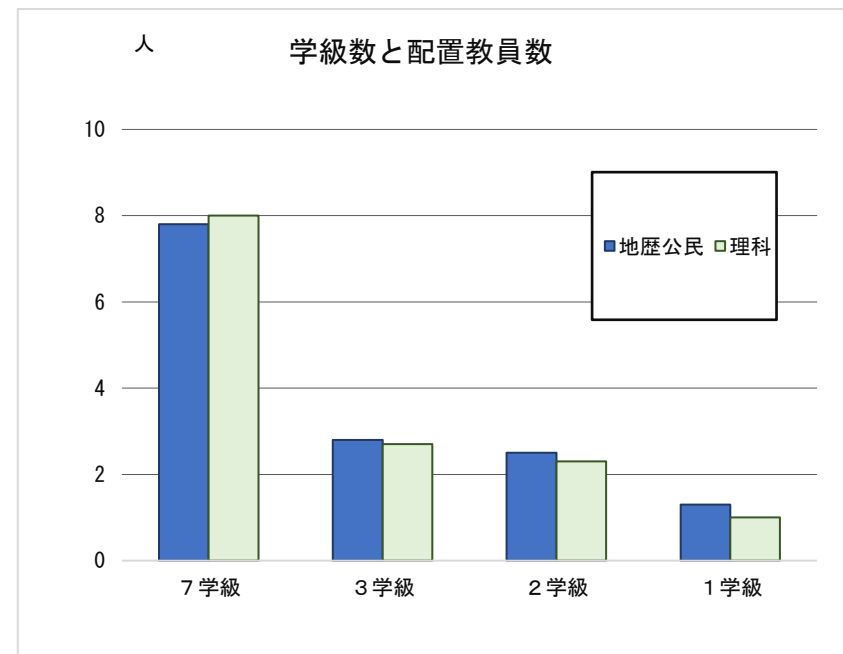
○教員数の減少

学級数減と比例して配置される教員数も減少し、多様な科目選択や、生徒ニーズへの対応が困難になります。

*グラフは1学年の学級数ごとに配置される教員数を示しています。

○教育投資の維持向上の困難

将来に向けた新たな科目等の展開が難しく、また学校への投資の将来像も不明確となり、よりよい学習環境の実現が困難となります。



*教員数は、募集学級数に応じて「高校標準法」で決定

こどもたちの未来に向けて ～強化する役割と適正規模の確保～

○地域の意見も参考に、少子化の中でも教育の質を確保するための取組を、将来にわたって進めます。
(例) 学科・学校間を超えた連携、遠隔教育(ICT)、地域・企業等との連携、教科横断的学び、単位制高校...

○少子化や私学との「共存・役割分担」の観点から、県立高校について再編を加速し、今後、特に以下の役割を強化します。

①グローバル・グローバルリーダー育成
⇒普通科改革を通じた高校魅力化

②実学系教育の充実
⇒専門高校の機能強化・高度化

③多様なニーズへの対応とエンパワーメント
⇒地理的アクセス・多様な学びの確保

④教育空白域の回避

○適正規模の確保と予算・人員の集中投下により、充実した教育環境を実現します。

【参考:生徒一人当たりコスト】
7学級のA校: 729,685円
1学級のB校: 1,842,531円
→同じコストなら適正規模校の方が教育の質が高まる

老朽化した校舎



長寿命化改修+新築



○(参考)適正規模の維持に必要な学校数
(生徒数の減少予測等を踏まえた現時点の試算)

現状
89校

2040年
50～60校程度

〔第1章〕 ②文部科学省 N-E.X.T.(ネクスト)ハイスクール構想

課題 2040年に直面する「人材」と「学びの場」の危機

-  少子高齢化・生産年齢人口の減少、地方の過疎化が一層深刻化
→ 労働力需給ギャップが発生(人材不足が加速)
-  生徒の多様性やニーズが拡大する一方、
個別最適な学びの提供が困難に
-  高校の経営基盤が弱まり、希望する大学等への進学や
就職等の機会が損なわれる恐れ
-  我が国の経済・社会の基盤を支える人材の育成が急務

解決策 N-E.X.T.ハイスクール構想による3つの教育変革

- 1 アドバンスト・エッセンシャル
ワーカーの育成 ※**

地域産業・大学等と連携し、実践的
な学びを通じて高度な専門人材を育成
- 2 理数系人材の育成**

探究・実験を重視した学びで、
イノベーションを創出する人材を育成
- 3 多様な学習ニーズに対応した
教育機会の確保**

一人ひとりに寄り添った学びの場を整え、
すべての生徒の可能性を引き出す



各都道府県に設置される「高等学校教育改革促進基金」を財源に、地域の実情に応じた先導的な改革を推進します。

最新のICT環境整備による強力な支援

生徒に「未来を創る力」を

個別最適な学び・探究・協働を
支えるデジタル環境

先生に「教育に専念できる環境」を

校務DXによる業務効率化で、
生徒と向き合う時間を創出

戦略的 パートナーシップの構築

 大学  企業・産業界  地域住民  教育委員会
共通理解のもと、地域全体で高校教育を支える体制を構築

公教育を強力に支援


公正で質の高い学びの機会をすべての生徒に届け、
持続可能な教育環境を実現

2040年までに達成を目指す具体的目標

改革領域	2040年の目標値
専門高校の連携	100%の学校が地域産業・大学などと連携し実践的学びを実施
普通科の学び	100%の学校で文理横断の学びを推進し、生徒文理比で同程度を目指す
多様学びの確保	生徒の学習満足度を向上させ、進路未決定者半減を目指す



一人ひとりの可能性を
最大限に引き出す



我が国の経済・社会の
持続的な成長に貢献



未来を切り拓く
グローバル人材の育成

※「アドバンスト・エッセンシャルワーカー」・・・地域の基盤産業を支えつつ、新技術で
その仕事を高度化できる実践的人材

作成:富士市教育委員会事務局 (参考:文部科学省グランドデザイン)

〔第1章〕

②文部科学省 N-E.X.T.(ネクスト)ハイスクール構想

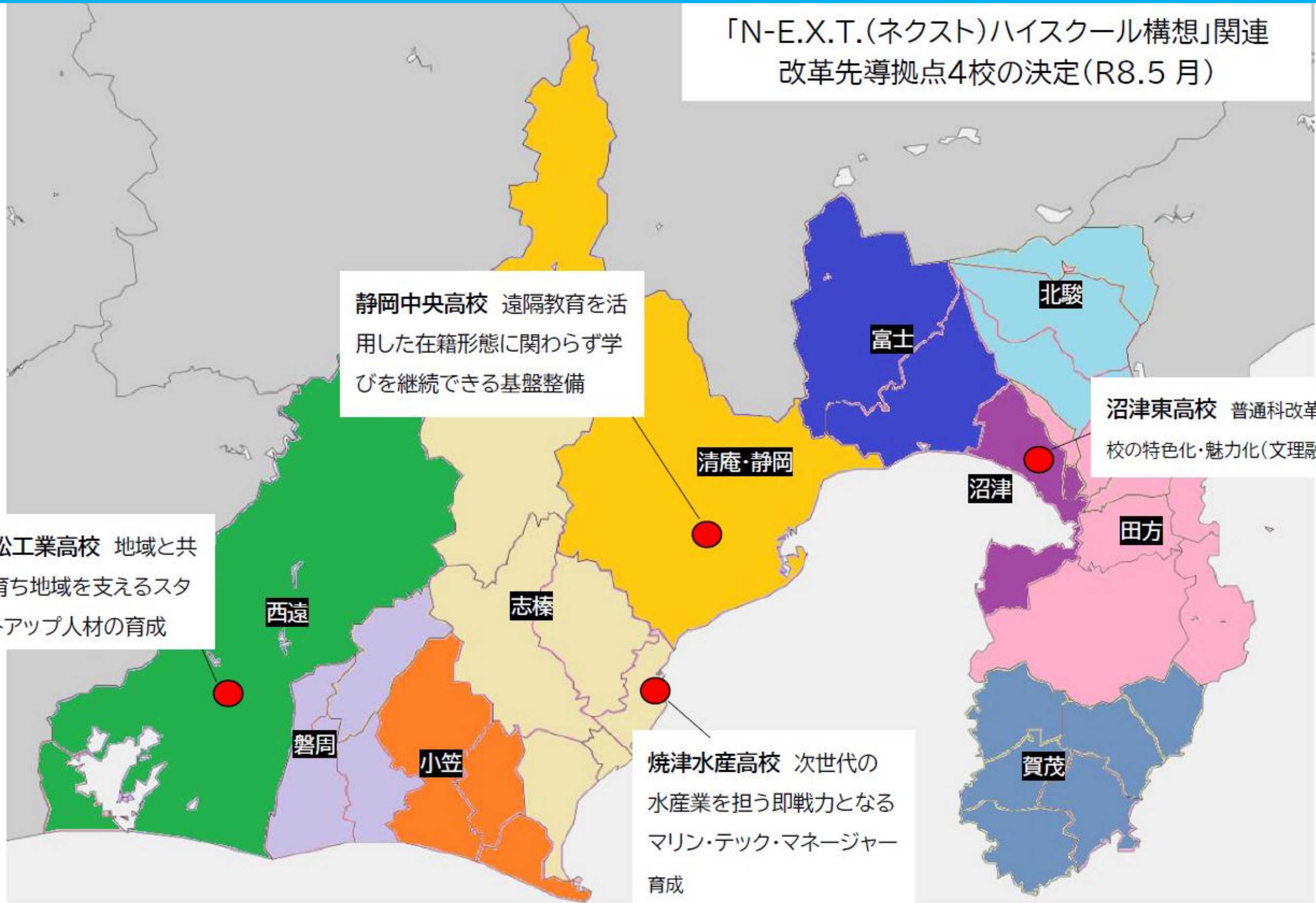
「N-E.X.T.(ネクスト)ハイスクール構想」関連
改革先導拠点4校の決定(R8.5月)

静岡中央高校 遠隔教育を活用した在籍形態に関わらず学びを継続できる基盤整備

沼津東高校 普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化(文理融合型人材)

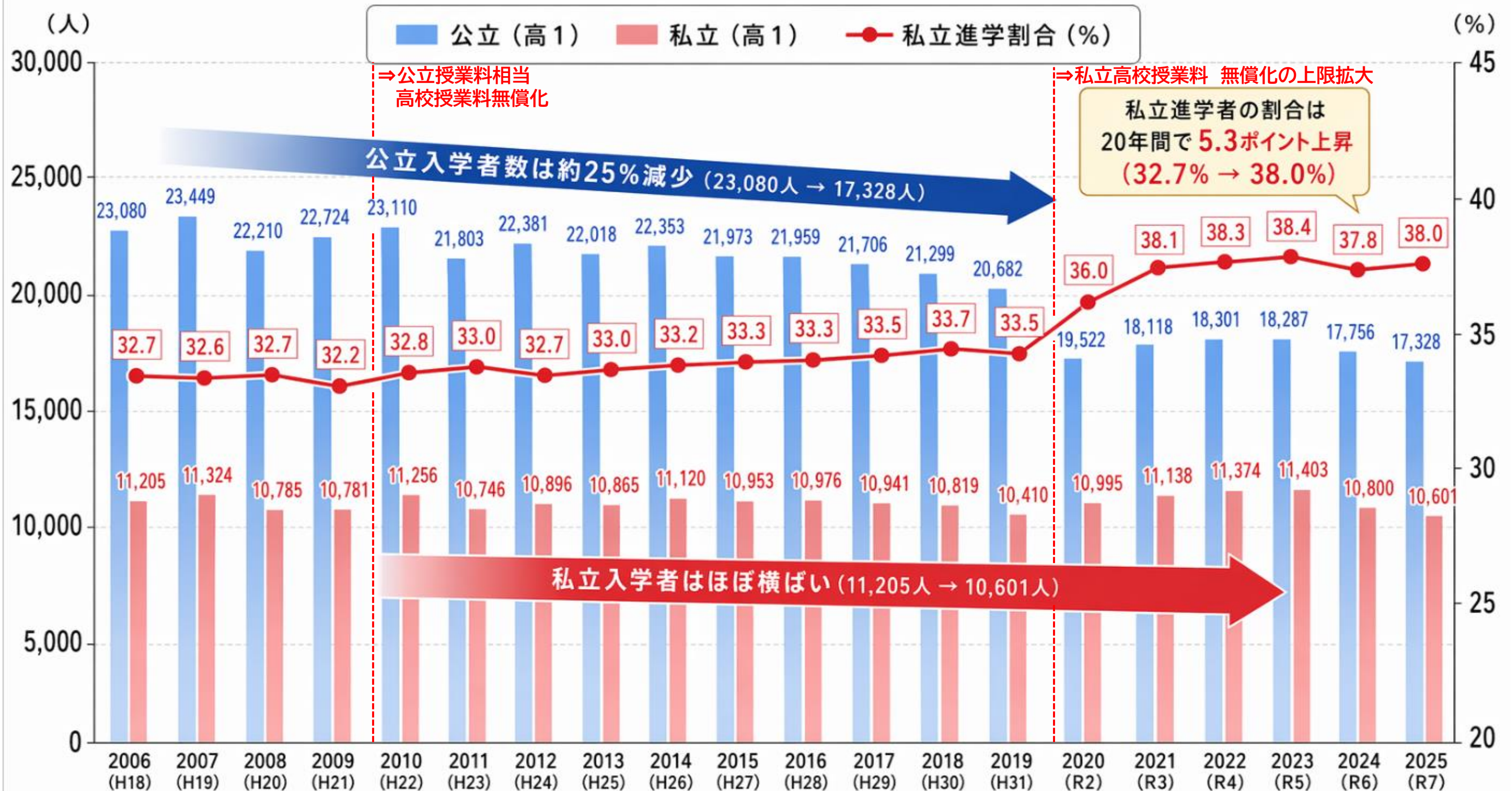
浜松工業高校 地域と共に育ち地域を支えるスタートアップ人材の育成

焼津水産高校 次世代の水産業を担う即戦力となるマリン・テック・マネージャー育成



〔第1章〕 ③県及び本市の高校進学動向

静岡県 高校1年生入学者数の推移（公立・私立）と私立進学割合の推移

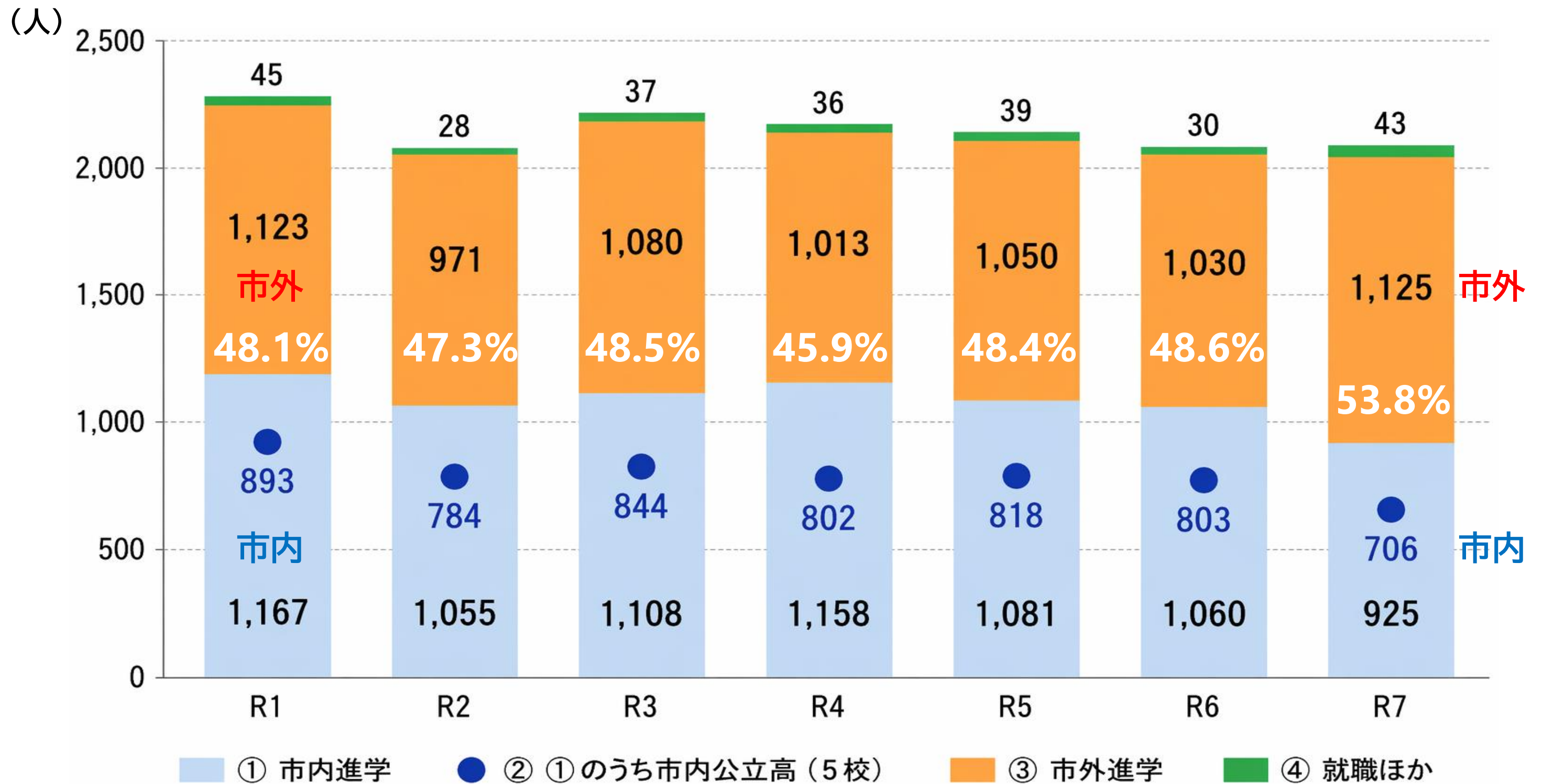


- 私立進学割合（%） = 私立（高1） ÷ （公立（高1） + 私立（高1）） × 100
- 2020年度（R2）以降、私立進学割合が上昇し、2023年度（R5）に38.4%でピークとなり、2025年度（R7）は38.0%となっている。

出典：学校基本調査
作成：富士市教育委員会事務局

〔第1章〕 ③県及び本市の高校進学動向

【富士市内】中学3年生の高校進学(市内／市外へ)



※ ①市内進学は、私立高校等を含みます。

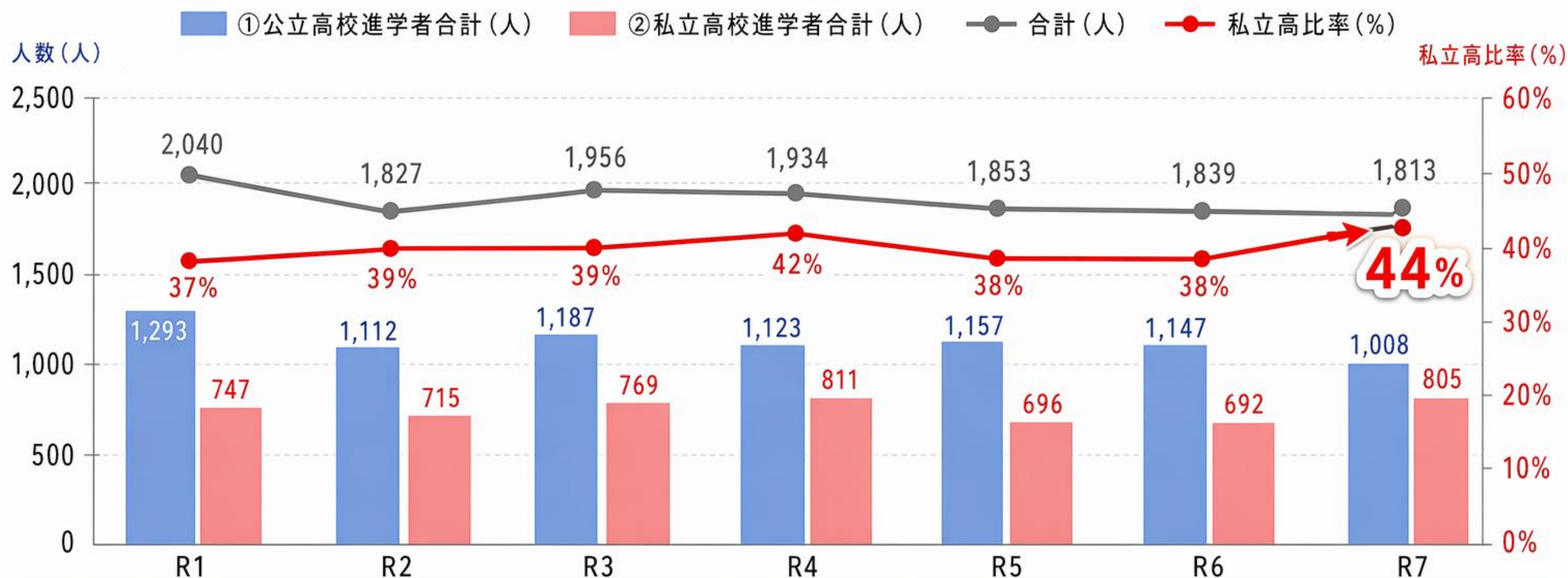
※ ③市外進学は、公立高校・私立高校等の累計です。

出典：静岡県教育委員会調査
作成：富士市教育委員会事務局

〔第1章〕 ③県及び本市の高校進学動向

【富士市内】中学生の進学状況(公立/私立)

公立高校への進学者数は減少傾向にあり、私立高校への進学者数は増加傾向です。
私立高比率はR1の37%からR7には44%まで上昇し、公立高校離れが加速しています。



	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
①公立高校進学者合計(人)	1,293	1,112	1,187	1,123	1,157	1,147	1,008
②私立高校進学者合計(人)	747	715	769	811	696	692	805
合計(①+②)(人)	2,040	1,827	1,956	1,934	1,853	1,839	1,813
私立高比率(%)	37%	39%	39%	42%	38%	38%	44%

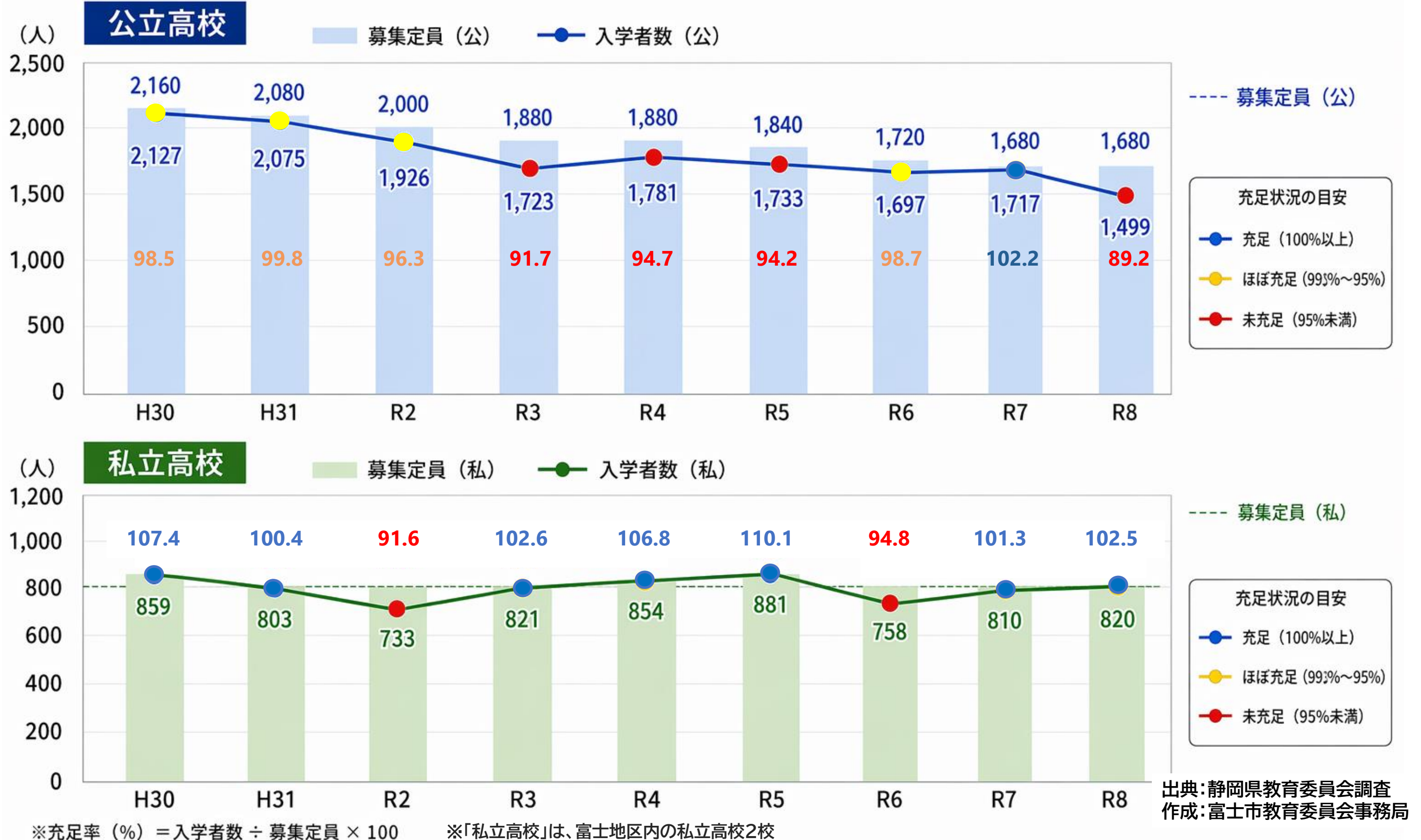
※私立高比率(%) = ②私立高校進学者合計 ÷ (①公立高校進学者合計 + ②私立高校進学者合計) × 100

※「公立高校」「私立高校」は、いずれも地域を限定せず、市内中学校から進学した人数の累計

出典:静岡県教育委員会調査
作成:富士市教育委員会事務局

〔第1章〕 ③県及び本市の高校進学動向

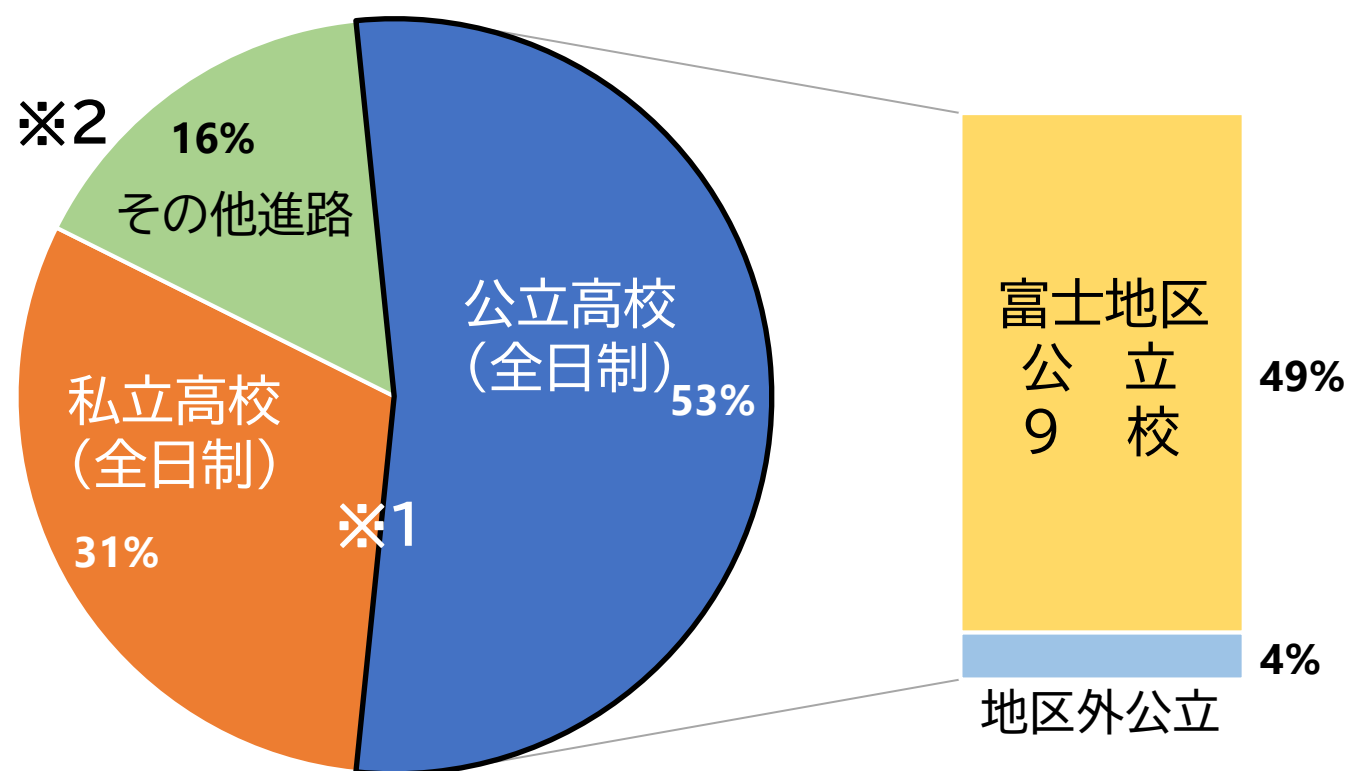
【富士市内】公立高・私立高の募集定員に対する充足状況



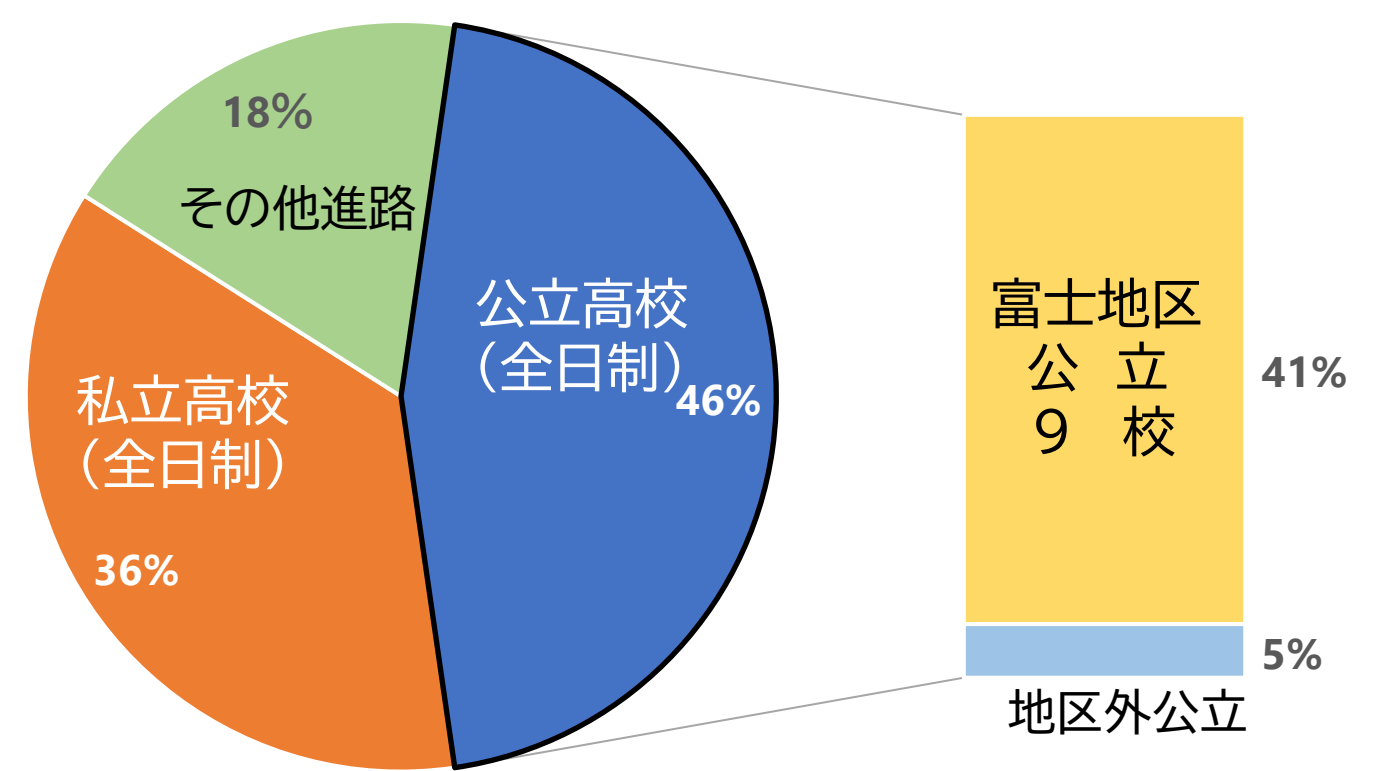
〔第1章〕 ③県及び本市の高校進学動向

【富士市】高校進学概況変化(R1→R7)

R1(2019)



R7(2025)



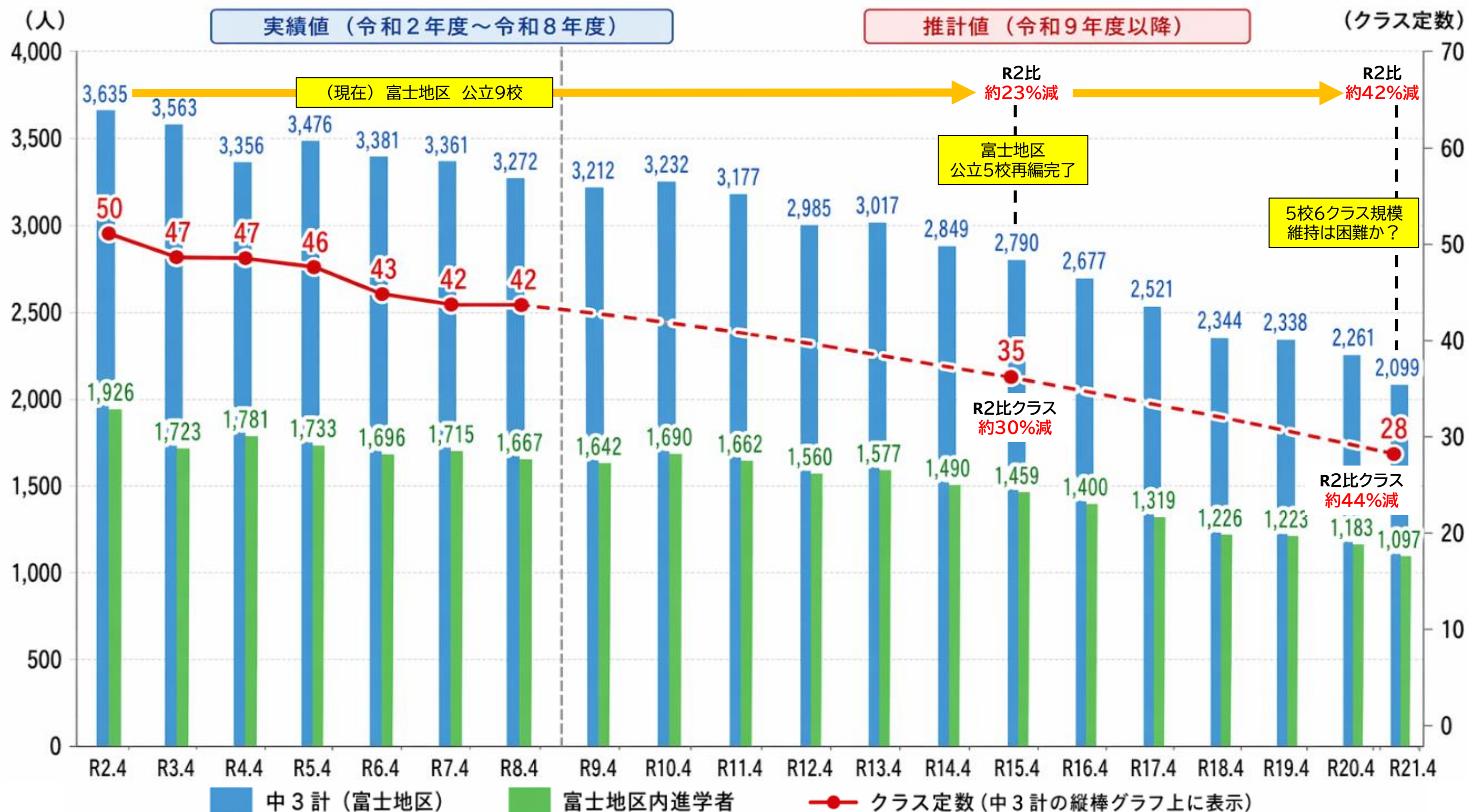
※1 「公立高校」「私立高校」は、いずれも地域を限定せず、市内中学校から進学した人数の累計

※2 「その他進路」とは、全日制課程を除く課程(通信制・定時制)及び高等専門学校、各種学校、特別支援学校等に進学した人数の累計

出典:静岡県教育委員会調査
作成:富士市教育委員会事務局

〔第1章〕 ③県及び本市の高校進学動向

【富士・富士宮市】高校進学者数とクラス定数(推計)

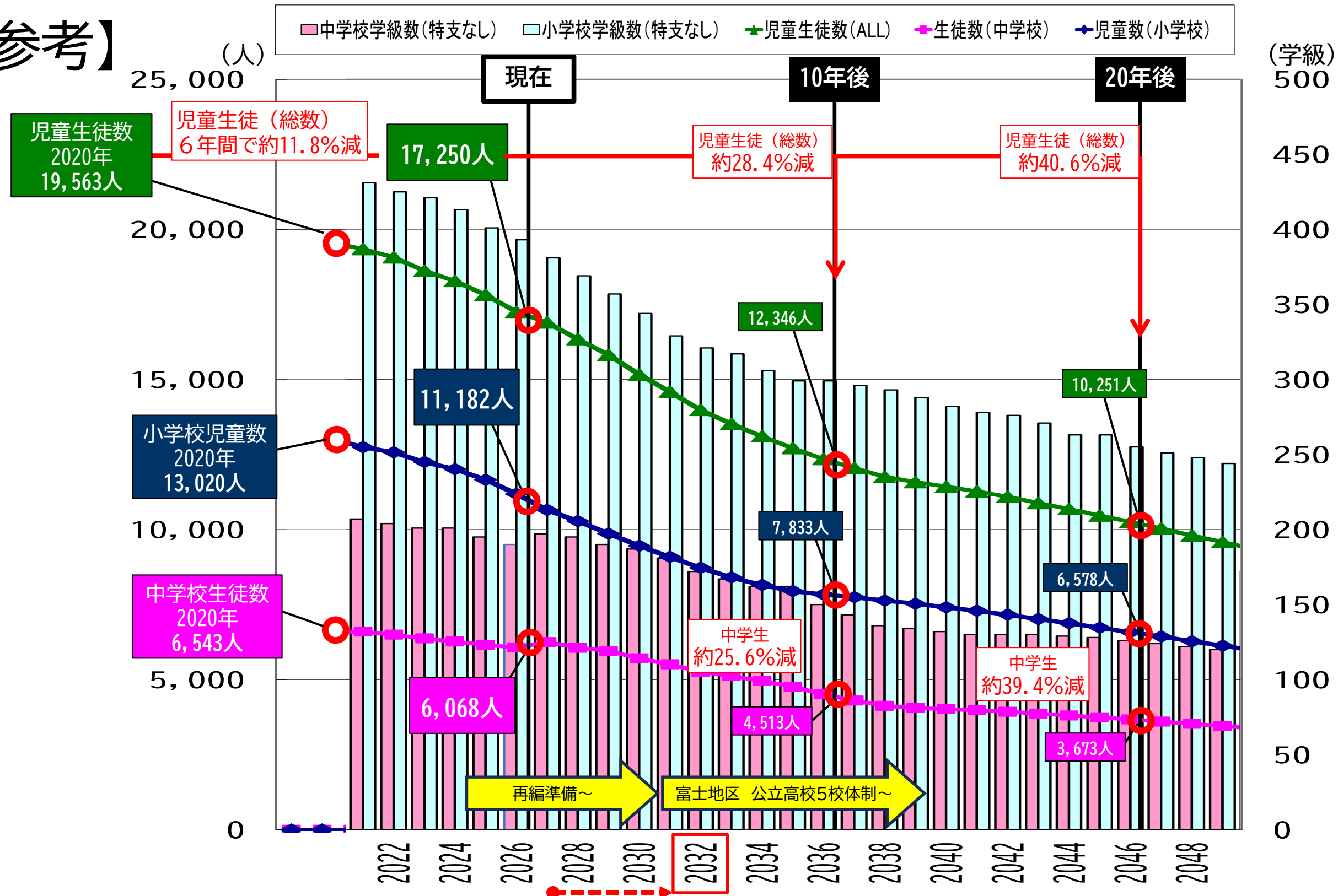


出典：県立高校の在り方に係る地域協議会（富士地区）資料より
作成：富士市教育委員会事務局

〔第1章〕

③県及び本市の高校進学動向

【参考】



【推計方法】

2020年度～2026年度：実数

2027年度～2066年度：富士市で作成した地区別、年齢別の人口将来推計値より、各学校に集計して算出

※再編事業が早まる可能性も

【県再編の計画】

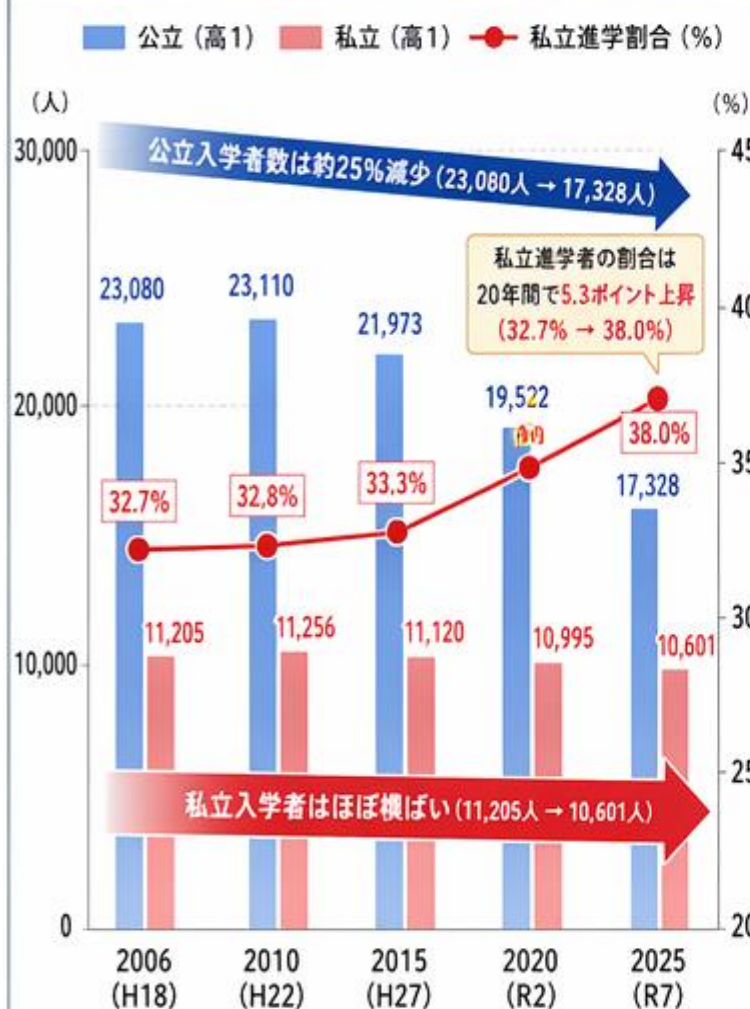
作成：富士市教育委員会事務局

※このほか「私立高校授業料無償化」や「進学が多様化」など、公立高校離れの要因とされるものを加味すると、公立校の募集定員数確保は非常に困難なものになっていくことが予想される。

〔第1章〕

③県及び本市の高校進学動向（総括）

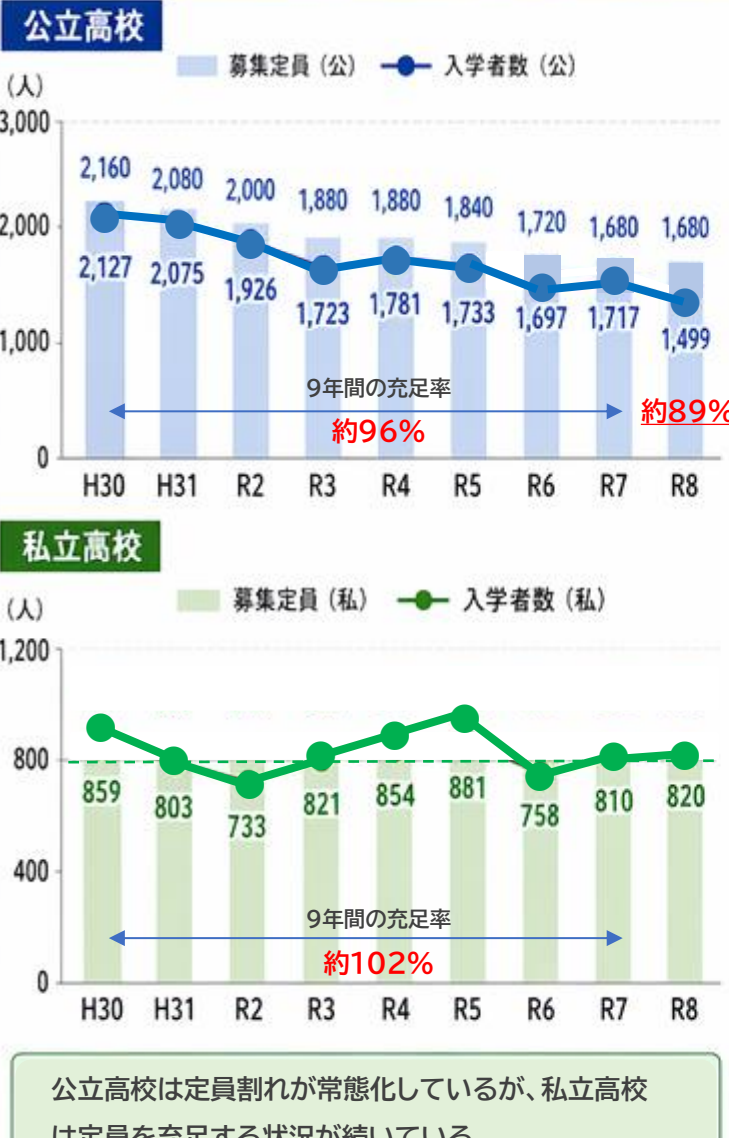
①高1入学者数と進学割合の推移（静岡県）



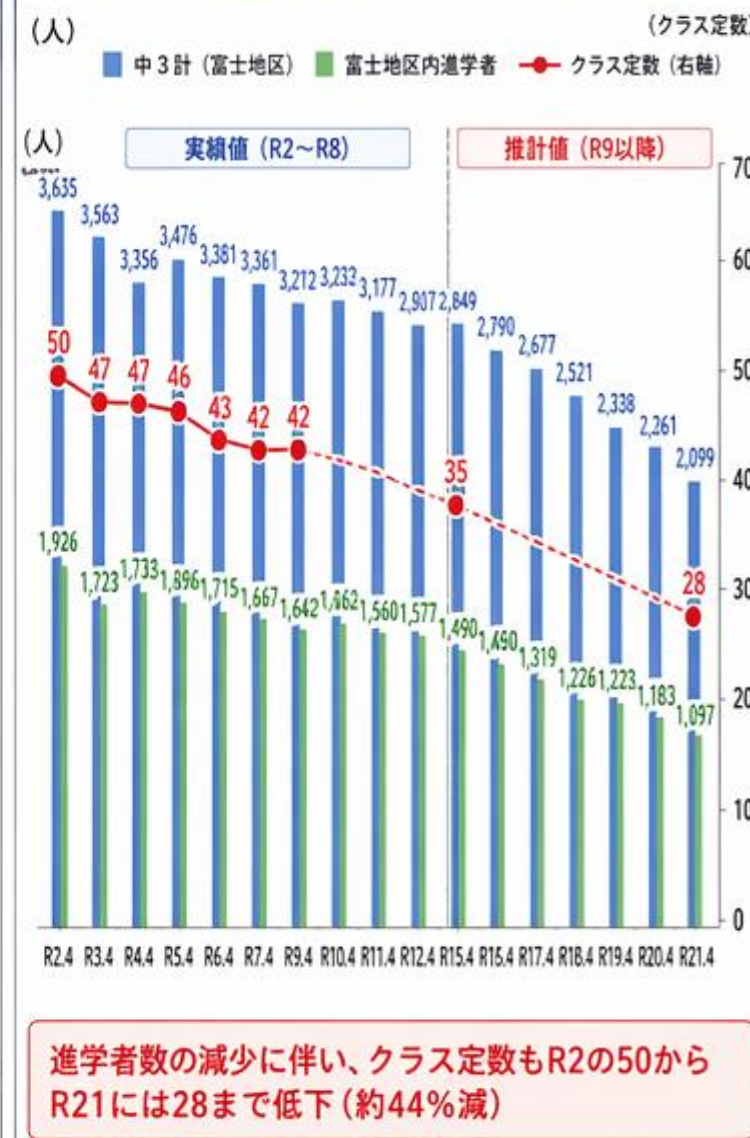
②富士市内中3生の進学状況（公立/私立高校）



③公立・私立高校の募集定員に対する充足状況



④富士地区の進学者数とクラス定数（推計）



分析の要点（まとめ）

1 公立入学者の減少と私立進学増加

県全体では公立入学者が約25%減少する一方、私立はほぼ横ばい。私立進学割合は20年間で5.3ポイント上昇（32.7%→38.0%）。

2 富士市内でも公立離れが進行

市内中3生の公立進学者は減少（R1:1,293人→R7:1,008人）。私立進学者は増加（R1:747人→R7:805人）、私立高比率は37%から44%へ上昇。

3 高校の受け皿は概ね安定

公立・私立ともに募集定員の充足率は概ね95%以上を維持。短期的には定員水準に大きな課題は見られない。

4 将来的な進学者数の減少と小規模化の進行

富士地区の進学者数は長期的に減少見込み。R2の3,635人からR21には2,099人へ減少（約42%減）。クラス定数も50から28へ低下（約44%減）し、小規模化が進行。

総括

- 富士市では、公立高校への進学者が減少し、私立高校への進学者が増加する「公立離れ」が明確に進行。
- それでも高校の募集定員は概ね充足しており、教育の受け皿は当面確保されている。
- 一方で、将来的な中学生数の減少により、学校・学級の小規模化が避けられない見通し。
- 今後は、教育の質の維持・向上とともに、学校規模の最適化や魅力ある教育環境づくり、富士地区の公立連携強化による選ばれる学校づくりが重要。

将来を見据えた持続可能な高校教育の実現に向けた戦略的な対応が求められる。

〔第1章〕

④県及び富士地区における高校再編の動き

1 県立高等学校の在り方に係る地域協議会

【設置の目的】

- ・各地域の実態と教育的ニーズ
- ・各地域における教育活動
- ・地域との連携の方策

地域住民と考えを共有

→長期的視点で意見を伺う場

【設置する過程】

平成30年3月 静岡県立高等学校第三次長期計画 策定

令和4年度～ 静岡県立高等学校の在り方の基本方針 策定

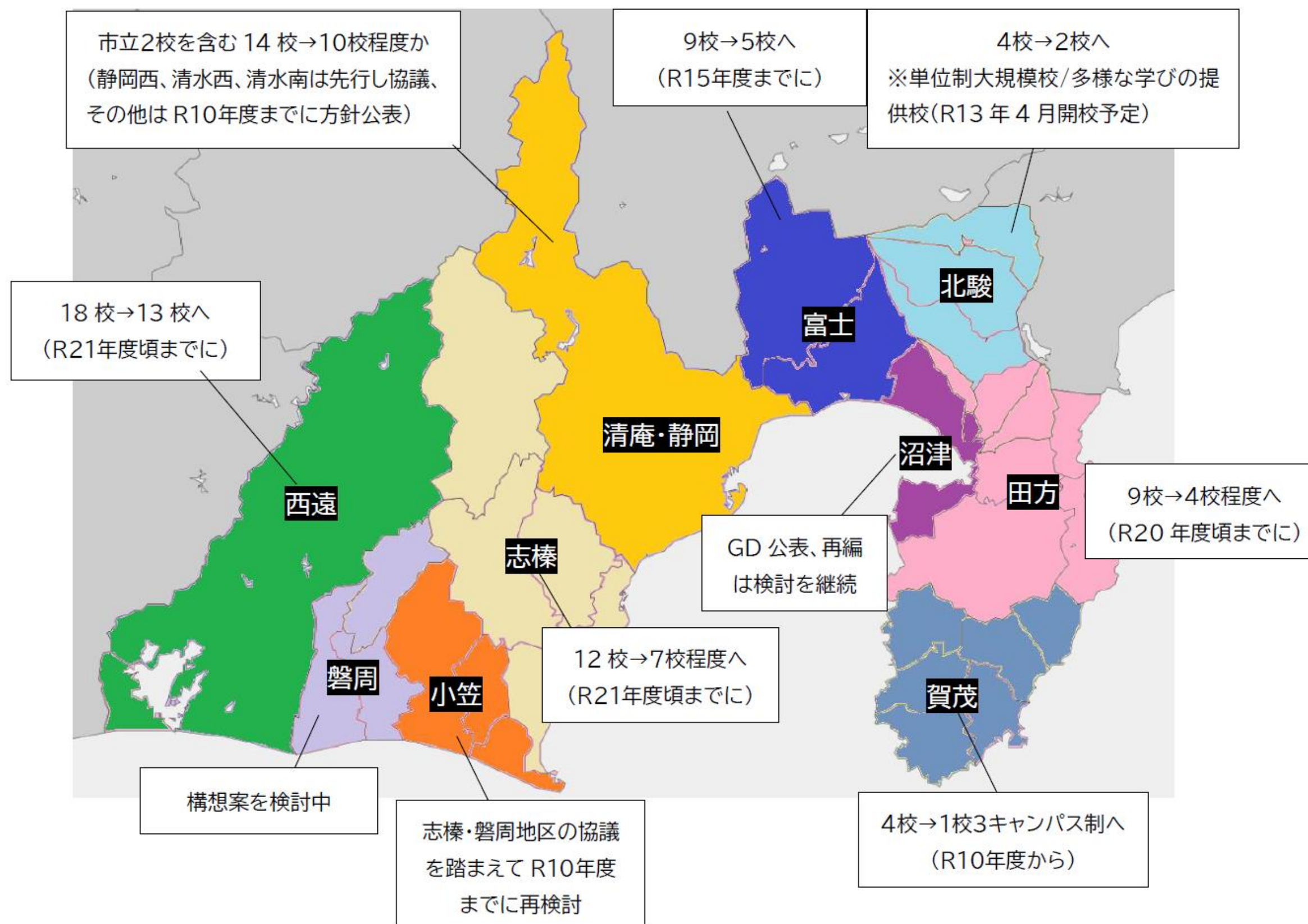
令和5年度～ 「静岡県立高等学校の在り方の基本計画 策定

→ 各地区に「地域協議会」を設置（※賀茂・小笠・沼津はR4年度に設置）

〔第1章〕

④県及び富士地区における高校再編の動き

2 協議会(県内各地区)の実施状況



〔第1章〕 ④県及び富士地区における高校再編の動き

3 富士地区の地域協議会とランドデザイン

※検討の進め方…関係地域の自治体の長、市町教育委員会の長、地元の産業界代表、地域の高等学校及び中学校
PTAの代表などから意見聴取(オブザーバーとして地元の公立高校校長、中学校長等)

回	日付	協議事項
1回	R6. 1/17	協議事項:富士地区における今後の県立高等学校の在り方について 現状について情報共有、富士地区に求められる教育内容、地域と学校の関わり、学びの質を確保するためにあるべき学校体制 等
2回	R6. 5/13	協議事項:「県立高校の在り方に関するアンケート」の内容について 富士地域へのアンケート(中3生・保護者・高2年)項目と質問内容の検討
3回	R6. 12/18	協議事項:富士地区の県立高校の今後の在り方について アンケート調査結果分析、地域支援、地域性を踏まえた高校の在り方を協議
4回	R7. 3/28	協議事項:ランドデザイン策定に向けた方向性の検討 県立高校の将来像、ランドデザイン策定の方向性、検討に関する論点整理
5回	R7. 7/17	協議事項:富士地区ランドデザイン 富士地区ランドデザインについての確認と完成

〔第1章〕

④県及び富士地区における高校再編の動き

富士地域〈公立高校〉のグランドデザイン

【課題認識・全県】

- 少子化が進行する中での高校の改革（配置と規模のあり方など）
- VUCA、Society5.0 など変化の激しい時代を生き抜く力

【課題認識・富士地域】

- 令和 20 年度までに生徒数は約 4 割減少、他地区への生徒流出も増加
- 急激な生徒数の減少により、県立高校の小規模校化が今後更に進行
- 地域資源も活用した産業構造の多様化や新たな産業の育成、若者層を地域産業の担い手として取り込むことが必要

【高校改革の基本認識・全県】

- 行ける学校から行きたい学校へ、画一から多様へ（学びの変革）
- 地域・実社会と共にある学校（開かれた学校づくり）
- 時代の変化を踏まえた教育基盤（学校の配置・規模等）

【高校改革の基本認識・富士地域】

- 学びの方向性：地域を知り、愛着を育み、地域を革新する「ふじの学び」
- 「先進的な探究学習」と「質の高い専門性」の学びをそれぞれの高校で掛け合わせて展開
- 豊かで多様な教育活動を可能にする学校規模、専門的な学科やコース等の設置、充実した施設・設備は不可欠

【目指す人物像】

- 地域を知り、地域に愛着を持ち、地域を革新する人
 - ・自然、産業、文化、歴史を尊重し、地域の発展に積極的に関わる人
 - ・異なる文化や価値観を理解し、グローバルな視点を持ち国内外で活躍する人
 - ・地域人材や資源を活用し、課題を主体的に解決する探究心のある人
 - ・多様な産業の中で、高度な知識や技能を発揮できる専門性の高い人

【求められる高校のあり方】

- ・高い技術や開発力を持つ企業等との連携による実践的・体験的な学び
- ・幅広い視野や新たな価値を見出す創造力等を育む教科横断的な学び
- ・将来を見据え、地域に貢献できる専門人材の育成（農・工・商・医療・福祉など）
- ・地域資源等を活用し、探究学習を通じた課題解決に必要な資質・能力の育成
- ・地区外の高校にはない、富士地区の産業構造に適応した質の高い専門性

【具現化のための方策】

【学びの変革のあり方】

- 「ふじの学び」の実践による特色ある学びの展開
 - ・学科間連携（普通×専門、専門×専門など）
 - ・学校間連携（研究活動、部活動、生徒会活動など）
 - ・教科横断的な学び（文理融合、STEAM 教育）、専門人材を育成する教育プログラム
 - ・地域イノベーションの実現（新しい産業分野の創出）
- セーフティネット機能や特別支援教育の充実
 - ・全日制、定時制、特別支援学校（分校含む）が連携したインクルーシブ教育の推進

【地域との連携のあり方】

- 地元企業、自治体等と協働した産業教育の展開
 - ・高い技術力や研究開発力を持つ企業等と連携した実践的・体験的なカリキュラムの構築
 - ・小・中学校、大学、企業、自治体等との連携による探究的な学びの拡充
 - ・県外や地区外へ進学又は就職しても、将来的に富士地区を主体的に創る人材の育成
 - ・地域、企業、自治体との連携等を通じた、地域への理解や愛着等を育む教育の推進

【教育基盤のあり方】

- 専門性の高い知識・技術を学べる学科やコース
 - ・普通×専門、専門×専門、総合学科の強化 など
 - ・生徒や社会のニーズに応じた新学科やコースの設置
- 生徒の能力を最大限に引き出す効果的な教育環境
 - ・多様な科目選択や多彩な生徒との関わりを実現する学校規模
 - ・幅広い知識や専門性の高い学びを実現する施設・設備の活用
- 改編（再編整備）の方向性
 - ・令和 15 年度までに、富士市は 3 校、富士宮市は 2 校の適正規模の公立高校に集約

〔第1章〕

④県及び富士地区における高校再編の動き

富士地域〈公立高校〉のグランドデザイン

イメージ

目指す人物像

地域を知り、地域に愛着を持ち、地域を革新する人

- ・自然、産業、文化、歴史を尊重し、地域の発展に積極的に関わる人
- ・異なる文化や価値観を理解し、グローバルな視点を持ち国内外で活躍する人
- ・地域人材や資源を活用し、課題を主体的に解決する探究心のある人
- ・多様な産業の中で、高度な知識や技能を発揮できる専門性の高い人

学びの方向性

地域を知り、愛着を育み、地域を革新する「ふじの学び」

◆先進的な探究学習

- ・学科・教科横断的な学び
- ・主体的なプロジェクト学習
- ・地域連携による地域愛育成

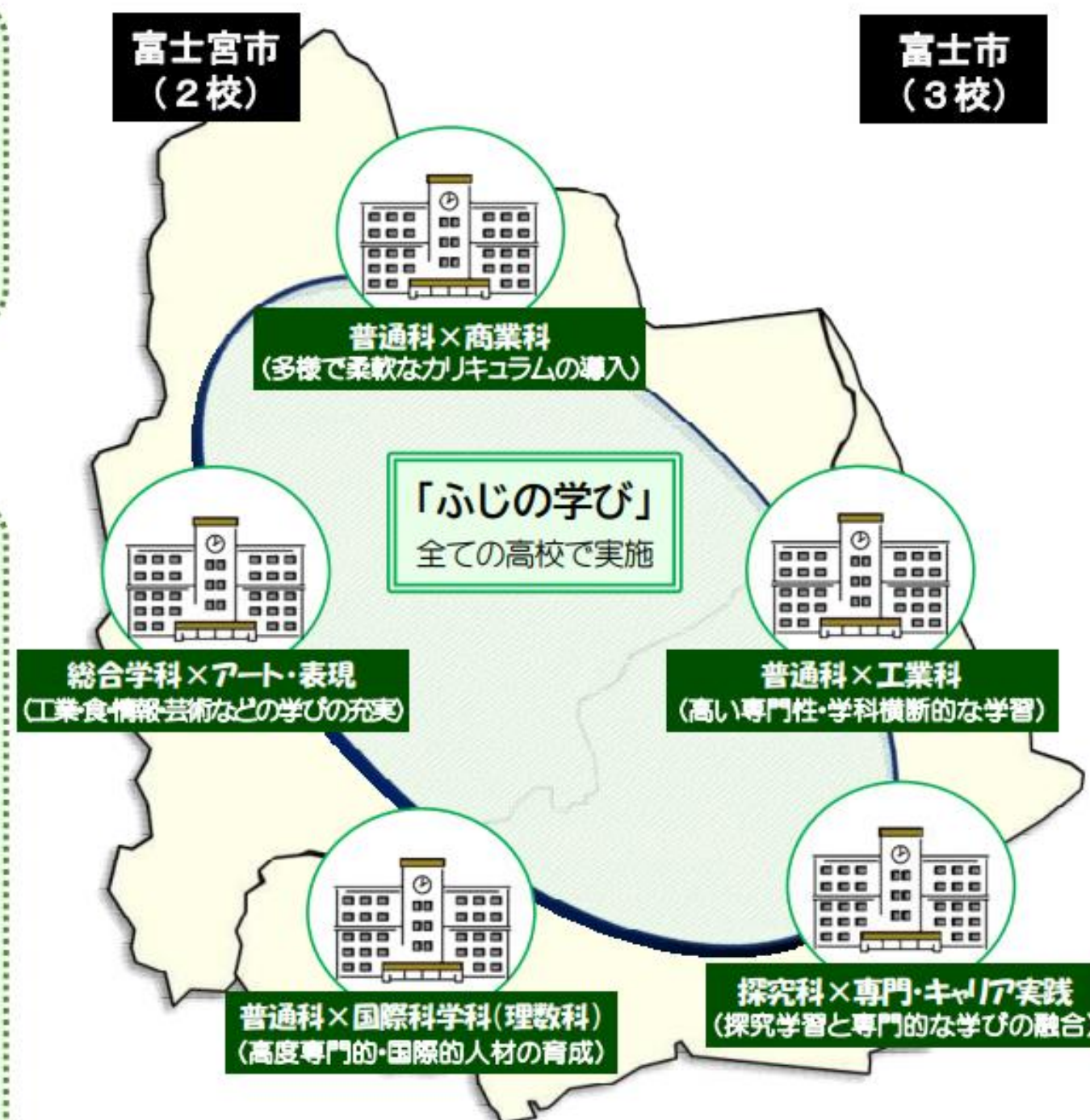
相乗効果

◆質の高い専門性

- ・専門人材の育成プログラム
- ・テクノロジーの効果的活用
- ・地元企業等との産業教育

◆「ふじの学び」に不可欠な教育基盤

- ・実践的な学びや探究学習が可能な施設・設備
- ・専門性の高い知識・技術を学べる学科やコース
- ・豊かで多様な教育活動 幅広い学びが可能な学校規模*



*「ふじの学び」に不可欠な適正規模(1学年6～8学級)に向けて県立高校の改編が必要
方向性 令和15年度までに富士市は3校、富士宮市は2校の適正規模の公立高校に集約

〔第1章〕

④県及び富士地区における高校再編の動き

3 富士地区公立高校の方向性とイメージ

「学びの変革」の方向性		
○富士地区のどの学校でも、多様な学びを提供 (分離融合やSTEAM教育、普通科＋専門学科、産学官の連携、総合学科の強化) ○学科間・学校間(ヨコ)の連携と、小中高大・企業・自治体等(タテ)の連携 ○全日制、定時制、特別支援学校等の連携、インクルーシブ教育		
「地域との連携」の方向性		
○産学官の連携による実践的・体験的なカリキュラムの構築(専門性の高い学び) ○卒業後、市の内外から将来的に富士地区を主体的に作る人材の育成 ○地域連携により、地元企業に関する知識・理解を深め(キャリア教育)るとともに地域理解と愛着を育成		
「教育基盤の確立」の方向性		
先進的な探究学習 × 質の高い専門性	・幅広い知識、実践、体験による高度専門的・国際的人材 ・モノづくりの高度化・すそ野の拡大を見据えた教科横断的な学習 ・ビジネスや起業も目指せる柔軟なカリキュラム	普通科 × 工業科 理数科 × 商業科 国際科
	・探究学習と専門的な学びを融合したキャリア教育	探究科
	・工業、食、情報など地域が必要とする実践的学びの充実	総合学科

〔第1章〕

⑤本審議会の設置根拠と構成組織、スケジュール等

1 設置根拠と構成

公立高校の再編を踏まえ、市立高校の今後の在り方についての検討を進めるため、富士市附属機関設置条例に基づき、教育委員会の附属機関として「富士市立高等学校在り方審議会」を設置する

所掌事項	委員の定数	委員の構成	委員の任期
教育に係る状況の変化を踏まえ、市立高等学校の在り方について審議すること。	9人以内	(1)商工関係団体の代表者等(1人) (2)公共団体の代表者等(1人) (3)学識経験者(5人) (4)学校教育関係者(2人)	令和8年 6月 1日 から 令和10年3月31日 まで

〔第1章〕

⑤本審議会の設置根拠と構成組織、スケジュール等

2 基本方針

富士市立高等学校の魅力向上に向けた方向性と具体策を諮問するとともに、必要に応じて学校運営全般についての見直しも検討する。

審議会における検討及び答申を踏まえ、静岡県教育委員会と協議しながら県立高校との役割分担を整理し、令和9年度中に再編方針を示し、中学生・保護者への説明機会を確保する。

〔第1章〕

⑤本審議会の設置根拠と構成組織、スケジュール等

3 諮問の基本軸

富士市立高等学校を、どのように
魅力化・価値付けするか。

〔第1章〕

⑤本審議会の設置根拠と構成組織、スケジュール等

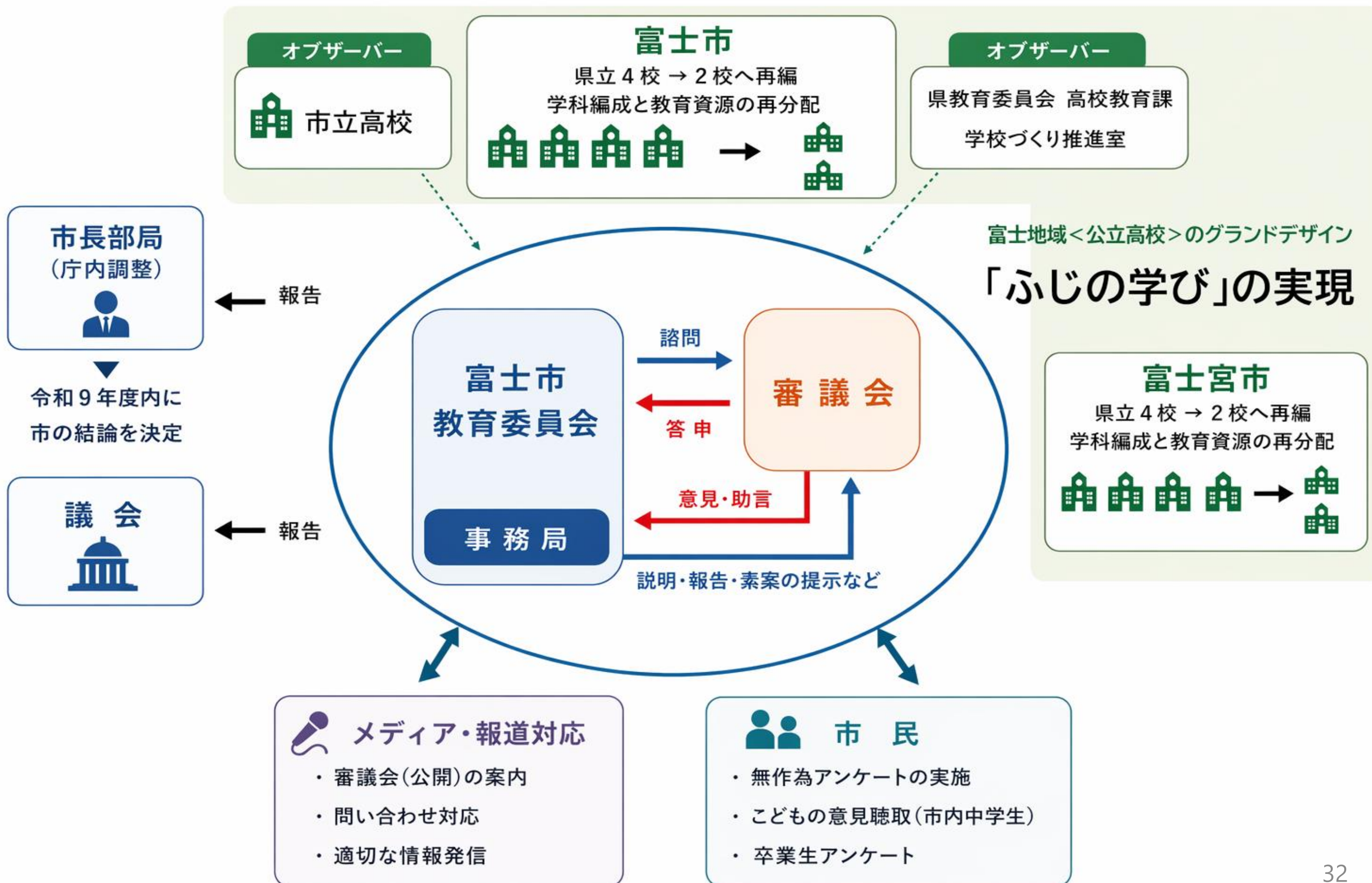
4 諮問の具体

富士市立高等学校の**一層の魅力向上を図るため、学校魅力化に向けた基本的な方向性について審議**されるとともに、**これを実現するための具体的な方策について**答申されたい。

また、必要に応じて、**学科構成、教育課程、学校行事等の見直しを含む学校運営の在り方についても検討**を加え、答申されたい。

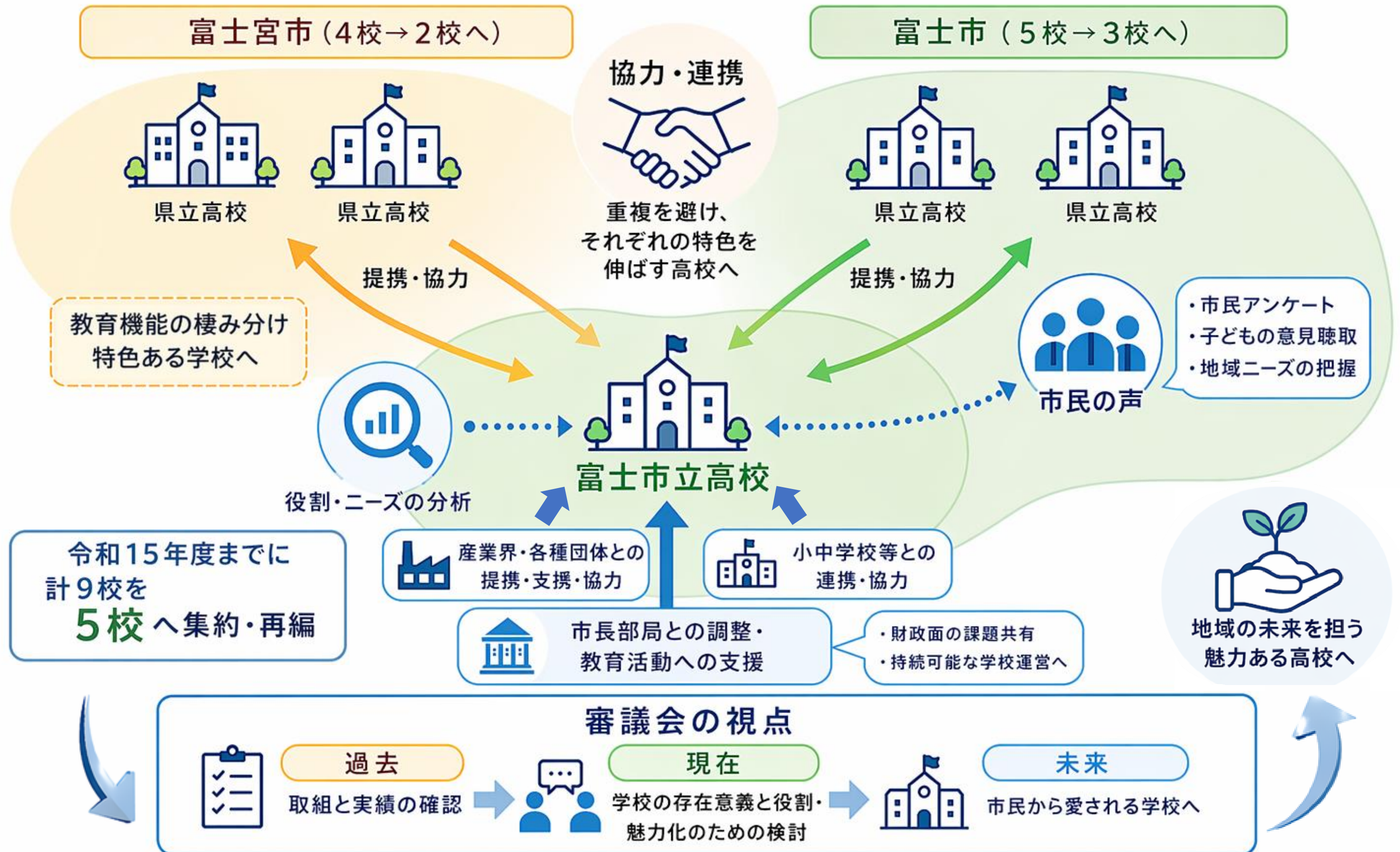
〔第1章〕

⑤本審議会の設置根拠と構成組織、スケジュール等



富士・富士宮地区の高校再編イメージ

～ 特色ある**5校**へ集約・再編し、地域の未来を支える高校づくりを～



〔第1章〕

⑤本審議会の設置根拠と構成組織、スケジュール等

回	時期	内容(予定)
第1回	7月13日(月)	(1)本審議会の趣旨 (2)本市の教育環境と市立高校 (3)諮問(市立高校の方向性、アンケート等実施報告) (4)委員からの意見等の集約
第2回	9月上旬	(1)市民アンケート・こどもの意見聴取(結果報告) (2)委員からの意見等の集約 (3)市立高校の方向性と具体的方策についての共有
第3回	11月下旬	(1)事務局から方向性(素案)の提示 (2)具体的方策についての検討、答申に向けた審議
第4回	2月下旬	(1)素案についての検討(1回目) (2)答申に向けた審議
第5回	令和9年度 5月中旬	(1)素案についての検討(2回目) (2)答申に向けた審議
第6回	7月中旬	(1)原案として最終確認、完成 (2)答申についての最終確認

〔第2章〕 富士市及び市立高校の現状整理

◆ 富士市の教育環境について

①市内教育施設、公立高校・近隣私立高校に係る基本情報

◆ 富士市立高等学校の基本情報

②学校概要、教育コンセプト、取組実績と現状

③改革実施計画検証後の在り方とその後の取組

④財政面からみる市立高校(高校教育費)

〔第2章〕 ①市内教育施設の基本情報

1 本市の教育環境(学校施設)・・・小学校26校、中学校15校、高校6校

● 小学校

■ 築40年以上 令和8年5月1日現在

No	施設名	所在地	延床面積 (㎡)	建築年度 (和暦)	築年数 (年)	普通学級数 在籍者数 (人)	特別支援学 級児童数 (人)	通常学級 (学級)	特別支援 学級数 (学級)
1	吉原小学校	高嶺町6番1号	8,886	S55	46	416	20	14	3
2	今泉小学校	今泉3丁目17番1号	10,535	S51	50	475	28	17	5
3	伝法小学校	伝法2743番地	9,493	H20	18	525	18	19	4
4	神戸小学校	神戸633番地	6,350	S60	41	171	5	7	2
5	元吉原小学校	今井3丁目4番2号	7,328	S45	56	223	14	9	3
6	東小学校	西船津220番地	3,370	S54	47	50	0	5	0
7	須津小学校	中里1019番地	7,498	S40	61	474	18	17	3
8	吉永第一小学校	比奈1431番地	5,759	S50	51	263	10	12	3
9	吉永第二小学校	鵜無ヶ淵149番地の1	5,380	S63	38	66	0	6	0
10	原田小学校	原田480番地	6,727	S42	59	310	8	12	2
11	大淵第一小学校	大淵3012番地	8,014	S45	56	423	34	15	7
12	富士第一小学校	本市場280番地の2	9,953	S41	60	601	12	20	2
13	富士第二小学校	横割1丁目8番1号	7,858	S33	68	489	15	17	3
14	田子浦小学校	中丸98番地	8,295	S38	63	638	18	22	3
15	岩松小学校	松岡850番地	7,938	H28	10	409	7	16	1
16	鷹岡小学校	久沢2丁目3番1号	8,126	S45	56	524	14	19	3
17	広見小学校	広見本町1番1号	8,459	S46	55	513	26	18	5
18	丘小学校	厚原2075番地	6,950	S48	53	778	26	25	4
19	富士見台小学校	富士見台1丁目12番地	7,513	S52	49	206	7	9	2
20	富士南小学校	宮下551番地	9,388	S53	48	883	32	28	5
21	天間小学校	天間50番地	6,624	S54	47	266	5	11	2
22	岩松北小学校	岩本123番地の1	8,079	H元	37	545	25	18	4
23	富士中央小学校	米之宮町295番地	7,658	H5	33	513	9	18	2
24	青葉台小学校	一色295番地	7,791	H10	28	507	18	18	3
25	富士川第一小学校	岩淵107番地	6,750	S39	62	290	10	11	2
26	富士川第二小学校	北松野1963番地の6	3,679	R4	4	238	7	10	1
小学校合計			194,399			10,796	386	393	74

※築年数は2026年度を基準に算定
※静岡県は、「静岡式35人学級編制」によって小学1年生から中学3年生までを35人学級で実施している

● 中学校

■ 築40年以上 令和8年5月1日現在

No	施設名	所在地	延床面積 (㎡)	建築年度 (和暦)	築年数 (年)	普通学級数 在籍者数 (人)	特別支援学 級生徒数 (人)	通常学級 (学級)	特別支援 学級数 (学級)
1	吉原第一中学校	永田北町7番1号	11,331	S36	65	552	22	17	4
2	吉原第二中学校	今泉1955番地	9,894	S54	47	477	15	14	3
3	吉原第三中学校	比奈2126番地	8,449	H元	37	331	17	11	3
4	元吉原中学校	鈴川中町28番1号	7,691	S46	55	136	4	6	2
5	須津中学校	中里1156番地	9,553	S52	49	282	13	9	3
6	大淵中学校	大淵2920番地	9,712	S41	60	288	25	9	4
7	富士中学校	中島320番地	11,797	H9	29	611	22	19	5
8	田子浦中学校	中丸411番地	9,190	S48	53	260	6	9	2
9	岩松中学校	松岡2353番地の1	8,791	S45	56	528	6	17	1
10	富士南中学校	森島550番地	11,308	S37	64	695	25	21	4
11	鷹岡中学校	久沢713番地	10,641	S41	60	436	8	14	2
12	岳陽中学校	伝法630番地	11,221	S49	52	688	14	22	3
13	吉原北中学校	原田2259番地	8,638	S56	45	292	8	10	2
14	富士川第一中学校	岩淵855番地の3	6,762	S48	53	148	5	6	2
15	富士川第二中学校	北松野1963番地の6	6,081	R4	4	149	5	6	2
中学校合計			141,058			5,873	195	190	42

※築年数は2026年度を基準に算定

● 高等学校

令和8年5月1日現在

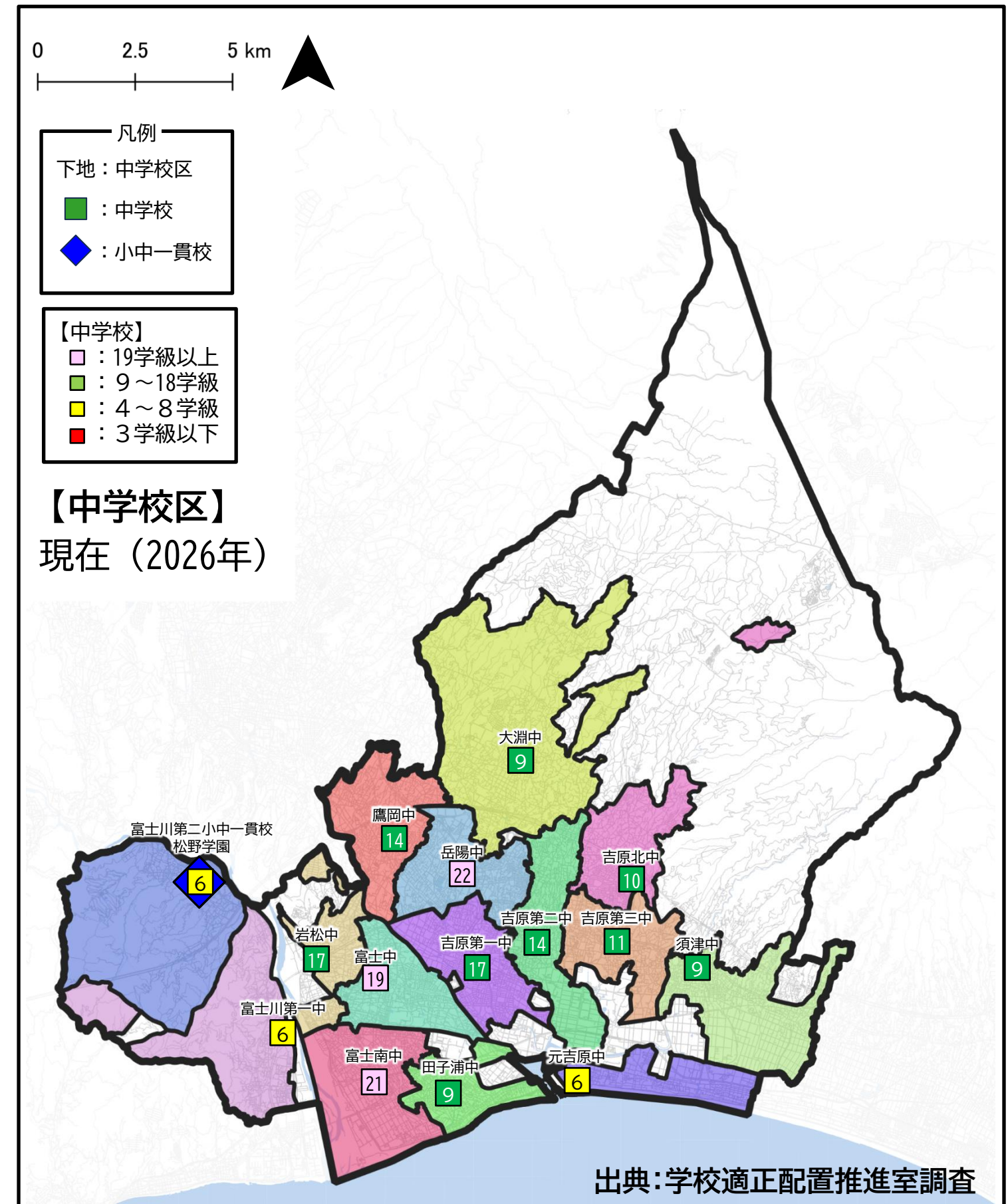
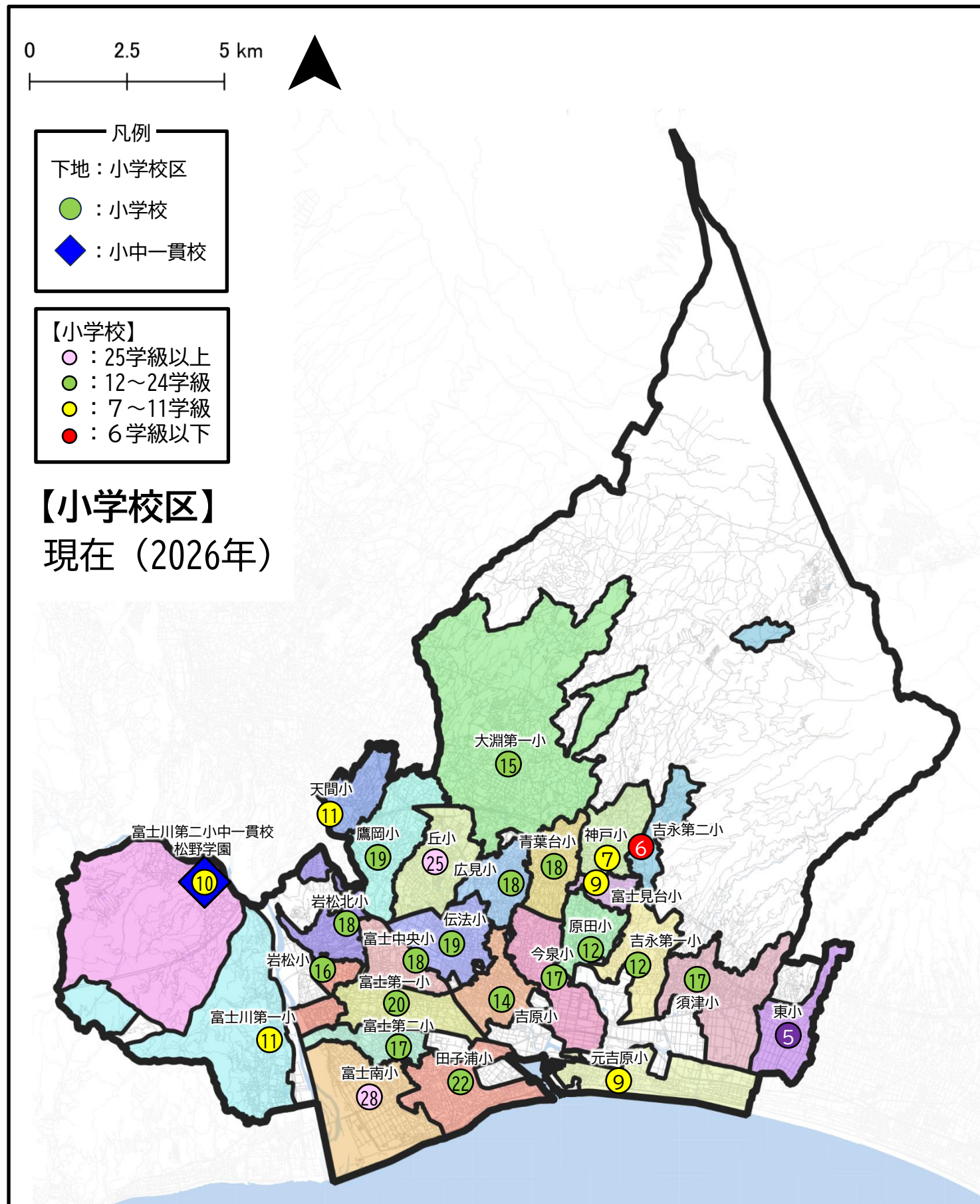
NO	区分	高校名	所在地	延床面積(㎡)	建築年度(和暦)	築年数(年)	在学生(人)	クラス数
1	県立	吉原高校	今泉2160番地	7,983	S55	44	494	12
2	県立	吉原工業高校	比奈2300番地	20,705	H7	29	392	12
3	県立	富士高校	松本17番地	15,348	S40/H10	59/26	796	18
4	県立	富士東高校	今泉2921番地	11,263	S53	46	523	12
5	市立	富士市立高校	比奈1654番地	18,141	H4	32	706	18
6	私立	静岡県富士見高校	平垣町1-1	—	—	—	1030	36

※各校のデータは令和7年度学校要覧及び学校HPより掲載
※築年数は2026年度を基準に算定

出典:学校適正配置推進室調査
作成:富士市教育委員会

〔第2章〕

①市内教育施設の基本情報



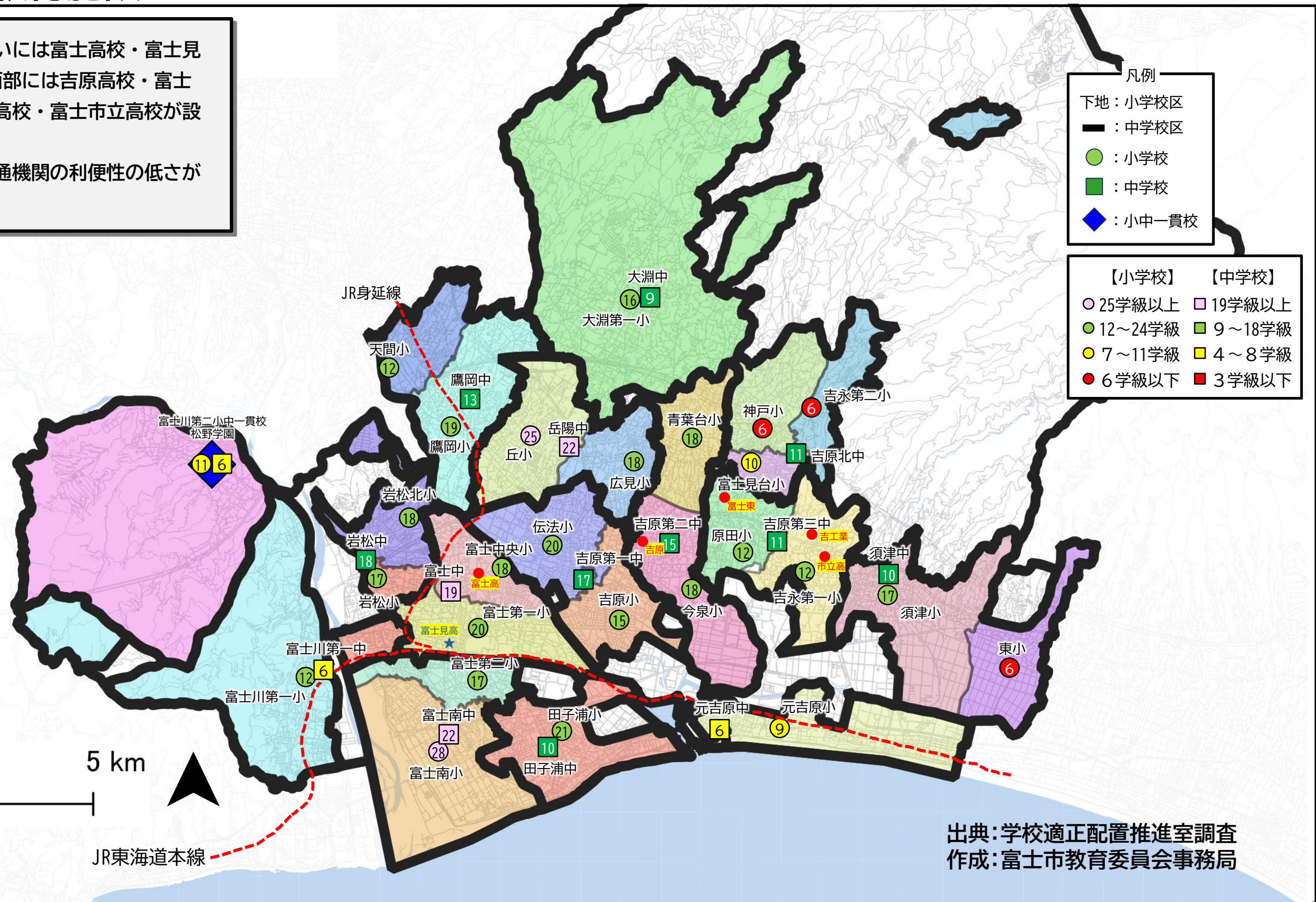
出典：学校適正配置推進室調査

〔第2章〕

①市内教育施設の基本情報

富士市内の教育施設 現在（2026年）

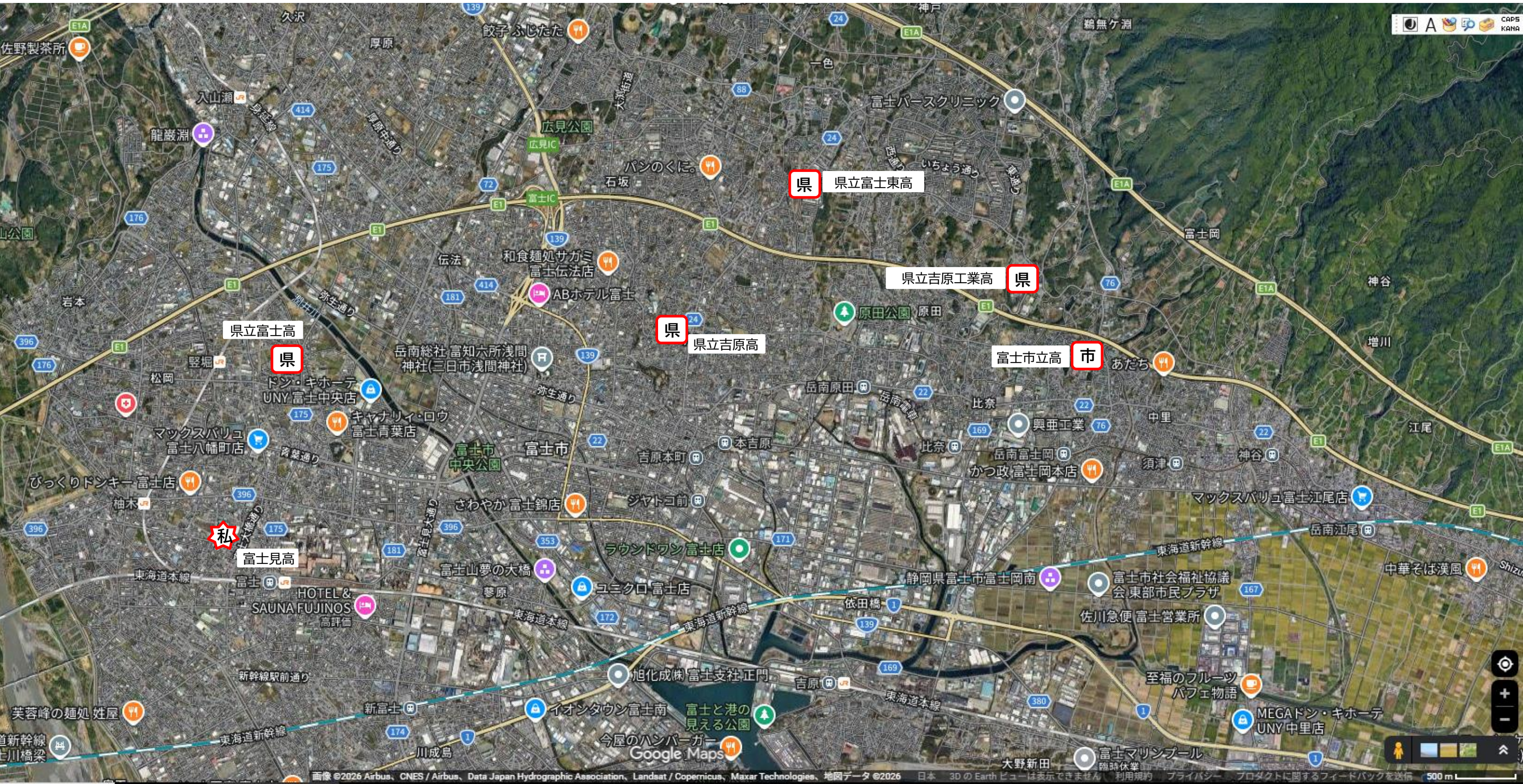
- ・ 市内東部の路線沿いには富士高校・富士見高校が、市内中西部には吉原高校・富士東高校・吉原工業高校・富士市立高校が設置されている。
- ・ 学校の偏在性や交通機関の利便性の低さが課題である。



〔第2章〕

①公立高校・近隣私立高校に係る基本情報

富士市内の教育施設 現在（2026年）



〔第2章〕

①公立高校・近隣私立高校に係る基本情報

1 本市の教育環境(高校)

〈参考〉近隣私立高校

項目	吉原高校	吉原工業高校	富士高校	富士東高校	富士市立高校	富士見高校	星陵高校
 創立年度	明治 42 年 (創立 116 年)	昭和 32 年 (創立 68 年)	大正 11 年 (創立 103 年)	昭和 53 年 (創立 47 年)	昭和 37 年 (創立 63 年)	昭和 2 年 (創立 99 年)	昭和 50 年 (創立 50 年)
 所在地	明治 42 年 吉原市日吉町一丁目に開校 昭和 29 年 富士市今泉(現在地)に移転	昭和 32 年 富士市比奈(現在地)に開校	大正 11 年 富士市松本(現在地) に開校	昭和 53 年 富士市今泉(現在地) に開校	昭和 37 年 富士市比奈(現在地) に開校	昭和 2 年 静岡県富士見女学校開設 (女子校) 1994-2000 段階的に 男女共学化	昭和 50 年 5 月 星陵高等学校の設置 (男子校) 1994-男女共学化
 現学校 規模	全日制 = 募集定員 4 学級	全日制 = 募集定員 4 学級	全日制 = 募集定員 6 学級	全日制 = 募集定員 4 学級	全日制 = 募集定員 6 学級	全日制 = 30 学級程度	全日制 = 38 学級
 生徒数	全校生徒 494 人 1 年 167 人 2 年 164 人 3 年 163 人	全校生徒 392 人 1 年 160 人 2 年 138 人 3 年 94 人	全校生徒 796 人 1 年 248 人 2 年 270 人 3 年 278 人	全校生徒 523 人 1 年 164 人 2 年 166 人 3 年 193 人	全校生徒 706 人 1 年 249 人 2 年 237 人 3 年 220 人	全校生徒 1,030 人	全校生徒 1,292 人
 教職員数	教諭等 38 非常勤 9 助手 1 (48)	教諭等 50 非常勤 12 助手 3 (65)	教諭等 48 非常勤 10 助手 2 (60)	教諭等 32 非常勤 9 助手 2 (43)	教諭等 67 非常勤等 12 部活指導 12 (91)		
 設置する 学科	普通科 394 国際科 100	理数化学科 47 機械工学科 68 ロボット工学科 45 電気情報工学科 72	普通科 686 理数科 110	普通科 523	総合探究科 341 ビジネス探究科 239 スポーツ探究科 126	特進コース 248 総合コース 782	英数科 (総合・英数・中高一貫) 普通科 (進学・普通)
 校舎の 築年	校舎棟 (1980 年 : 築 45 年)	本館 (1995 年 : 築 30 年)	管理棟 (1965 年 : 築 60 年) 普通教室棟 (1998 年 : 築 27 年)	教室棟 (1978 年 : 築 47 年)	校舎 (1992 年 : 築 33 年)		

出典: 学校要覧(公立高校)、独自調査(私立高校)

作成: 富士市教育委員会事務局

〔第2章〕

①公立高校・近隣私立高校に係る基本情報

1 本市の教育環境(市内公立5校 比較)

出典:各校学校要覧より
作成:富士市教育委員会事務局

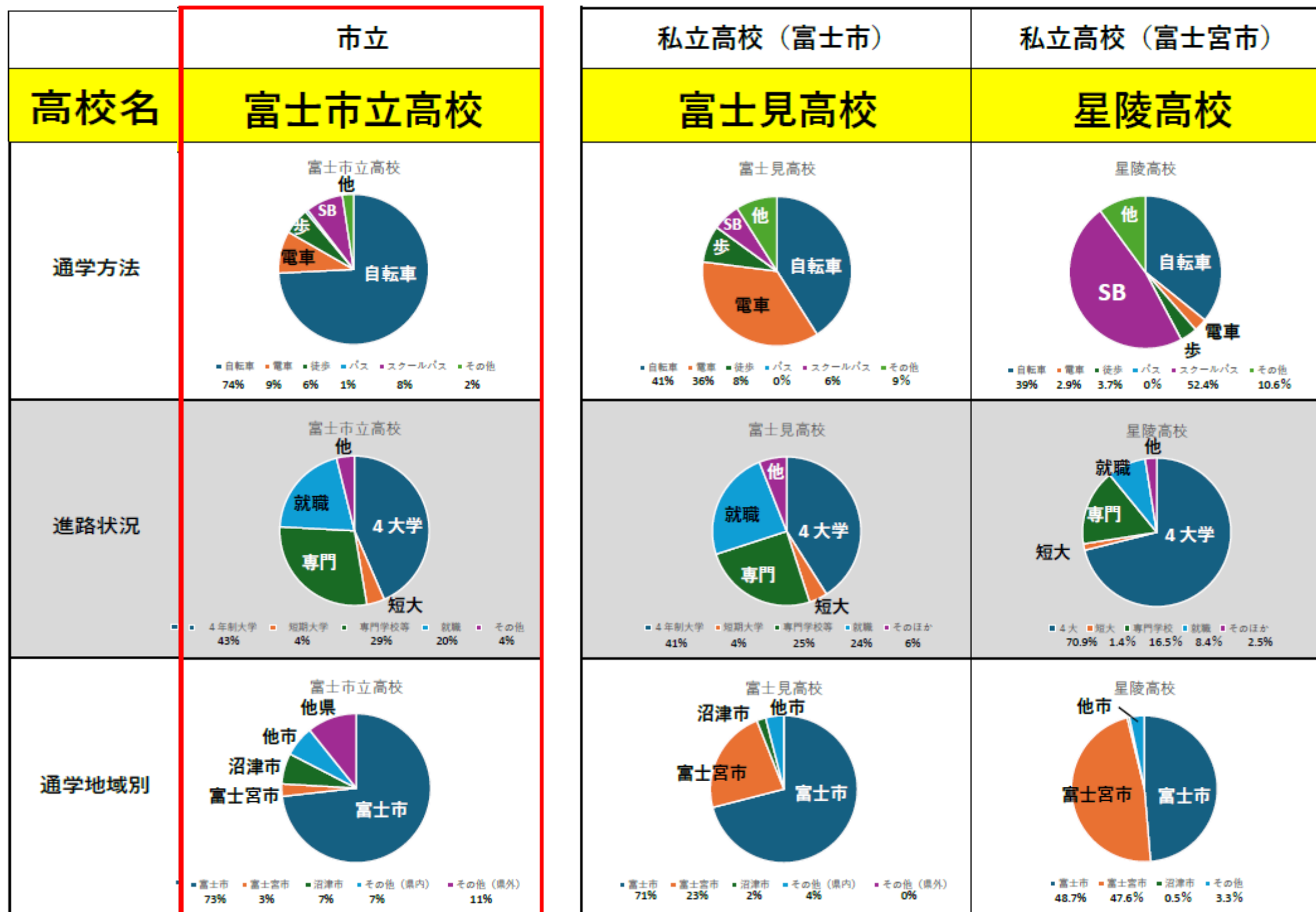
	県立	県立	県立	県立	市立
高校名	吉原高校	吉原工業高校	富士高校	富士東高校	富士市立高校
通学方法	吉原高校 ■ 自転車 82% ■ 電車 1% ■ 徒歩 5% ■ バス 5% ■ スクールバス 0% ■ その他 5%	吉原工業高校 ■ 自転車 85% ■ 電車 1% ■ 徒歩 7% ■ バス 2% ■ スクールバス 0% ■ その他 6%	富士高校 ■ 自転車 62% ■ 電車 28% ■ 徒歩 7% ■ バス 1% ■ スクールバス 0% ■ その他 2%	富士東高校 ■ 自転車 83% ■ 電車 1% ■ 徒歩 5% ■ バス 1% ■ スクールバス 6% ■ その他 4%	富士市立高校 ■ 自転車 74% ■ 電車 9% ■ 徒歩 6% ■ バス 1% ■ スクールバス 8% ■ その他 2%
進路状況	吉原高校 ■ 4年制大学 83% ■ 短期大学 3% ■ 専門学校等 12% ■ 就職 0% ■ その他 2%	吉原工業高校 ■ 4年制大学 7% ■ 短期大学 0% ■ 専門学校等 14% ■ 就職 79% ■ その他 0%	富士高校 ■ 4年制大学 89% ■ 短期大学 0% ■ 専門学校等 1% ■ 就職 0% ■ その他 9%	富士東高校 ■ 4年制大学 92% ■ 短期大学 2% ■ 専門学校等 3% ■ 就職 0% ■ その他 2%	富士市立高校 ■ 4年制大学 43% ■ 短期大学 4% ■ 専門学校等 29% ■ 就職 20% ■ その他 4%
通学地域別	吉原高校 ■ 富士市 95% ■ 富士宮市 3% ■ 沼津市 1% ■ その他(県内) 1% ■ その他(県外) 0%	吉原工業高校 ■ 富士市 85% ■ 富士宮市 13% ■ 沼津市 1% ■ その他(県内) 1% ■ その他(県外) 1%	富士高校 ■ 富士市 72% ■ 富士宮市 28% ■ 沼津市 0% ■ その他(県内) 0% ■ その他(県外) 0%	富士東高校 ■ 富士市 93% ■ 富士宮市 5% ■ 沼津市 0% ■ その他(県内) 2% ■ その他(県外) 0%	富士市立高校 ■ 富士市 73% ■ 富士宮市 3% ■ 沼津市 7% ■ その他(県内) 7% ■ その他(県外) 11%

〔第2章〕

①公立高校・近隣私立高校に係る基本情報

1 本市の教育環境(近隣私立高校との比較)

作成:富士市教育委員会事務局 独自調査



〔第2章〕

②学校概要、教育コンセプト、取組実績と現状

2 富士市立高校の沿革、学校改編～今日まで／開校の理念

【沿革等】

昭和37年4月 吉原市立商業高等学校として開校

昭和41年4月 普通課程の併設

// 11月 富士市との合併＝富士市立吉原商業高等学校となる

平成19年～ 市立高校の改編について検討を開始

魅力化のための検討

- ・「あり方懇話会」報告書の提出
- ・改革基本構想／市立高校開設準備委員会
- ・改革基本計画／改革実施計画

平成23年4月 富士市立高等学校として開校

〔第2章〕

②学校概要、教育コンセプト、取組実績と現状

2 富士市立高校の沿革、学校改編～今日まで／開校の理念

◆吉原商業高校時代

昭和41年 商業科に加え普通科を併設(普通科、商業科)

昭和48年 小学科制に改編(営業科、経理科、事務科)

昭和61年 小学科制を解消(商業科A、商業科B、情報処理)

平成 6年 商業経済コース、進学コース、情報処理コース

平成15年 ビジネスコース、進学コース、情報処理コース

◆富士市立高校

平成23年 ‘総合型単位制高校’として改編

総合探究科、ビジネス探究科、スポーツ探究科

〔第2章〕

②学校概要、教育コンセプト、取組実績と現状

3 富士市立高校の取組実績と現状

【基本データ】 ※令和8年5月1日現在

◆創立 昭和37年(1962年)4月1日

◆課程 全日制単位制

◆全校生徒数(男女内訳)・・・686人(男361人/女325人)

◆設置学科、募集人数

総合学科(120人)	ビジネス探究科(80人)	スポーツ探究科(40人)
幅広い知識や教養と自律の姿勢を養う、大学進学後を意識した学習のノウハウを学ぶ専門学科	ビジネスを理論的、実践的に学ぶ、進学や高度な資格取得に対応する専門学科	心身を鍛え、スポーツを科学的、理論的に学ぶ、静岡県内高校で唯一のスポーツ専門学科

〔第2章〕

②学校概要、教育コンセプト、取組実績と現状

3 富士市立高校の取組実績と現状

【基本データ】

◆校章 青い富士を背景に「F」の文字で囲む
夢や希望、自律する若者の向上心
また、地域社会との交流をイメージ

◆校訓 「考 え よ」

◆教育目標 「自律する若者」～未見の我を探そう～

◆教育方針 「C・D・I」の実践

郷土愛を胸に、夢の実現にチャレンジ
し、様々な世界で活躍する若者を育成

確かな学力
主体的・対話的
で深い学び

探究の精神

未来を
切り拓く力

郷土への誇り



〔第2章〕

②学校概要、教育コンセプト、取組実績と現状

3 富士市立高校の取組実績と現状

【教育方針】「 C・D・I 」 3つのコンセプト

C : コミュニティ・ハイスクール

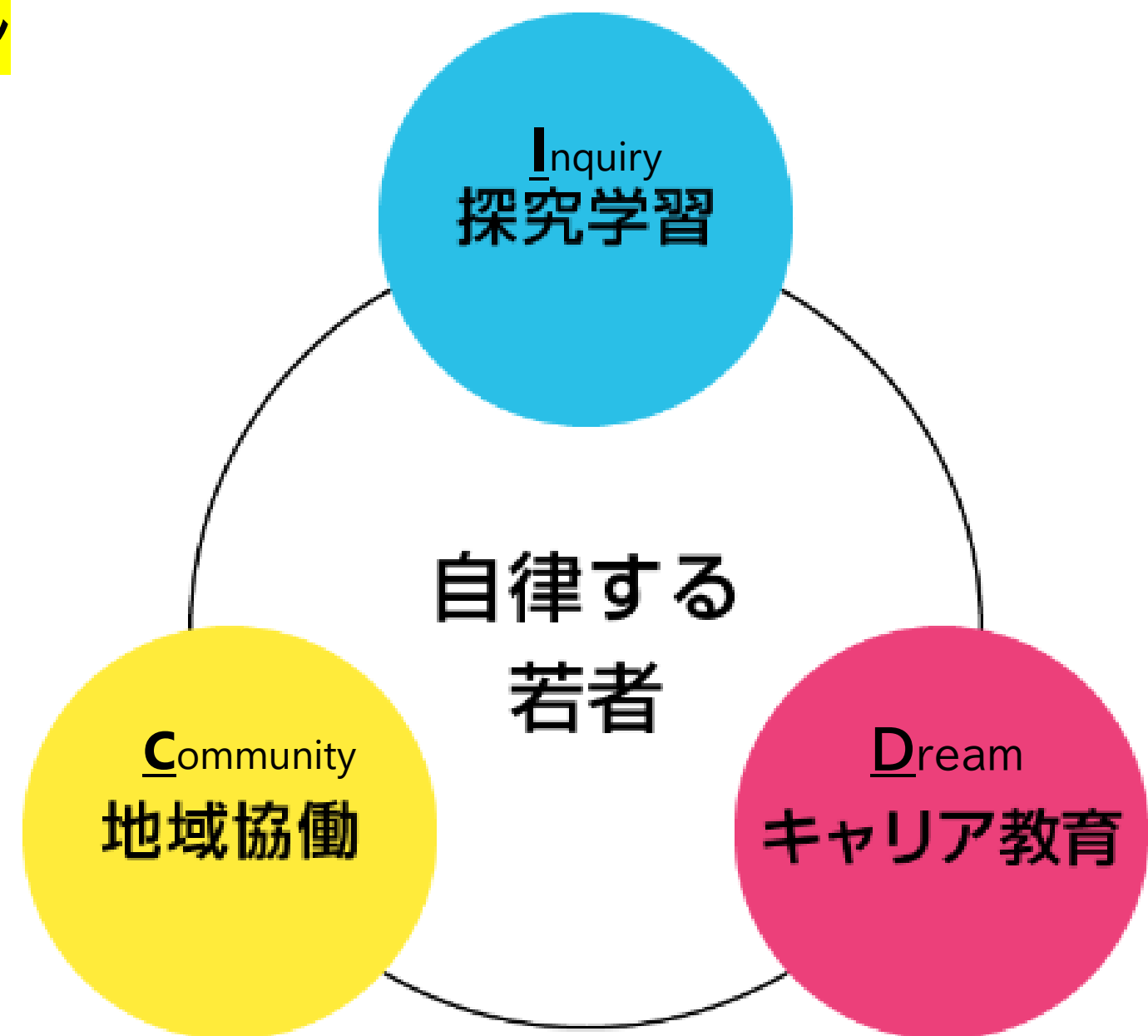
(地域協働)

D : ドリカム・ハイスクール

(キャリア教育)

I : 探究・ハイスクール

(探究学習)



〔第2章〕

②学校概要、教育コンセプト、取組実績と現状

3 富士市立高校の取組実績と現状

【教育方針】

C：コミュニティ・ハイスクール（地域協働）

⇒地域から愛される、魅力ある学校であり続ける
地域教育の拠点化を目指し、交流を進め、発信する

D：ドリカム・ハイスクール（キャリア教育）

⇒生徒の夢の実現のために全力を尽くす
「本物と出会う体験」、「社会とつながる学び」を重視する

I：探究・ハイスクール（探究学習）

⇒探究学習を教育の柱とし、教育活動全般で実践する
探究の取組をさらに広げ、活動のレベルを上げる

〔第2章〕

②学校概要、教育コンセプト、取組実績と現状

【教育方針】

C：コミュニティ・ハイスクール（地域協働）

⇒地域から愛される、魅力ある学校であり続ける
地域教育の拠点化を目指し、交流を進め、発信する

◆「市役所プラン」・・・地域の魅力と課題を見つけ、企画・提案

◆「人工芝で遊ぼう」・・・学校施設を活用した地域交流事業

◆「多世代交流サッカー」「Def(聴覚障害)サッカー教室」

・・・スポーツを通じた地域住民との交流事業

◆「高校生といっしょに遊ぼう」・・・放課後子ども教室

◆プロスポーツチームとの連携

◆「吉原宿場まつり」地域イベント参画、◆24時間テレビチャリティー

〔第2章〕

②学校概要、教育コンセプト、取組実績と現状

【教育方針】

D：ドリカム・ハイスクール（キャリア教育）

⇒生徒の夢の実現のために全力を尽くす

「本物と出会う体験」、「社会とつながる学び」を重視

◆職業人講話(1年)

◆大学・学部研究(2年)

◆個別指導(3年)

◆キャリア講演会

◆課題補講・土曜学習

◆連携型キャリア支援活動

〔第2章〕

②学校概要、教育コンセプト、取組実績と現状

【教育方針】

I：探究・ハイスクール（探究学習）

⇒社会とのつながりを意識した課題解決型の探究学習
特定の時間や活動のみではなく、学校の教育活動全体で
探究を意図して行い、認知能力・非認知能力の向上に繋げる

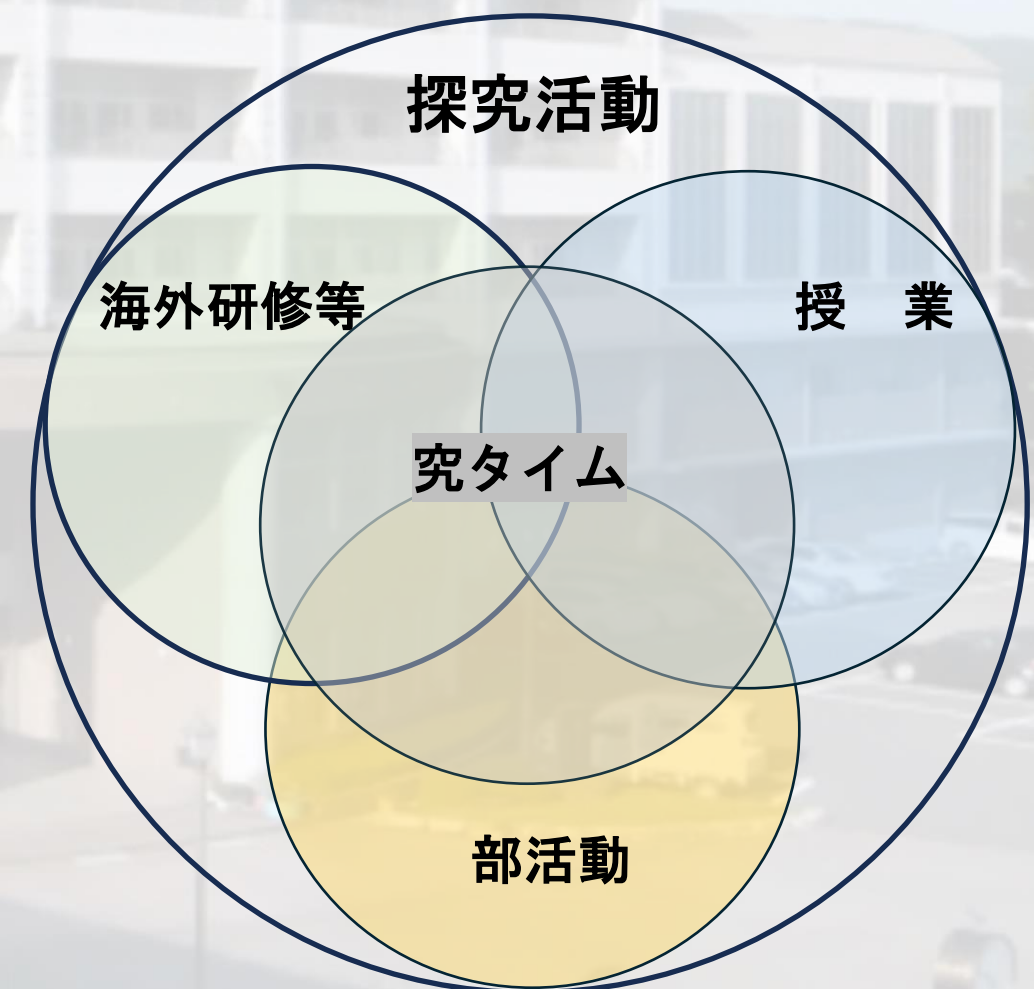
◆「究タイム」(総合的な探究の時間)

◆各教科 授業での探究学習

◆学校行事での探究活動

◆海外探究研修、集中研修

◆各部活動での探究活動



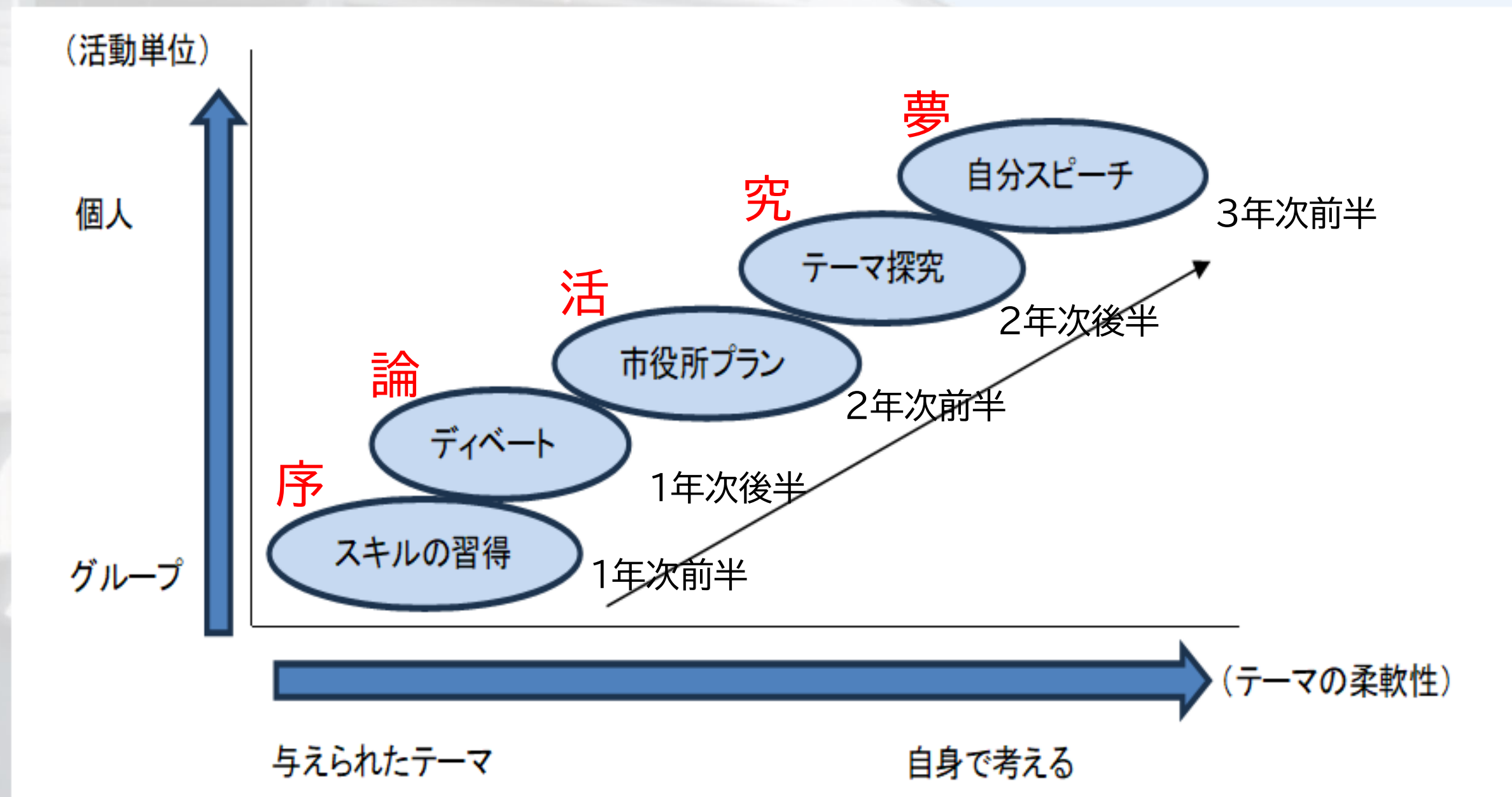
〔第2章〕

②学校概要、教育コンセプト、取組実績と現状

【教育方針】

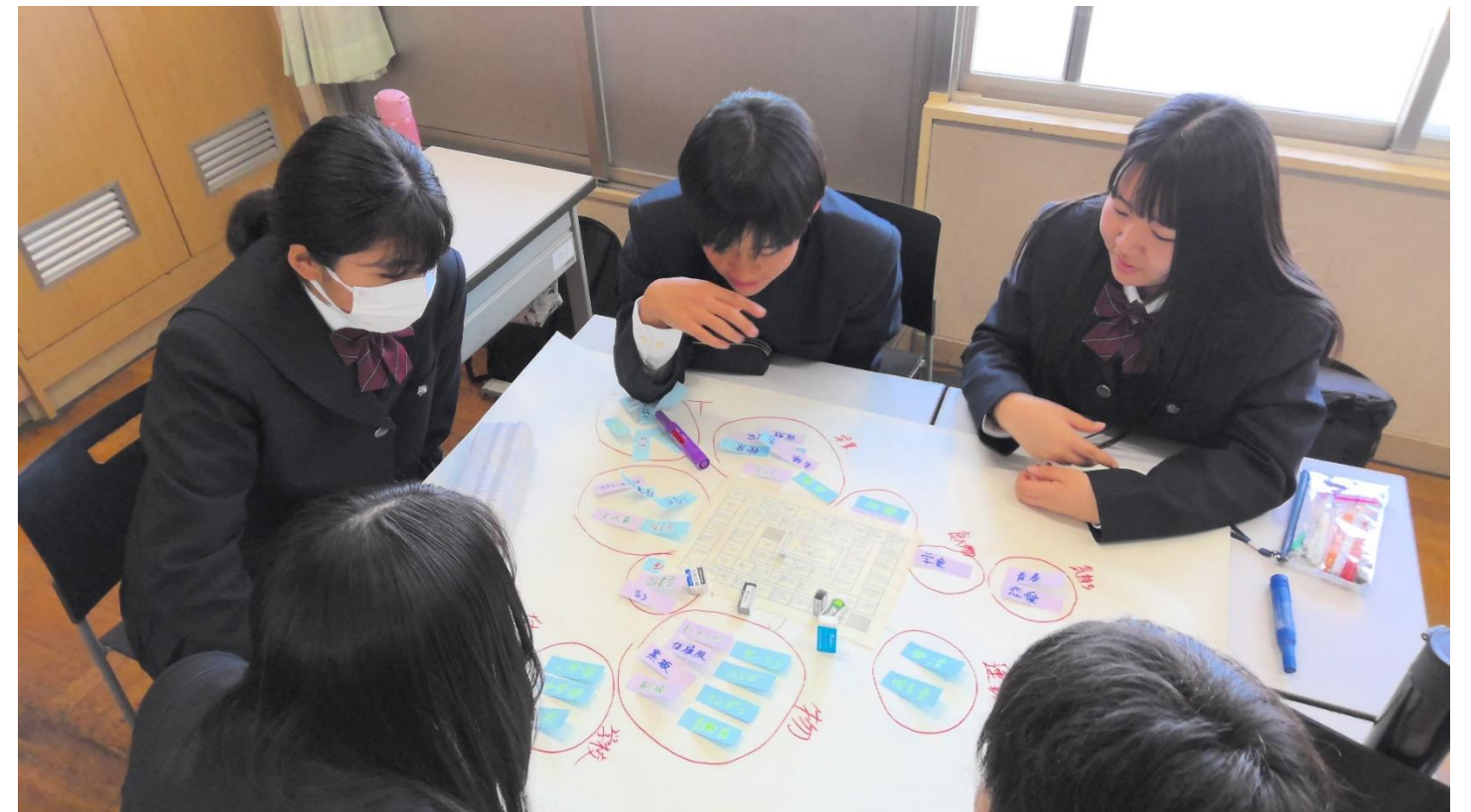
I：探究・ハイスクール（探究学習）

◆総合的な探究の時間(究タイム)・・・5段階の課題解決学習



究タイム 「序」 1年前期:探究スキル習得

ブレインストーミング、KJ法など、課題を見つけ、情報を集め、まとめて、表現するための基本的な方法を学びます。



究タイム 2 「論」 1年生後期:ディベート

ディベートにチームで取り組みことで、多角的な見方や論理的な考え方を学び、コミュニケーション力や協働力を高めます。

部活動は地域展開すべきである



究タイム 3 「活」 2年前期:市役所プラン

地域に入り込み、魅力と課題を見つけ出し、地域の方と高校生にできることを、**企画・提案**することで、地域の一員としての意識を高めます。



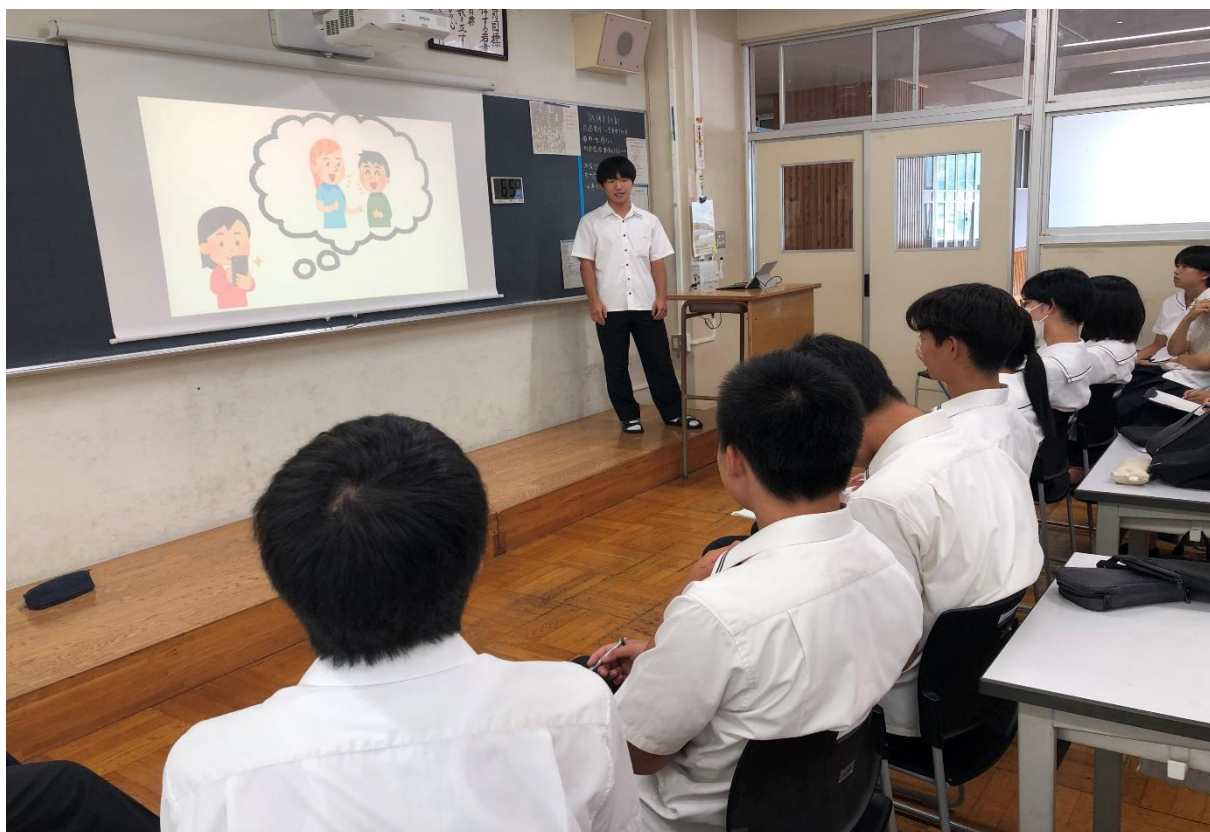
究タイム 4 「究」2年後期:テーマ学習

これまで身に付けた力を活用して、**自分自身で設定したテーマ**を探究することで、社会問題や自分の将来について視野を広げます。



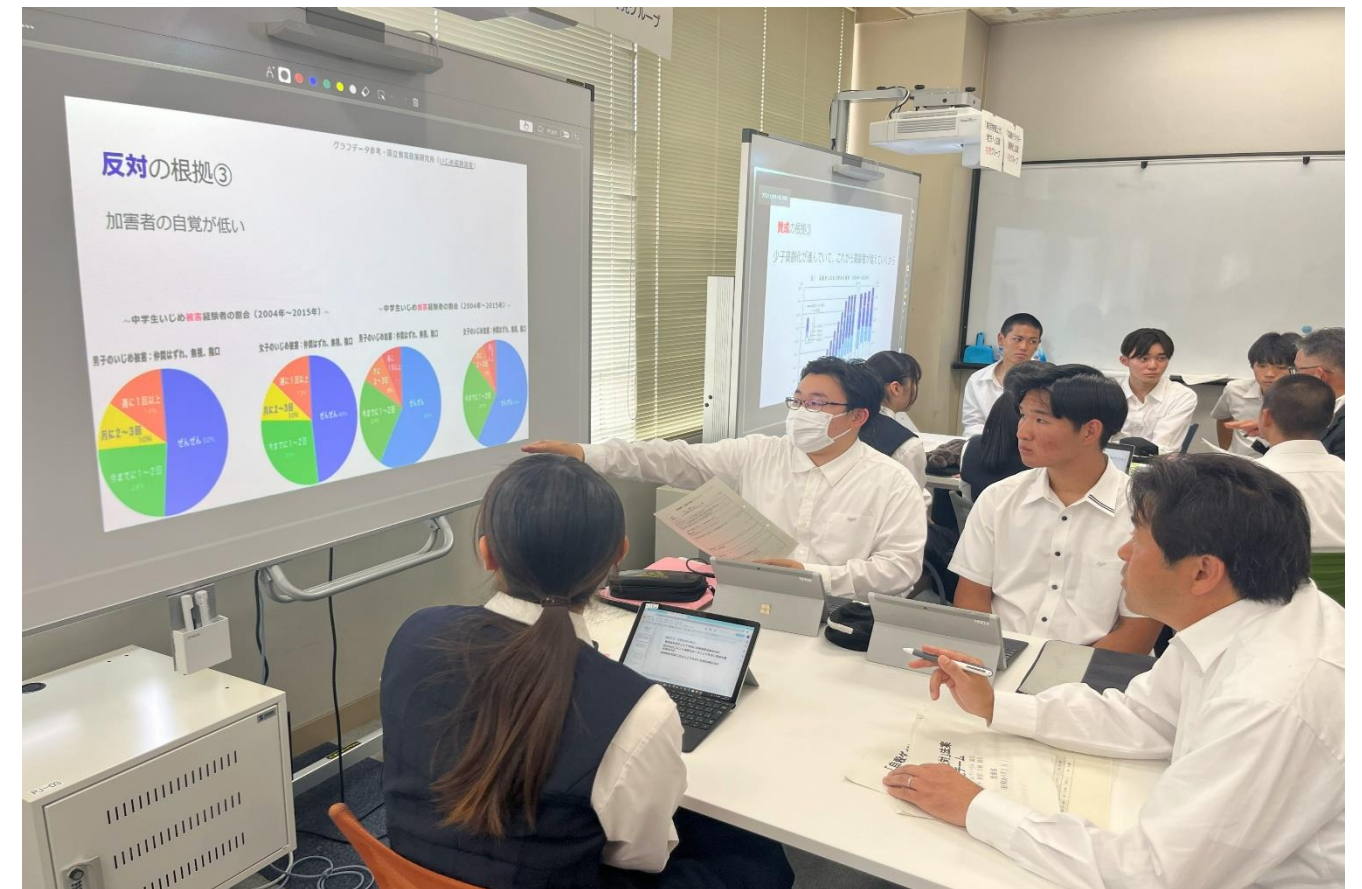
究タイム 5 「夢」3年前期：自分スピーチ

これまでの学習を振り返ることで、気づきや自らの成長を自覚し、**自分自身の将来**との繋がりを意識したスピーチの作成を通して、進路意識を高めます。



各教科での探究学習

社会探究β



財務局との協働プログラム：2024年の国家予算を考える

各教科での探究学習

人文探究α



ビブリオバトル:お気に入りの本を紹介
SPACとの協働プログラム:朗読発表会を実施

各教科での探究学習

商品開発



**農協との協働プログラム：地元農産物を使った新商品の開発
（一般社団法人i.clubとの連携：イノベーションの授業）**

学校行事での探究学習

体育祭運営

スポーツ探究科の生徒
が自ら体育祭を企画し
運営を行っている



その他の主体的な探究学習（地域交流・企業連携）

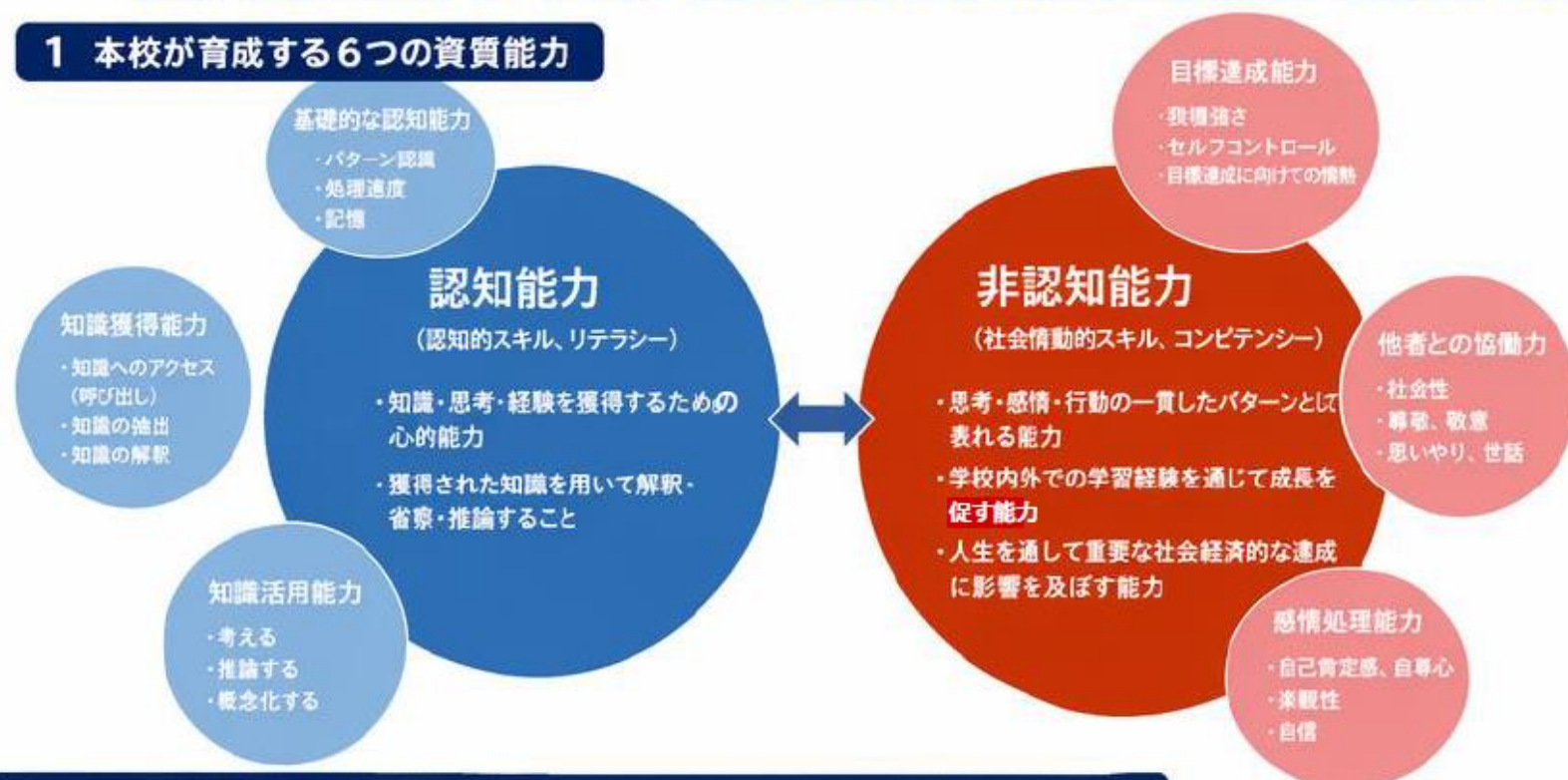


探究学習と非認知能力 定量データ

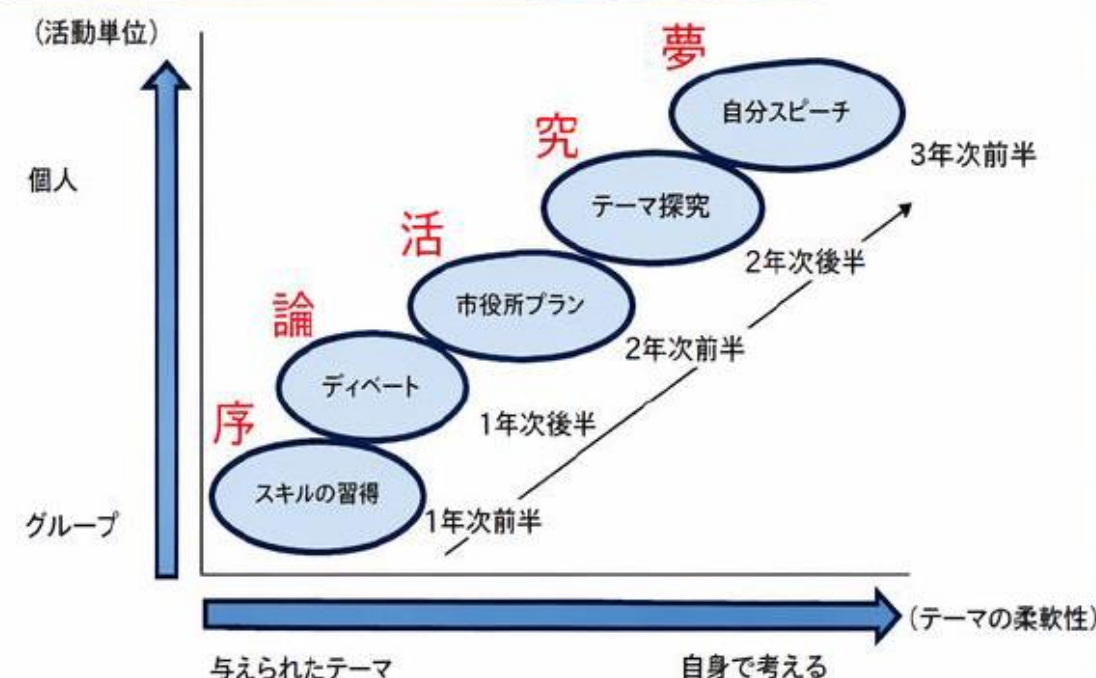
富士市立高校の探究学習の取組と成果 ～非認知能力の育成で、未来を切り拓く力を育てる～

課題解決型の探究学習や多様な体験活動を通して、認知能力と非認知能力の両面を伸ばし、生徒一人ひとりが新しい時代を主体的に生き抜く力を育成しています

1 本校が育成する6つの資質能力

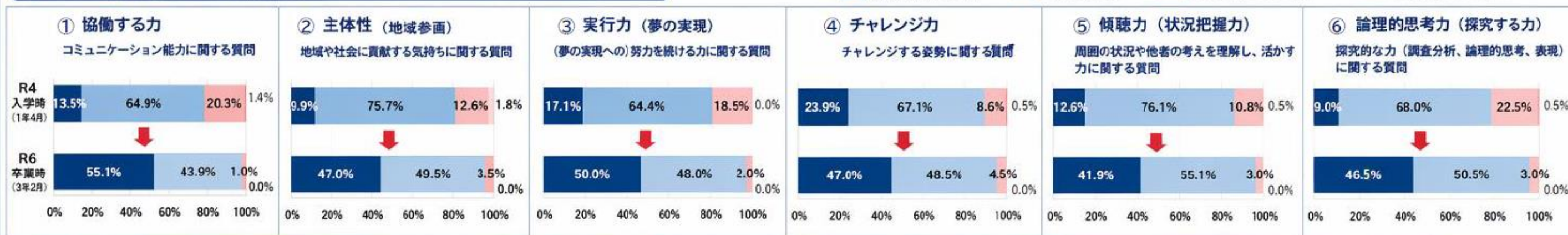


2 探究学習の5段階プロセス (総合的な探究の時間)



3 6つの資質能力の3年間の伸長 (R4入学時(1年4月) → R6卒業時(3年2月))

■ かなり持っている ■ 持っている ■ あまり持っていない ■ 全く持っていない



4 能力を伸ばした主な活動 (R6 卒業生アンケートより「身に付いた活動」の上位)

	協働する力 (コミュカ)	主体性 (地域参画)	実行力 (夢の実現)	チャレンジ力	傾聴力 (状況把握力)	論理的思考力 (探究する力)
1位	究タイム (27.3%)	究タイム (36.9%)	進路(検定・受験等) (40.2%)	部活動 (38.8%)	究タイム (39.7%)	究タイム (53.1%)
2位	学校行事 (25.0%)	部活動 (28.5%)	部活動 (23.5%)	究タイム (22.9%)	授業 (29.5%)	授業 (38.9%)
3位	部活動 (24.4%)	授業 (20.1%)	授業 (16.2%)	授業 (14.7%)	部活動 (19.2%)	部活動 (3.7%)

※ () 内は割合 ※ 「究タイム」は「総合的な探究の時間」のこと

5 多様な活動の場面で活用・発揮し、富士市になくてはならない学校へ



探究学習で培った力を多様な教育活動で活用・発揮し、地域とともに未来を創る人材を育成

富士市になくてはならない学校を目指して

〔第2章〕

②学校概要、教育コンセプト、取組実績と現状

3 富士市立高校の取組実績と現状

【総合探究科の特色】

幅広い知識や教養と、自律の姿勢を養う。2年次から文理に分かれ、大学進学後を意識した学習のノウハウを学ぶ専門学科

「探究」に必要なものの見方・考え方・実践する力を養う。各教科や学校の教育活動全体で探究を意図して行っていく。

学年	単位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
1年次		現代の国語		言語文化		公共		化学基礎			生物基礎		体育		保健		芸術Ⅰ		家庭基礎		理数数学Ⅰ				総合英語Ⅰ				探究タイム（総探）		LHR		研究実践	
2年次	文系	論理国語		古典探究		歴史総合		探究日本史	地学基礎		体育		保健	情報Ⅰ	理数数学Ⅱ				総合英語Ⅱ		ディベート・ディスカッションⅠ	探究人文	探究社会	探究タイム（総探）	探究自然α	LHR	研究実践							
	理系					地理総合		探究世界史	探究生物・化学基礎※1	探究数学												探究自然												
3年次	文系	論理国語		探究古典		地理総合		探究世界史		探究日本史※2	探究政治・経済・社会・文化		体育		選択科目 （4単位） 系列Ⅰ・Ⅱ ×2科目				理数数学Ⅱ		総合英語Ⅱ		エッセイライティングⅠ		探究人文	探究社会	探究自然β	LHR	研究実践					
	理系			歴史総合		探究生物・化学基礎※2		探究生物・化学基礎※3		探究数学特論	探究数学	探究自然																						

選択科目4単位は、現代の国語演習、古典探究演習、地理総合演習、日本史探究演習、世界史探究演習、政治・経済、化学基礎演習、生物基礎演習、簿記、フードデザイン、理数数学Ⅰ演習、理数数学Ⅱ演習、スポーツⅥ、総合英語ⅠⅡ演習

〔第2章〕

②学校概要、教育コンセプト、取組実績と現状

3 富士市立高校の取組実績と現状

【ビジネス探究科の特色】

ビジネスを理論的、実践的に学ぶ。進学や高度な資格取得に対応する
専門学科

「探究」に必要なものの見方・
考え方・実践する力を養う。
各教科や学校の教育活動全体
で探究を意図して行っていく。

単位 学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
1 年次	現代 の国語		言語 文化		公 共		数 学 Ⅰ			数 学 A		科 学 と 人 間 生 活		体 育		保 健	芸 術 Ⅰ		ケ ー シ ヨ ン Ⅰ 英 語 コ ミ ュ ニ			ビ ジ ネ ス 基 礎		簿 記					究 タ イ ム （ 総 探 ）		L H R	企 業 研 究	
2 年次	論 理 国 語		文 学 国 語		歴 史 総 合		数 学 Ⅱ 数 学 Ⅰ A 基 礎 演 習			生 物 基 礎 化 学 基 礎		体 育		保 健	ケ ー シ ヨ ン Ⅱ 英 語 コ ミ ュ ニ		論 理 ・ 表 現 Ⅰ		家 庭 基 礎		マ ー ケ テ ィ ン グ	財 務 会 計 Ⅰ		原 価 計 算		情 報 処 理		テ ー マ 探 究	究 タ イ ム （ 総 探 ）	L H R	企 業 研 究		
3 年次	論 理 国 語		文 学 国 語		地 理 総 合		選 択 （ 地 歴 ・ 商 ） 日 本 史 探 究 世 本 史 探 究 観 光 ビ ジ ネ ス			体 育		選 択 科 目 （ 6 単 位 ） 系 列 Ⅰ ・ Ⅱ ・ Ⅲ 2 単 位 × 3 科 目						ケ ー シ ヨ ン Ⅱ 英 語 コ ミ ュ ニ		論 理 ・ 表 現 Ⅱ		課 題 研 究			マ ネ ジ メ ン ト ・ ビ ジ ネ ス ・		財 務 会 計 Ⅰ		L H R	企 業 研 究			

選択科目6単位は、現代の国語演習、日本史探究演習、世界史探究演習、数学B、数学IⅡA演習、化学基礎、生物基礎、化学基礎演習、生物基礎演習、英語コミュニケーションIⅡ演習、観光ビジネス、ソフトウェア活用、フードデザイン、スポーツVI

〔第2章〕

②学校概要、教育コンセプト、取組実績と現状

3 富士市立高校の取組実績と現状

【スポーツ探究学科の特色】

心身を鍛え、スポーツを科学的、理論的に学ぶ、静岡県内高校で唯一の
スポーツ専門学科

「探究」に必要なものの見方・
考え方・実践する力を養う。
各教科や学校の教育活動全体
で探究を意図して行っていく。

単位 学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33		
1 年次	現代 の国語		言語文化		公共		数学Ⅰ			数学A		科学と人間生活		保健		芸術Ⅰ		英語 コミュニケーションⅠⅡ			家庭基礎		スポーツ概論	スポーツⅠ	スポーツⅡ	スポーツⅢ	スポーツⅣ	スポーツⅤ	スポーツ総合演習		探究タイム（総探）		LHR	野外活動（スポーツⅤ）	
2 年次	論理国語		文学国語		地理総合		歴史総合			数学Ⅱ		化学基礎 生物基礎		保健		英語 コミュニケーションⅡ		論理・表現Ⅰ		情報Ⅰ		スポーツ概論	スポーツⅠ	スポーツⅡ	スポーツⅢ	スポーツⅣ	スポーツⅤ	スポーツⅥ	スポーツ総合演習		テーマ探究	探究タイム（総探）	LHR	野外活動（スポーツⅤ）	
3 年次	論理国語		文学国語		地理探究 日本史探究 世界史探究			地理演習 世界史演習 日本史演習			数学B 化学基礎 生物基礎			化学・生物基礎演習		選択科目（4単位） 系列Ⅰ・Ⅱ 2単位×2科目			英語 コミュニケーションⅡ		論理・表現Ⅱ		スポーツ概論	スポーツⅠ	スポーツⅡ	スポーツⅢ	スポーツⅣ	スポーツⅤ	スポーツⅥ	スポーツ総合演習		スポーツ探究Ⅰ		LHR	野外活動（スポーツⅤ）
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33		

選択科目4単位は、現代の国語演習、数学ⅠⅡA演習、数学ⅠⅡAB演習、英語コミュニケーションⅡⅢ演習、簿記、ソフトウェア活用、フードデザイン、スポーツⅥ演習

〔第2章〕

②学校概要、教育コンセプト、取組実績と現状

3 富士市立高校の取組実績と現状

【部活動と実績】

<運動部>

陸上、野球、サッカー、ゴルフ、男女テニス、女子バレーボール、男女バスケットボール、柔道、剣道、弓道、水泳卓球、チアリーダー

<文化部>

吹奏楽、ギター、ビジネス、商業情報、箏曲、茶華道
総合カルチャー（JRC・デジタル・書道・囲碁将棋・英会話等）

<生徒会執行部>

生徒会

〔第2章〕

②学校概要、教育コンセプト、取組実績と現状

陸上部(全国大会)

100M 優勝 200M 3位
800M 優勝 100MH 4位



チアリーダー部(東海大会)

SONG/POM部門S編成2位
全国大会 出場



サッカー部
(東海大会)
(県大会)

プリンスリーグ東海
第3位

〔第2章〕

②学校概要、教育コンセプト、取組実績と現状

男子テニス部(県大会) ベスト8



野球部(県大会)
ベスト16

吹奏楽部(県大会)
県吹奏楽コンクール金賞



商業情報部 東海大会出場
(県大会)電卓の部団体5位、個人2人



〔第2章〕

②学校概要、教育コンセプト、取組実績と現状

施設・設備の充実

- 人工芝グラウンド
- 人工芝テニスコート(夜間照明)



〔第2章〕

②学校概要、教育コンセプト、取組実績と現状

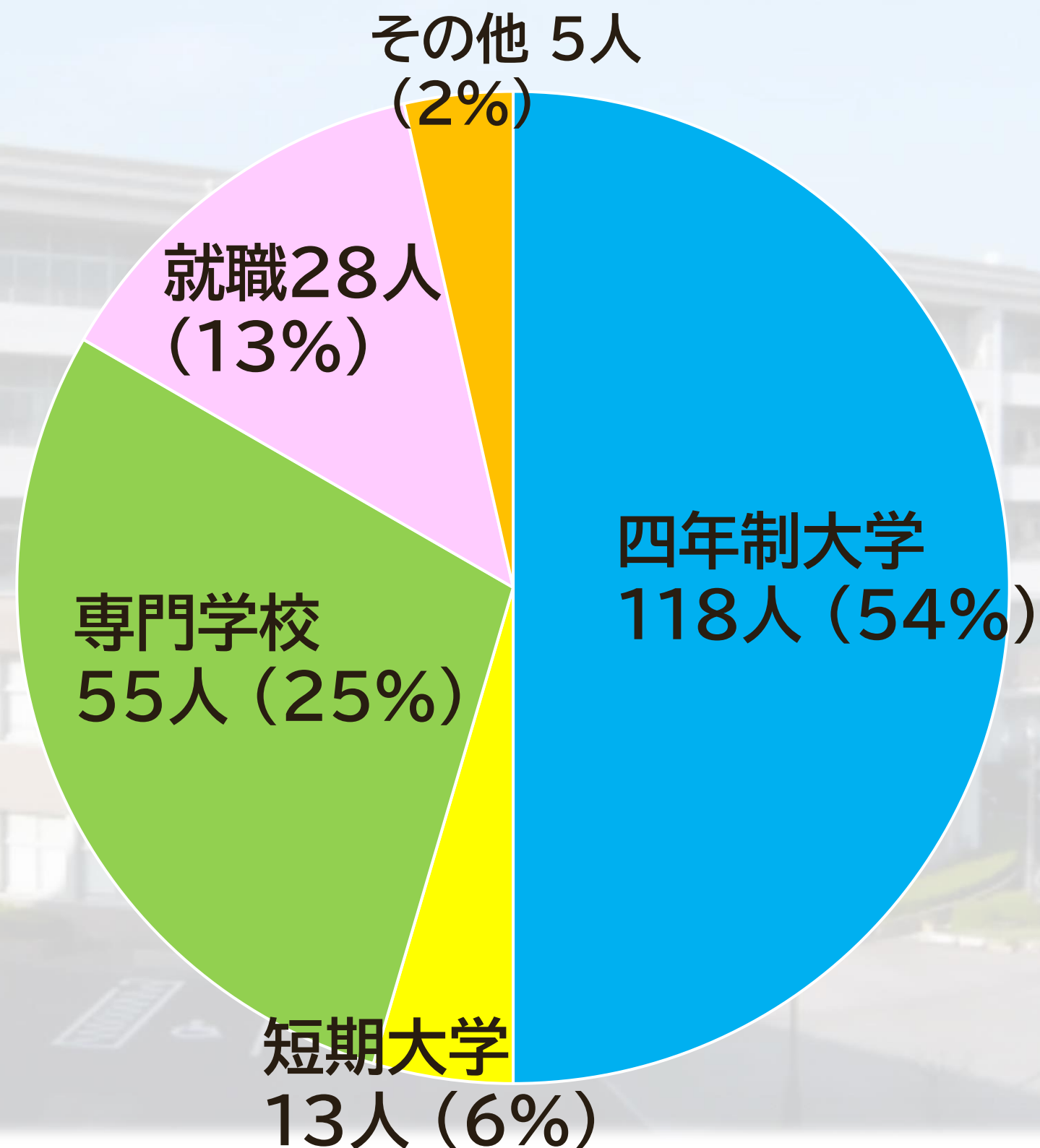
施設・設備の充実

- 練成館(合宿所、食堂)
- CG教室、PIRroom 3教室
- 50mプール
- 全教室にエアコン・プロジェクター完備



13期生(令和7年度卒業生)の進路状況

四年制大学・短大等の進学、地元企業への就職



主な進路実績（令和7年度）

四年制大学（118人） 国公立 5人

筑波大学(人文・文化学群), 高知大学(理工), 都留文科大学(教養)
静岡文化芸術大学(文化政策), 山形県立米沢栄養大学(健康栄養)

立教大学(経営), 専修大学(商), 神奈川大学(経済等), 亜細亜大学(経済)
常葉大学(外国語・教育・経営・健康科学・保育・法等), 駒沢大学(文)
明治学院大学(国際), 玉川大学(経営), 帝京大学(教育),
日本体育大学(体育), 南山大学(経営), 横浜桐蔭大学(スポーツ)等

短期大学（13人） 国公立 1人

静岡県立大学短期大学部(社会福祉), 常葉大学短期大学部(保育)
小田原短期大学(食物栄養), 静岡英和学院大学短期大学部(食物衛生)
山梨学院短期大学(食物栄養), 山野美容芸術短期大学(美容総合)等

主な進路実績（令和7年度）

専門学校（55人）

静岡県立看護専門学校，富士市立看護専門学校，沼津市立看護専門学校，静岡市立清水看護専門学校，おだわら看護専門学校
静岡医療センター付属静岡看護専門学校，大原公務員医療観光専門学校
横浜ビューティーアート専門学校，静岡デザイン専門学校 等

就職(28人)

警視庁，公務員（自衛官候補生），熱海市消防，富士信用金庫
富士伊豆農業協同組合，藤枝MYFC，(株)エイワンススポーツプラザ
旭化成（株）富士支社，日本郵政（株），（株）たこ満，テルモ(株)
東京電力パワーグリッド（株）アイエイアイ，日本製紙（株）
ダイハツ沼津販売株式会社、トヨタカローラ静岡株式会社
三菱電機(株)， 日本製紙(株)， 富士宮通運(株) 等

〔第2章〕

③改革実施計画検証後の在り方とその後の取組

4 改革実施計画検証後の在り方(2021-30の方向性)

令和元年度～2年度 「改革実施計画の検証に係る有識者会議」

(1)探究学習(I)についての提言

(2)地域協働(C)についての提言

(3)キャリア教育(D)についての提言

(4)その他(組織運営や3学科の今後)についてのご提言



本校の「守るべきスタイル」と「レベルアップを図るための方向性」
を今後を示すものとして、「**ステートメント**」の形で総括した

〔第2章〕

③改革実施計画検証後の在り方とその後の取組

4 改革実施計画検証後の在り方(2021-30の方向性)

検証の対象	ステートメントの要旨
地域協働(C)	・地域から愛される魅力ある学校 ・地域教育の拠点化を目指す ・多面的な地域交流事業で市への貢献
キャリア教育(D)	・「本物と出会う体験」、「社会とつながる学び」 ・主体性の尊重、自己管理能力の育成 ・学習や経験を未来へつなぐ進路指導
探究学習(I)	・教育の柱とし、教育活動の全般で実践する ・取組の幅を広げ、かつ、活動のレベルを上げる ・各教科への理解を探究的な手法で深める ・斬新な発想とパイオニア精神で新分野に挑戦

〔第2章〕 ③改革実施計画検証後の在り方とその後の取組

5 改革実施計画検証後の本校の取組

令和4年3月 第二次改革実施計画を策定し、改革推進

改革実施	ステートメントを受けて策定したこと
地域協働 (C)	1 地域交流の拠点(ナイトウォーク、地域交流ミーティング、総合型地域クラブ連携) 2 社会教育の拠点(学校開放計画の作成、外部主催事業への協力) 3 生涯学習の推進(ALTと楽しく話そう英会話、生徒参加コミュニティ講座)
キャリア 教育(D)	1 地域との連携推進(市役所、大学、NPO主催の人材育成事業への参加) 2 「本物と出会う」機会の充実(講演会、職業人講話、各種体験会の案内) 3 卒業後の姿をイメージできる機会(大学、職場、卒業生とつながる機会)
探究学習 (I)	1 「究タイム」や各教科での外部連携と協働の推進(学校全体で探究実践) 2 地域課題×探究学習及び学習成果へのフィードバックを強化 3 探究学習の成果の可視化、アンケートや外部アセスメントの利活用 4 新たな提携先の開拓、コンソーシアム構築の検討、各教科の探究プログラム開発を支援

〔第2章〕

④財政面からみる市立高校(高校教育費)

1 令和8年度歳出当初予算額

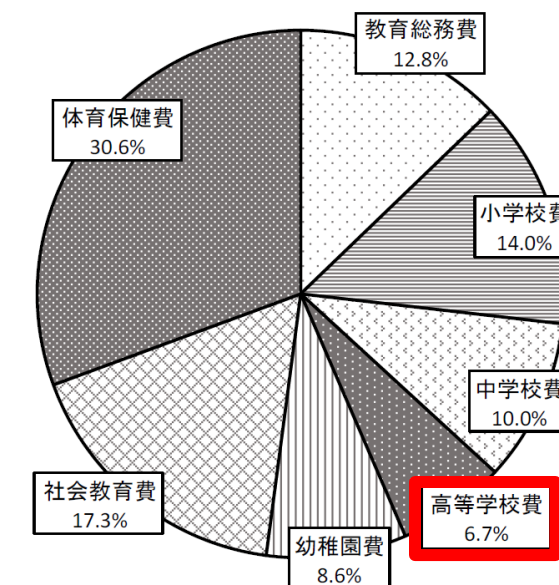
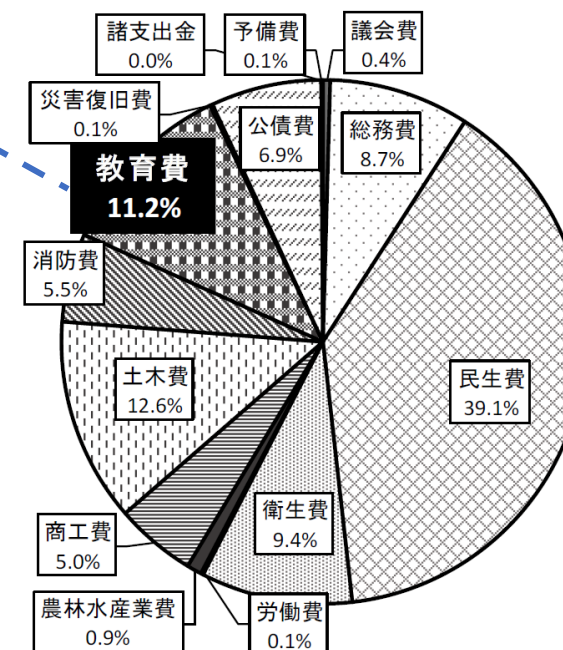
(単位:千円)

区分	年度	令和8年度 当初予算額 (A)	令和7年度 当初予算額 (B)	令和6年度 当初予算額 (C)	比較増減	
					(A) - (B)	(A) - (C)
一般会計予算総額		110,800,000	104,500,000	101,800,000	6,300,000	9,000,000
教育費総額		12,402,939	13,345,799	17,016,181	△ 942,860	△ 4,613,242
教育費の割合		11.2%	12.8%	16.7%	△ 1.6ポイント	△ 5.5ポイント

出典:ふじの教育
作成:富士市教育委員会

2 令和8年度一般会計歳出予算と教育費予算

款	予算額	構成比
議会費	488,451	0.4%
総務費	9,616,154	8.7%
民生費	43,341,693	39.1%
衛生費	10,396,106	9.4%
労働費	159,963	0.1%
農林水産業費	1,010,897	0.9%
商工費	5,525,329	5.0%
土木費	13,904,324	12.6%
消防費	6,082,682	5.5%
教育費	12,402,939	11.2%
災害復旧費	164,720	0.1%
公債費	7,606,642	6.9%
諸支出金	100	0.0%
予備費	100,000	0.1%
歳出合計	110,800,000	100.0%



項	予算額	構成比
教育総務費	1,587,267	12.8%
小学校費	1,734,997	14.0%
中学校費	1,235,930	10.0%
高等学校費	836,164	6.7%
幼稚園費	1,070,012	8.6%
社会教育費	2,140,689	17.3%
体育保健費	3,797,880	30.6%
教育費合計	12,402,939	100.0%

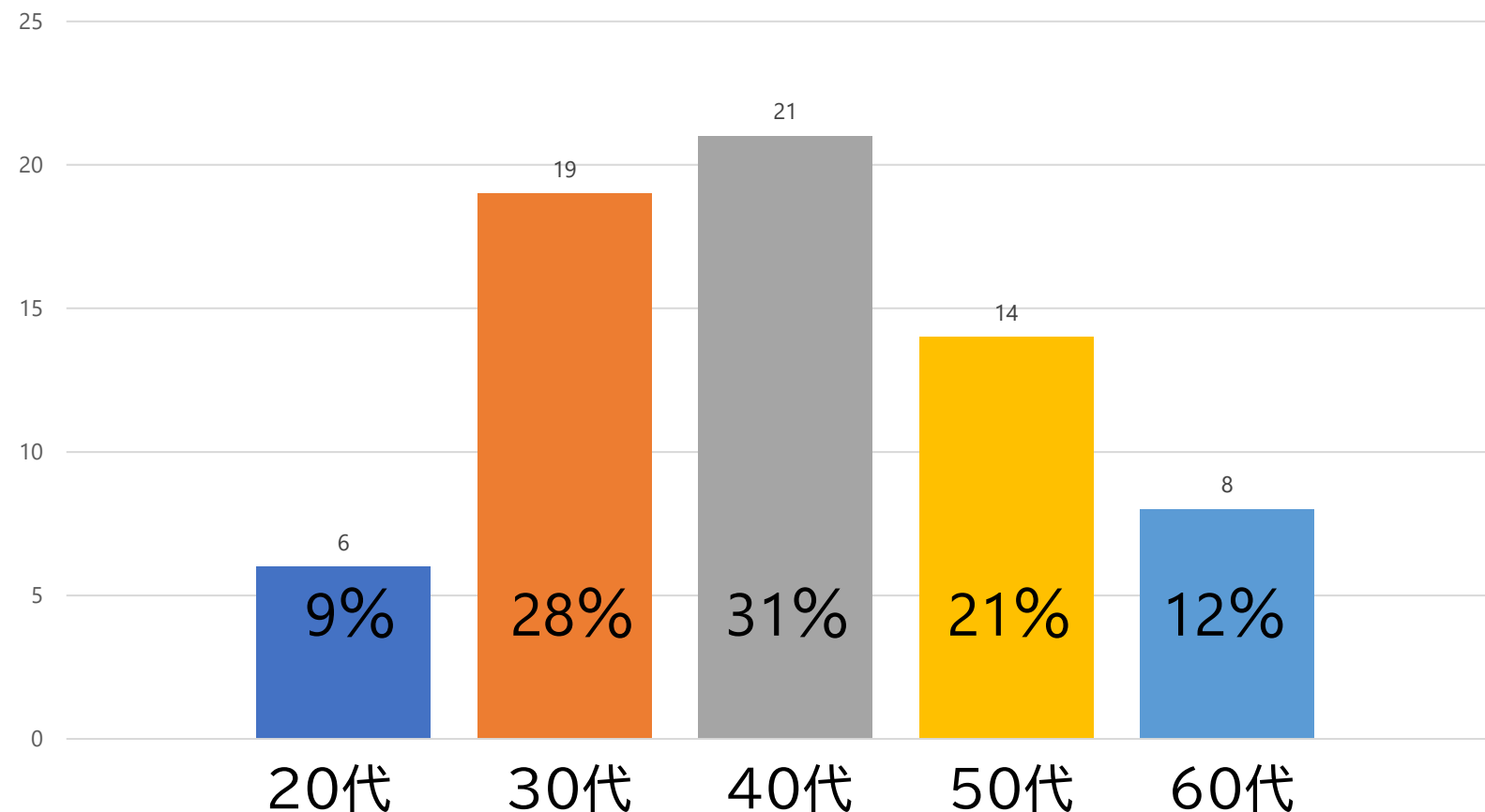
〔第2章〕

④財政面からみる市立高校(高校教育費)

3 教職員年齢構成・経費等

出典:ふじの教育
作成:富士市教育委員会

富士市立高校 教職員年齢構成



◆富士市立高校教職員 計68人
 うち任期付・臨時任用 14人
 うち市単採用者 3人
 他 会計年度職員 37人

◆年間の人件費 (R5～R7平均)
 ・一般職員 約6億3,500万円
 ・会計年度職員 約 6,000万円
 ※高等学校費のおよそ7割程度

〈 参考 〉 教育費決算額及び高校運営コストの推移

(単位:千円)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
教育費合計	10,768,932	10,910,879	11,311,944	13,491,054	17,112,055	13,345,799	12,402,939
高等学校費	812,056	780,052	918,435	847,266	1,118,387	1,015,831	836,164
割合	7.5%	7.1%	8.1%	6.3%	6.5%	7.6%	6.7%

※令和7・8年度の金額は、教育費当初予算額内訳に示された歳出費

〔第3章〕 審議会への諮問

◆市立高校を持つ意義と検討の視点

◆審議会で議論いただきたいこと

①諮問の基本軸

②諮問の具体と論点整理

〔第3章〕 ①諮問の基本軸

富士市立高等学校を、どのように
魅力化・価値付けさせるか。

〔第3章〕 ②諮問の具体

富士市立高等学校の一層の魅力向上を図るため、学校魅力化に向けた基本的な方向性について審議されるとともに、これを実現するための具体的な方策について答申されたい。

また、必要に応じて、学科構成、教育課程、学校行事等の見直しを含む学校運営の在り方についても検討を加え、答申されたい。

〔第3章〕 ②論点の整理

- 1 当局から「学校魅力化の2つの方向性」を提示
- 2 当局の考える学校の方向性が妥当か審議
- 3 方向性を定め、実現に向けた具体的方策を審議
- 4 学校の現状と方策を整理し、学校運営の在り方等について審議
- 5 上記の検討を経て、その内容を答申書にまとめる

〔第3章〕 審議会への諮問

◆市立高校を持つ意義と検討の視点

学校の姿(理念)	必要な視点
市の意思を教育に反映できる高校	市の施策との 一体性
地域課題と直結した学びを設計できる高校	地域課題解決との 接続性
地域の人材育成の拠点として機能する高校	市民にとっての 便益・貢献性
県立高校には出しにくい明確な特色を持つ高校	教育政策上の 独自性 県立高校に 代替困難な領域 の有無

富士市立高校の役割と存在意義（イメージ図）

～未来を見据え、地域とともに、富士市の未来を創る高校～

将来にわたり持続可能な学校像

-  少子化の中でも
選ばれ続ける魅力ある高校
-  時代の変化に対応し、
学びを進化させ続ける
-  地域とともに成長し、
持続可能な学びの場を創出

市立＝市の意思を教育に反映できる高校

-  富士市の教育方針・施策と連携し、
市のビジョンを教育に反映
-  市の課題やまちづくりの方向性を
学びに取り込み、実践的に推進
-  市の関係部局・地域・企業等と
連携しやすい設置主体

富士市立高校

富士市の未来を担う人材を育成し、
地域とともに持続的に発展する
学びの拠点

地域課題と直結した学びを設計できる高校

-  富士市が抱える課題（防災・環境・産業・
まちづくり・福祉など）を学びのテーマに
-  探究・実践を通じて、課題解決に
挑む力を育成
-  地域フィールドワークや市民協働など、
実社会とつながる学びを実現

県立高校には出しにくい特色を明確化できる高校

-  市立だからこそ実現できるユニークな
教育内容・学校文化を追求
-  柔軟なカリキュラム編成や先進的な
教育プログラムに挑戦
-  国際・デザイン・データサイエンス・
地域創生など、多様な特色を展開

地域人材育成の拠点として機能し得る高校

-  地域企業・団体と連携し、
インターンシップや
共同研究を推進
-  地域で活躍する
人材を育成し、
地元定着につなげる
-  卒業生・地域人材の
ネットワークを形成し、
地域の未来を支える
-  生涯学習や地域活動の
拠点として、
市民にも開かれた学校へ

富士市の
未来

富士市の未来を創る人づくり × 地域の活力向上 × 持続可能なまちづくり
～市立高校が、富士市の未来の原動力に～

地域の
未来

〔第4章〕 市立高校 未来への2つの方向性

①「学校魅力化に向けた2つの方向性」についての提案

◆A案 強み深化型 ... 既存の特色と強みを先鋭化する

◆B案 ゼロベース再設計型 ... 教育コンセプトを
抜本的に見直す

②上記の審議を深めるための「市民の声」の聴取について

A案：強み深化型

～既存の特色と強みを先鋭化し、県立高校と一線を画す学校へ～

基本コンセプト

これまで培ってきた特色を磨き上げ、
県立高校と一線を画す学校にする



現在の強み

- 先進的な探究学習の取組**
ベンチマーク化・ルーブリック
による適切な評価とフィードバック
- 積極的な地域交流・
地域貢献の取組**
市立＝市の高校として、
県立にできない地域貢献色を実践
- 非認知能力の可視化**
定量化しにくい力を評価し、
生徒の成長を支援

強化イメージ

- 探究学習の体系化・高度化**
PBL・課題探究の質と量を向上
評価指標をさらに洗練
- 地域課題解決学習の全校展開**
地域をフィールドにした学びを
カリキュラムの中心に
- 地元企業・大学・行政との
連携強化**
協働プロジェクト・インターンシップ等
を拡充
- 成果の見える化による
ブランド形成**
成果を発信し、選ばれる学校へ

イメージ



検討の視点

- 探究学習の質・深さをどう高めるか
- 地域連携をどう全校・継続的に
仕組み化するか
- 生徒の成長をどう可視化し、価値化するか
- 学校の強みをどう発信し、
志願者増につなげるか
- 教員組織・体制をどう強化するか

この案の特徴

- ✓ 既存資産を活かしやすい
- ✓ 比較的实现可能性が高い
- ✓ 段階的に強化し、効果を検証しやすい
- ✓ 抜本的な差別化に至るかが課題

B案：ゼロベース再設計型

～2040年を見据え、全く新しい学校として再スタート～

基本コンセプト

教育コンセプトを抜本的に見直し、
時代や社会ニーズに合致した
全く新しい学校として再スタートする



検討の視点(キーワード)

- グローバル・グローバルリーダーの育成
- 実学系教育の充実
- アントレプレナーシップ(起業家精神)
- 多様なニーズへの対応(多様な学びの選択肢)
- エンパワーメント(主体性・自己実現)
- リアルとデジタルの融合
- 文理融合型の学び
- 理数と文系的素養を持ち合わせ
AIを使いこなす力
- 高大連携・産学官連携の強化

学校像のイメージ例

- 地域産業共創高校** 地元企業との連携を強化
し、地域産業を支える即戦力人材を育成する学校
- 新産業(未来事業)創出高校** 起業家精神を育
み地域から新たな産業や事業を創出する力を養う学校
- デジタル×地域共創高校**
デジタル技術で地域と世界をつなぐ学校
- 産業DX高校** 文理融合×探究、地元企業の現場
を理解しDXを実践できる即戦力人材を育成する学校

その他の可能性

国際バカロレア型、専門高校との連携型、
フレキシブルな学びの拠点型など

イメージ(コンセプト図)



この案の特徴

- ✓ 大きな差別化が可能
- ✓ 将来志向で発信力がある
- ✓ 多様な生徒ニーズに応えやすい
- ✓ 高い教育効果・社会的インパクトが期待できる
- ✓ 制度設計、教員体制、財政面等のハードルが高い

〔第4章〕 ①「学校魅力化に向けた2つの方向性」

富士市立高校の在り方検討の視点

審議会では、富士市立高校の在り方を検討いただくにあたり、以下の3つの観点からご意見をいただきます。

1

学校の魅力

(審議会の主眼)

2

実現性

(必要に応じてご検討)

3

持続性

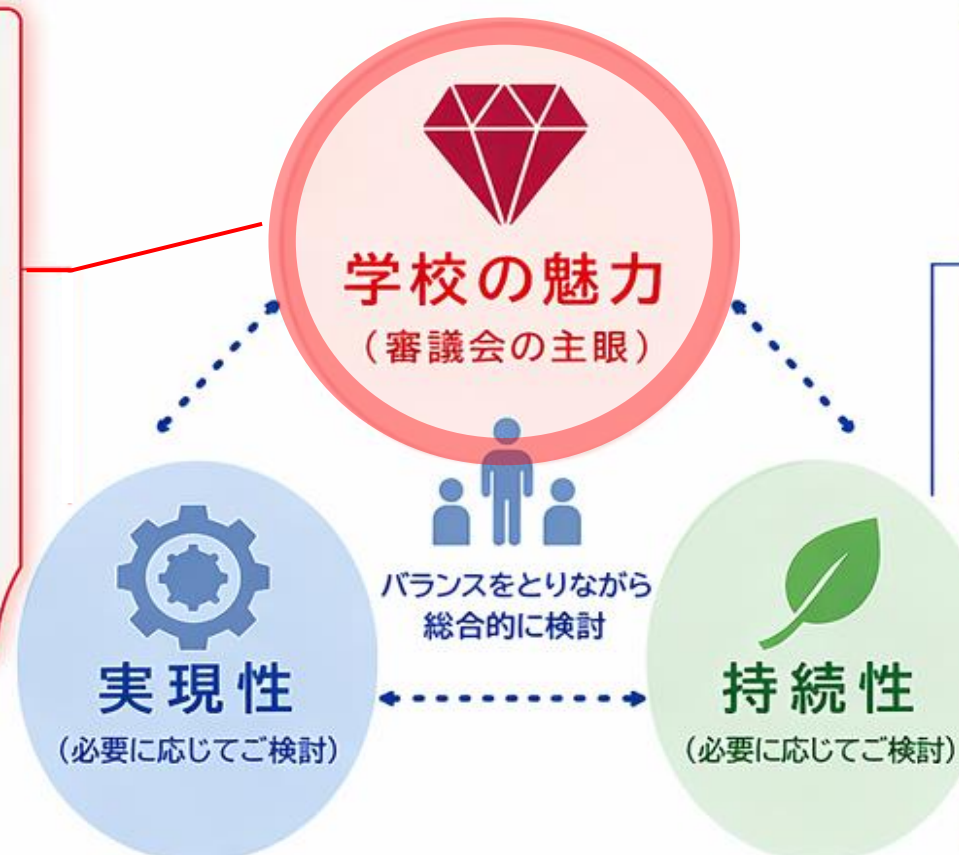
(必要に応じてご検討)

審議会では教育関係の有識者であることから、「1 学校の魅力」を中心に幅広くご議論・ご提言をお願いします。
なお、「2 実現性」や「3 持続性」についても、可能な範囲でご検討いただくことを希望します。

【学校の魅力】(主にご検討いただく視点)

- 富士市の未来を切り拓く人材を育成する教育の在り方
- 生徒の多様な可能性を引き出す魅力ある学びの環境
- 地域や産業界などとの連携・協働による特色ある学校づくり
- 市民に愛され、選ばれる学校となるための魅力向上策

※必要に応じて、実現性や持続性に関するご意見もお願いします。



【実現性】(必要に応じてご検討いただく視点)

- 教育内容や学校運営の実現可能性
- 教員の確保や人材育成の見通し
- 施設・設備の整備や活用の実現性
- 関係機関・地域との連携体制の構築

【持続性】(必要に応じてご検討いただく視点)

- 財政負担に見合う効果や意義
- 中長期的な視点での持続可能な運営
- 将来の社会・経済環境の変化への対応
- 教職員や専門人材の確保・定着の見通し

検討の流れ (イメージ)

審議会による検討・答申
(主に魅力を中心に)



審議会の答申を受け、各所と調整

県教育委員会との調整
(学科配置・人事面など)



市長部局(財政部)との調整
(予算・コスト面など)



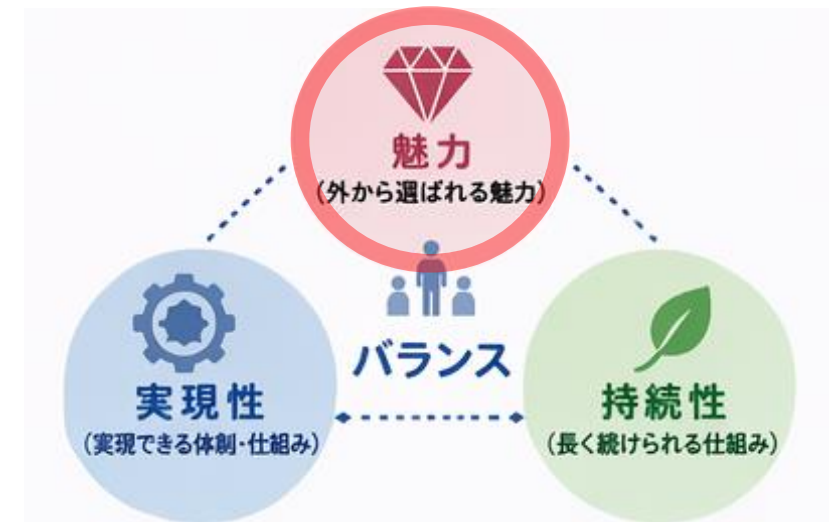
新しい市立高校の
具体化・実現へ

※審議会でのご意見を踏まえ、関係機関との調整を行いながら、富士市にふさわしい新しい市立高校の姿を目指します。

〔第4章〕 ①「学校魅力化に向けた2つの方向性」

A案・B案を比較する評価軸

学校の魅力・実現性・持続性



	A案:強み深化型	B案:ゼロベース再設計型
①募集力の向上につながるか	既存の強みを磨き、魅力を強化	新しいコンセプト、強い発信力
②県立高校との差別化(分担)	強みの先鋭化により一定の差別化	「抜本的に異なる学校」で明確な差別化
③市立高校としての必要性	地域とのつながりを活かしやすい	未来志向の教育で市立の存在意義を創出
④地域への貢献、人材育成	地域との連携・貢献を深化	地域の未来を創る人材育成に直結
⑤教職員体制上、実現可能か	既存の体制で取り組みやすい	教員体制の再構築が必要
⑥財政負担に見合う効果は	投資規模が小さい 効果が見えやすい	初期投資・運営コストが大きい可能性 新たな取組に対する期待感
⑦中長期的に持続可能か	現状の延長で持続しやすい	設計次第で接続可能(制度・財源が鍵)

〔第4章〕 ②「市民の声」の聴取について

◆ 「市民の声」をいただく前提（質問設計の考え方）

目的は、単に「人気が出る学校は何か」を聞くのではなく

・富士市立高校が、富士市にとってどんな価値を持つべきか

・地域の将来を支える学校として、どんな改革が必要か

を把握することと考え、以下の3層を意識し質問設計する

1. 学校の存在意義を問う質問 -市立高校は地域にとって何を担うべきか-

2. 求める教育内容を問う質問 -どんな学び・学科・支援が必要か-

3. 選ばれる条件を問う質問 -何があれば進学先として選ばれるか-

〔第4章〕 ②「市民の声」の聴取について

◆ 「市民の声」をいただく手段と内容整理

市民アンケート	手 段 内容整理	こどもの意見聴取
無作為抽出 富士市民2000人	対象	市内中学生 中学2年生・中学3年生
郵送によるアンケート用紙の送付 回答はQRコードによる電子受付	手段	市内中学校への依頼 GIGAタブレットへの配信と回答
●地域から見た高校の役割と期待 ●高校に育ててほしい力 ●学校と地域の関係、地域貢献 等について広く聞く	基本方針	●進学先として「選びたい／選ばない」の判断基準 ●実際に魅力を感じる学び ●望む学習環境・支援を具体的に聞く
「地域に必要とされる高校」、「富士市に貢献する高校」を実現するためには何が必要かを把握する	目的	「進学先として選ばれる学校」になるために何が必要かを把握する

〔第4章〕 ②「市民の声」の聴取について

富士市立高校が魅力的で選ばれるために必要なこと

～あなたの声が、これからの富士市立高校をつくれます～

♡ 学校への期待



生徒一人ひとりの個性を伸ばし、夢や目標の実現をサポートしてほしい

🧩 今の教育に足りないもの



探究・体験・対話など、主体的に学ぶ機会がもっとほしい

🌱 将来必要な力



課題解決力・コミュニケーション力・情報活用などを身につけたい

★ 特色ある学び



富士らしさを活かした学びや、本校ならではの特色をつくってほしい

📈 進学・就職支援



一人ひとりの希望に寄り添い、進路実現をしっかりサポートしてほしい

📢 学校の魅力発信



市内外に向けて、学校の魅力や取り組みをもっと発信してほしい

あなたのご意見をお聞かせください

少子化の加速や私立高校授業料の実質無償化にともない、公立高校の定員割れが深刻化しています。
富士・富士宮地区でも、県立高校の統廃合が決定し、再編事業が進んでいきます。
このたび、富士市は高校再編に伴い、富士市立高校の在り方について広く富士市民に向けてアンケートを聴取することになりました。

♡ 安心して通える環境



安全・安心な校舎や、いじめのない温かい学校づくりを進めてほしい

🤝 地域との連携



地域とのつながりを深め、まちとともに歩む学校になってほしい

「富士市立高校が魅力的で選ばれるために必要なこと」についてお聞きます



学校への期待



今の教育に足りないもの



将来必要な力



特色ある学び



進学・就職支援



安心して通える環境



学校の魅力発信



地域との連携

富士市の未来をともに創るために、皆さんの声をお寄せください。

作成：富士市教育委員会

〔第4章〕 ②「市民の声」の聴取について

富士市立高校を「選びたい」と思える学校にするために

中学2・3年生
対象アンケート

～中学2・3年生のみなさんの声が、未来の富士市立高校をつくれます～

♡ あなたが進学先を選ぶときに大切なこと

どんな学校なら
「選びたい」と思いますか？

何を基準に学校を
選びますか？



あなたが進学先を選ぶときに
重視するポイントを教えてください。

🧩 魅力を感じる学び・授業



「こんな授業が受けてみたい！」
「こんな学びがあったら魅力的！」
と思うものを教えてください。

🌱 魅力を感じる環境・施設



「こんな校舎・設備があったらいいな！」
「こんな学校の雰囲気だと通いたい！」
と思う環境を教えてください。

★ 魅力的な支援・サポート



「こんなサポートがあったら安心！」
「将来の夢や進路につながる支援がほしい！」
と思うことを教えてください。

📈 部活動・学校生活での魅力



「こんな部活動に入りたい！」
「こんな学校行事やイベントが楽しそう！」
と思うことを教えてください。

あなたの声が、未来の学校をつくれます！

富士市立高校が、みなさんにとって

より魅力的な学校になるよう、

あなたの声をぜひ聞かせてください！

♡ その他・自由な意見



「これは大事だと思う！」
「こんな高校ができたらいいな！」
など、自由に意見を聞かせてください。

📢 アンケートのお願い



スマホやタブレットで
簡単に回答できます！

みなさんの声が、
未来の富士市立高校を
つくる力になります！

このアンケートでは、こんなことをお聞きします

♡	📖	🌱	★	📈	💬
進学先を選ぶときに 大切なこと	魅力を感じる 学び・授業	魅力を感じる 環境・施設	魅力的な 支援・サポート	部活動・学校生活での 魅力	その他・自由な意見

あなたの一歩が未来を変える！



みなさんの意見を、
これからの富士市立高校づくりに
しっかり活かしていきます！

〔第5章〕 質疑と審議

- ◆ 会長所感
- ◆ 諮問内容の整理と審議の進め方
- ◆ 事務局への質疑・確認等
- ◆ 審議の開始
 - ① 事務局が示した方向性の妥当性について
 - ② 「市民アンケート」「こどもの意見聴取」について

〔第6章〕 総括、その他

- ◆ 次回の審議会について
令和8年 9月 日()予定
- ◆ 今後の事務局と審議会との情報共有について
- ◆ その他(事務連絡等)